令和6年度 いのちの授業 事例集（小学校）【道徳】

掲載数 407

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小1	道徳	【いきているっていいな】 みんないきてる	絵を手掛かりに、日々の生活で実感する身体感覚や感情を思い起こす活動などを通して、生きているよさやすばらしさについて考えさせ、生命を大切にしようとする心情を育てる。	光村図書 「きみがいちばんひかるとき」
2 川崎市	小2	道徳	【生きていることのすごさ】 ぼくのかさぶた	傷が治ったことから、体は毎日新しくなることを知り、生きていることのすばらしさを実感したりつもの姿などを通して、生きていることの不思議やすごさを見つめさせ、生命を大切にしようとする心情を育てる。	光村図書 「きみがいちばんひかるとき」
3 川崎市	小2	道徳	「もうすぐ八さい」	もうすぐ8歳になる「わたし」が、自分の成長を振り返り、毎日少しずつかわってくることを不思議に思う。祖母にそのことを質問すると、「それは、生きているから」だと教えてくれた。その話を聞いた「わたし」は「八年生きたら、もっとかわるかな。百年生きたら、もっともっと、かわるかなあ。」と、自分の成長が楽しみになる題材である。小さなころと比べて自分が変わってきたところを思い出したり、1年生のころと比べた身長のテープを使ったりして、自己を見つめた。生きていると、かわっていくことについて話し合った。	光村図書 きみがいちばんひかるとき
4 川崎市	小2	道徳	「ぼくのかさぶた」	転んでひざを擦りむいた「りつ」。何日かするとかさぶたがめくれてきれいに治った。それを保健の先生に話すと、「それは、生きてるってしょうこだ。」と教えてもらう。「りつ」は、自分の体を見つめながら、自分の体や生きていることのすごさを思う題材である。「生きているって、すごいな。」と思うことを考え、みんなに紹介した。「どんなときに生きていると感じるか」も投げかけた。すると、ご飯を食べること、運動することなど、当たり前なことでも生きているからできていることに気付くことができた。	光村図書 きみがいちばんひかるとき
5 川崎市	小5	道徳	命の詩 - 電池が切れるまで	詩を読み、作者のゆきなさんのその後を知ること、命について考えた。詩を読む前の段階では命について「大切なもの」「無くすと、かわりはないもの」などの考えが出た。そこから詩を読み、作者の伝えたいことを考えることで「生きたくても生きられない人がいる」「決して無駄にしてはいけないもの」と考えを広げることができた。その上でこれから精いっぱい生きるにはどうしたらよいか話し合い、「危ないことはしない」「悔いのないように生きる」「命を大切にすし、友達も助ける」などの考えが発表された。当然ではない命を大切にしていこうと実践する態度が養われた。	教科書

6	川崎市	小2	道徳	命の尊さ	車にはねられ、生死をさまよう主人公や、彼を見守り励ます家族や先生の懸命な姿などを通して、命はどうして大切なのかを話し合った。命は一つしかないからその一つしかない命を大切にしたい、お父さんやお母さんがずっと大切に育ててくれた命だから大切な命、命は自分だけのものではなく、周りの人たちからも大切に思われているということに気付く発言が出された。また、家族に守られているから私は今生きていられるんだなど、自己との関わりの中で命の大切さについて考えを深めている児童もいた。	どうとく2年「きみがいちばんひかるとき」
7	川崎市	小6	道徳	命の尊さ	知床の動物達の生きるための営みなどを通して、多くの生命のつながりの中にあるかけがえのない命だということについて確認し、話し合った。「食物連鎖の中で生き物の命をいただいているから感謝しようと思った。」「同じ地球で生きている者同士の関係にあらためて気付いた。」「何気なく食べていた鮭も壮絶な旅をしていたと知って、もっと感謝をしないとと感じた。」などの意見が出た。自分の命だけでなく、他の生命にも目を向けて関係を考え、命のつながりを意識する気持ちをもっていた。	道徳「命の旅」
8	川崎市	小3	道徳	生命の尊さ	トマトを大切に育てたり、小さな生き物に対して優しく接したりしている登場人物の姿を通して、身の回りの自然や生き物などのかかわりについて考えた。学習を通して、毎日食べている給食への感謝の気持ちをもったり、育てている植物についても、自分と同じ命があることに気づき、大切に育てようとする姿が見られた。	
9	川崎市	小3	道徳	命あるものを大切に 「ヌチヌグスー ジ～命の祭り」	教材の内容として、島の墓参りでオバアに聞いた話から、命のつながりについて考える登場人物の姿を通して、命にはどんな不思議があるのかを考えた。ご先祖様から受け継がれる命の尊さを知り、「命をありがとう」と言った登場人物の思いを想像し、話し合った。また、命について一人ひとり考えたことを話し合った。命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして行った。子どもたちは、「自分が今、ここにいることが奇跡で、命を大切にしないといけない」「今、自分がいることは、当たり前ではないから、命を大切にしたい」などの振り返りがあった。	光村図書 きみがいちばんひかるとき 「どうとく③」
10	川崎市	小4	道徳	生命の尊さ 「生き物と機械」	生き物と機械の違いを考えることを通して、生命とはどのようなものかについて、全員で考えを交流した。そのことで生命は唯一無二のものであり、一生大切にしていけるものであることを再確認した。また、自分の生命だけでなく、友達や動物、植物など、生きとし生けるすべてのものを大切にしようと思えることができた。	光村図書 きみがいちばんひかるとき 「どうとく④」
11	川崎市	小4	道徳	命の不思議さ	生き物と機械の違いを考えることを通して、命とはどのようなものなのかを考え命の尊さを感じ、大切にしようとする心情をはぐくんだ。	「生き物と機械」
12	川崎市	小1	道徳	命の尊さ	生きているからこそできることを話し、生きているとどんないいことがあるかを考えた。命を大切にしようとする心情を育てこれからの学校生活にいかせるようにした。	「いきているって」

13	川崎市	小4	道徳	しかえししないよ	道徳の学習（D、生命の尊さ）で、命は自分が持っている時間であり、命を大切にすることは自分の時間を誰かのために使うことだと知り、今の自分を振り返るとともに、今後より良く生きようとする心情を培うために、日比野重明先生の命のメッセージを中心に自分の命についての学習を行った。	元教頭先生を講師にお迎えして、命について学習をお願いした。様々な資料を用意し、児童と保護者に命の尊さが伝わる学習となった。
14	川崎市	小3	道徳	生命の尊さ「生きている仲間」	主人公が熱心にトマトの世話をしていくうちに、「おいしいトマトを育てたい」という気持ちから「命あるものを大切にしたい」「頑張っって世話をし、元気に育ててほしい」という気持ちに変化したことに気づいていた。トマトの他にも身の回りにある生きている物に気づき、動物・植物などの命を大切にしようという気持ちをもつことができていた。	
15	川崎市	小4	道徳	生命の尊さ 教材名「生き物と機械」	生き物と機械の違いを考えることを通して、生き物に命があることの大切さを学ぶ学習を行った。 授業のはじめでは、命の大切さについて大まかに理解しているもののその大切さを深く理解している様子は見られなかった。その後教材文を読み、生き物は傷を自分で直そうとする力や、痛みを取り除きたいという気持ちが治癒力につながることを知った。すると、命の儚さや一つとして同じものはないこと、人間以外の生き物も大切にすることの必要性、生きていることの感情も大切にすることなど、命の大切さの理解に奥深さが生まれた。	光村図書「きみがいちばんひかるとき4」
16	川崎市	小5	道徳	生命の尊さ 教材名「最後のコンサート」	道徳で内容項目「生命の尊さ」の学習を年間3回行っている。前回まで学習した「命は大切なもの」「一人一人の命は大昔からつながってきたもの」という学習の内容と対比させながら、この教材では「限られた命を精いっぱい生きる」というテーマに焦点化して学習を行った。 教材に出てくるヴァイオリニストの徳永兼一郎さんの話をもとに、命の終わりが見えたとしても最後まで自分のできる精一杯のことをやり切ることの価値について考えた。どんな状況でも支えてくれた人を大切に生きていくことの大事さや、他の病気の人が生きる気力を作れるように努力することなど、最後まで力を尽くして生きていくことの大切さについて考えを深めた。	光村図書「きみがいちばんひかるとき5」
17	川崎市	小1	道徳	生命の尊さ 主題「ちいさなふとん」	内容項目（17）生命の尊さを扱った学習である。小さな布団で眠る生まれたばかりの弟の様子から自分の成長に気付く「わたし」の姿などを通して、成長を感じるときについて考えさせ、生きることのすばらしさを感じ、生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとした。赤ちゃんの人形を用意して、児童が実際に抱いてみる体験をさせると、「小さい」「思っていたよりも重い」「怖い」などのつぶやきとともに、そうっと抱き、「自分もこんなに小さかったんだ」と感じていた。人形だけれど、大事に抱きかかえる姿からは、命の尊さを体感している様子がうかがえた。	・赤ちゃんの人形

18	川崎市	小2	道徳	生命の尊重	題材を基に、自分の成長について振り返った。成長の過程には、身長や体重のような外見の成長。頑張ったや諦めなかったなどの内面の成長など多角的に成長している部分について振り返って、それは「生きている」ことで、できることであることに気付く学習であった。	
19	川崎市	小6	道徳	世界人権宣言から学ぼう	動画を視聴後、道徳の教科書にある「世界人権宣言」30条をクラスで音読。その後、自分がいいなと思った世界人権宣言の条文を1つ選んで発表。次に、自分たちのクラスで特に大事にしたい条文をグループで話し合い、3つ選んだ。第1条みんな仲間だ、第25条幸せな生活を選ぶ児童が多かった。3つ目に第18条考えるのは自由を選んだ児童もその次に多くいたので、自分で自由に考えることやお互いを認め合うことの大切さについて話し合い確認した。	まどみちお「わかりやすい世界人権宣言」の動画を視聴
20	川崎市	小3	道徳	いじめ教育 「いじめと命について考える」	学校生活アンケートで、「友達から嫌な言葉を言われたことがあるか」の問いに「ある」と答えている児童が多く見られた。そこで、「わたしの妹」という実際に起きてしまったいじめの痛ましい様子が描かれた絵本を題材にした。いじめた側・いじめられた側の立場にたって、どんな思いでいるのかを考え、その考えを共有した。いじめは、いかなる理由があっても許されないということと、もし、見かけるようなことがあったら、大人に知らせるなどの方法があることを学んだ。	「わたしの妹」
21	川崎市	小5	道徳	生命尊重	自分にとって命とは何だろうと考え、話し合った。「生きていること」「寿命の長さ」「健康」などの発言が出た。 次に、病気を抱えた主人公が自分の命を精いっぱい使い切って生きたさまを読み、彼女が私たちに伝えたかったことは何かについて考え、出し合った。「限りある命を大切にしてほしい」「今できることを精一杯やしてほしい」などの発言が出た。 振り返りでは、「誰にも寿命の残りはわからないから、一生懸命今できることをしよう」「自分のこと(命)をもっと大切にしていきたい」などの発言をしている子がいた。	学級担任 教材：きみがいちばんひかるとき(光村図書出版)
22	川崎市	小2	道徳	生命の尊さ 「みんながささえるいのち」	道徳の学習で、自転車に乗っていて交通事故にあい、生死をさまよう主人公や家族や周りの人達の姿を通し、命の大切さについて考えた。周りの人は「目を覚ましてほしい。元気になってほしい。という気持ちで励まし続けた。」主人公は「これからの自分の命を大切にしようと考えた。」などの感想から、命の大切さについて話し合い、考えを深めることができた。自分たちも交通事故に気をつけて安全に生活し、周りの人を悲しませないようにしようという意見が多く見られた。	登下校指導
23	川崎市	小6	道徳	生命の尊さ 恋ちゃん 一はじめての「みとり」	道徳の学習で、曾祖母をみとる恋ちゃんの姿を通して、命のすばらしさとはどのようなことか考えた。限りある生命のかけがえのなさを自覚し、命の尊さを再確認することができた。「自分の命、家族や大切な人の命を今まで以上に大切にしたい。」「親が生きているうちに、いっぱい話して大切にしたい。」「命に限りがあるから生きているうちに全力を尽くして、輝きのある人生を送っていきたい。」など、命を大切にするために、今の自分にできることについて考えることができた。	

24	川崎市	小1	道徳	生きてるっていいなと感じるのはどんなとき「いきているって」	体のぬくもりや心臓の鼓動を感じるなど、生きているからこそ実感することを表した詩を通して、生きているとどんないいことがあるかを考えさせ、生命を大切にしようとする心情を育てる。 生きているからできることを考え、自分のことや人とのかかわりを視点に、「友達と遊んだり、勉強したりできる。」「笑うこと」「泣くこと」など、当たり前のことで見過ごしがちな生きている証を実感することができた。	道徳の教科書
25	川崎市	小1	道徳	生命の尊さ「いきているからできること」	「命とは何か?」「命はどこにあるのか?」という問いから始めた。そして、教材文の主人公が「生きているってなんだかいね」と思った理由を話し合った。子どもたちは、「いろいろなことが経験できる。そうすると楽しい、嬉しい、悔しいなどという感情がうまれる」ということに気が付いた。そこから、生きているからできることは何かについて自分の生活を振り返って考えた。命があれば勉強や遊ぶことができ、楽しい気持ちになると、命は大事だと思う姿が見られた。	詩集の中の命に関する詩を紹介した。 光村図書「いきているって」
26	川崎市	小3	道徳	人権教育「一人一人の気持ちを大切に」	まず児童に、「心は体のどこにあるのか」考えさせた。心は心臓にあると思う児童が大半だったが、「心って心臓のことなのかな。」と一人の児童が発言したことで「心臓のことだけではないかもしれない。」と考え、頭にあると思う、胸の中にあると思う等の意見がでた。その後『心ってどこにあるのでしょうか』の読み聞かせを行ったことで、児童は「心臓の方の「心」もあるし、気持ちの方の「心」もある。」ということに気が付いた。そこで「心」のつく漢字を挙げ、どのような感情が込められているのかについて考えた。生きていく中で生まれる様々な「心=気持ち」を大切にするためには、どのようなことをしていきたいか、例を挙げて考えさせた。	(参考資料) このひとみ作『心ってどこにあるのでしょうか?』
27	川崎市	小2	道徳	生命の尊さ「ぼくのかさぶた」	主人公が転んで擦りむいた傷にかさぶたができ、何日か経つとかさぶたがめくれて治った。そのことについてほけんの先生から「生きていると体は毎日新しくなる。かさぶたがなおるのは、生きている証拠。」と教わり、主人公も自分の体のすごさ、生きていることのすごさを感じるという話。この話から、自分自身の体のことを見つめると、毎日「食べる」「運動する」「寝る」といったことが、自分の体を作っているという大切さを感じていた。さらに、生きているからこそ、友達とのやり取り、家族とのやり取りを楽しんでいるんだと感じている児童もいた。	光村図書 「道徳 きみがいちばんひかるとき」
28	川崎市	小5	道徳	「だれもが幸せになれる社会を」	150年前に流行したハンセン病に感染してしまった山内きみ江さんが、感染を理由に法律による差別を受けたという教材内容であった。間違った法律は無くなったが、いまだに差別が残り、解決していないことを訴えた。 この題材を通して自分の自由と幸せについて考えた。学校生活の中ではいじめ問題につながりかねないので、誰もが平等な環境づくりをしていくことが大切であると考え児童が多くいた。	光村図書 「道徳 きみがいちばんひかるとき」

29	川崎市	小3	道徳	内容項目D 「大切なものは なんですか」	虫たちがそれぞれ一番大切なものを話し合う姿などを通して、生命を大切にするという ことはどういうことかを考えた。主に人間の生命の尊さについて考えを深めることが中心 となるが、セミやモンシロチョウなど児童にとって身近な生き物の命の尊さについても話 し合うことができた。命を大切にするために「日々の生活の中で自分ができること」につ いて毎日の生活を振り返りながら考えることを通して「交通安全に気を付ける」「友達 の命も大切にする」などの感想をもつ児童がみられた。	
30	川崎市	小2	道徳	内容項目D 生命の尊さ 「ぼくのかざぶ た」	膝の怪我が治ったことから、体は毎日新しくなることを知り、生きていることのすばら しさを実感した主人公も姿を通して、生きていることの不思議やすごさを見つめ、生命の 大切さについて考えた。「かさぶた」をつくった経験を想起させながら、身近なこととし て考えることができた。自分の体が成長していることについて改めて気づき「当たり前だ とっていたけれど、当たり前じゃない」と感想をもつ児童もいた。また、それらは「生 きているからこそできる」と感動する姿もみられた。	
31	川崎市	小6	道徳	命のかがやき	「命の輝き」とはどのようなものなのかを考える中で、自分の命、その命を支えてきて くれた人々への思いを深めていった。自分の命はもちろん、周りの友達の命もこの世に一 つのかげがえのないものという自覚をもち、これからの人生において大切に尊重してい きたいという思いが芽生えていた。	光村図書「きみが い ちばん ひかるとき」
32	川崎市	小6	道徳	生命の尊さ 命をつなぐ	本文を読む前に「命の旅」というタイトルについて考え、命が旅をするといった疑問を 引き出した。主題に関連付けられるように前時の理科で食物連鎖について学習した。 振り返りには、「他の生き物の命をいただいていることで自分の命があること」や、 「祖先から自分へと命がつながれてきたこと」に気付く記述があった。	担任 6年道徳「命の旅」
33	川崎市	小複合	道徳	ふわふわことば とちくちくこ とば	特別支援学級1～4年生までの児童に、相手の気持ちを考えて気持ちのよい学校生活が 送れることをねらいとして授業を行った。友達からかけてもらう言葉でうれしくなる言 葉、励みになる言葉（ふわふわことば）や、逆にいやな気持ちになる言葉、悲しくなる言 葉（ちくちくことば）を児童に挙げてもらった。ロールプレイを実際にすることでどんな 気持ちになるかを体験した。普段使っている言葉をあらためて意識し、ふわふわことばを より多く使うようにしようという気持ちをもつことができた。	
34	川崎市	小6	道徳	命のかがやき	登場人物の成長を喜び、共に生きることのすばらしさを語る父親の姿などを通して、命 について考えさせ、人とのつながりの中にあるかけがえのない命を大切に、精一杯生 きようとする心情を育てた。子どもたちは障害がある中でも前向きにいくことの大切さや すばらしさを実感した。命のかがやきとはどういったものかを話し合い、話し合いをして いく中で、家族や友達など人とのつながりがあって自分が生きていることや、支えられて いるからこそ、自分も支えていきたいという考えを出し合う姿が見られた。	【教材】 道徳⑥ きみがいちばんひかる とき（光村図書）

35	川崎市	小2	道徳	みんながささえ るいのち	車にはねられた主人公が生死をさまよい、それを見守り励ます家族や先生の懸命な姿を通して、命はどうして大切なのかを考えさせ、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てた。学習を通して、子どもたちからこれからの生き方を見つめ直す姿が見られた。「自分の命がたった一つしかないからこそ、毎日を大切に生きていきたい」と振り返った子どもたちが多く見られた。また「事故に逢わないようにするために交通ルールはきちんと守ったり、周囲を確認したりしたい」と安全意識を高めることができた。	どうとく② きみがいちばんひかる とき
36	川崎市	小4	道徳	しかえししない よ	道徳の学習（D、生命の尊さ）で、命は自分が持っている時間であり、命を大切にすることは自分の時間を誰かのために使うことだと知り、今の自分を振り返るとともに、今後より良く生きようとする心情を培うために、日比野重明先生の命のメッセージを中心に自分の命についての学習を行った。	元教頭先生を講師にお迎えして、命について学習をお願いした。様々な資料を用意し、児童と保護者に命の尊さが伝わる学習となった。
37	川崎市	小1	道徳	生命の尊さ 「いきているっ て」	挿絵や詩を通して、「どんな時に生きていると感じるか」という経験を伝えあった。児童が日常生活の中で感じている、当たり前よさを考えた。改めて自分の生活を見直し、生きていることの素晴らしさについて話し合い、それぞれの考えを広げることができた。	光村図書1年道徳 「みんないきている」
38	川崎市	小3	道徳	身近な自然に目 を向けて 「ヤゴきゅう しゅつ大作戦」	身近な自然に目を向けながら地域に生息している生き物について話し合った。自分たちの身近にもたくさん自然や生き物が生息していて、自然や生き物を守っていきたく考える児童が多かった。そのためには何ができるか話し合い、考えることを通して自然との関りや生命の尊さについて考えを深めた。	光村図書3年道徳 「きみがいちばんひか るとき」
39	相模原市	小1	道徳	命を大切にす るってどうい うこと？「もうじ きらべられるぼ く」内容項目： 生命の尊さ	児童が身近に感じられる命について触れてから、考えるテーマについて確認し、絵本教材を読み聞かせた。内容は、もうすぐ屠殺されることがわかっている子牛が、食べられる前に故郷の母にひと目会おうと帰省する話である。児童は、子牛に「かわいそう」と感情移入しながらも、「感謝して食べる」ことでさまざまな命を大切にしていきたいと考えていた。また、命を大切に生き方とは何かを考え、自分の心の持ち方や安全な過ごし方について話し合い、自分とそれ以外のさまざまな命を大切にできる態度で過ごしていきたいと語っていた。	絵本「もうじきたべら れるぼく」はせがわゆ うじ
40	相模原市	小3	道徳	ささえられてい るいのち	生命の尊さを知る点において、この教材を通じて一つしかない自分の命が様々な人によって受け継がれてきたもの、さらには多くの人々によって支えられているものだとすることに気づき、自分の命だけではなく、生命あるもの全てを尊いものとして捉え大切にしようとする心情や態度を育てる。	東書 小学校道徳科用 文部科学省検定済教科 書

41	相模原市	小5	道徳	生命の尊さ	知っている雄グマが死んでいるのを見て、子グマは死ぬことが怖くなり、死なない石になろうとする。しかし石になるとこれまであたりまえにしてきたことが何もできないと分かり、最後には「クマのほうがいいってわかったんだ。」と言って、兄グマといっしょに帰っていく。授業の中で石に変わった方がいいかクマのままの方がいいか最後に振り返った。石になるよりクマのままがいいという児童が多く、石は感情がなく死んでいるのと同じようなものだからという理由が多くあった。また、死はあるけれどその代わりに生きている中で楽しいことがたくさんあるという生きる価値について気付いた。	東京書籍「クマのあたりまえ」
42	相模原市	小1	道徳	生命の尊さ 「おたんじょう日カード」	まゆちゃんが学校から帰るとおばあちゃんからカードが届いていました。その中身には、まゆちゃんの誕生日を喜ぶおばあちゃんの思いが書かれていました。この教材を通じて、普段の生活で見過ごしがちな「生きている証」を実感させ、自覚を深めるように互いに話し合いながら、考えを深めました。	教科書教材
43	相模原市	小6	道徳	生命尊重	「たったひとつの命」病気になってしまった主人公と、その周りの人々の思いを考えた。自分の命はたったひとつだが、自分の周りにはそれを支えてくれているたくさん人の存在があること、ひとつの命は「みんなの命でもあること」を話し合いを通して考えた。	
44	相模原市	小3	道徳	生きる喜び	アンパンマンマーチの歌詞を題材に授業を実施。作詞した「やなせたかし」さんが、特攻隊として命を亡くした弟に対して書いた手紙と歌詞を比較し、とても酷似していることに気づかせる。敵地に突っ込んでいく特攻隊の方の気持ちや、歌詞に込められた思いについて考えを深めていくことができるような授業展開を実施した。	担任による指導
45	相模原市	小2	道徳	自己を見つめ直す	「ぼく」という男の子が、「ぼく」の好きなことをさまざまな面から挙げていく。最後に一番好きなものは、「ぼく」であることを知る。「ぼく」の存在がなければ、「ぼく」の好きなものは存在しないことに気づかせ、自分自身を見つめ直し、自分の好きなところやよいところを振り返られる授業を展開した。	担任による指導
46	相模原市	小4	道徳	生命尊重 自然愛護 家族愛	4年生では道徳の学習を活用し、生命尊重・自然愛護・家族愛の価値項目を扱い、多面的に命について考えられるようユニット学習を行った。生命尊重の観点からは、自分の命の大切さ、そして家族の命も同じように大切であることを学んだ。児童たちは、自分の命がどのようにして誕生したか、家族の絆の大切さについて具体的なエピソードを交えながら話しあった。自然愛護の観点からは、人間も自然の一部であることを意識し、自然を大切にすることの重要性を学んだ。身近な自然との触れ合いを通して、生命のつながりを感じ、自然を愛護する心を考えた。家族愛の観点からは、家族の一員としての役割や、将来自分自身が家庭を築くことについて考えた。家族との温かい触れ合いを振り返り、家族の大切さを再認識する機会となった。ユニット学習を通して、児童たちは、命の尊さ、自然との共生、そして家族の大切さを知り、命に対しての考えを広げた。	「わたしの見つけた小さな幸せ」 「ふれあいの森で」 「お母さんのせいきゅう書」 新編 新しい道徳4

47	相模原市	小2	道徳	生命の尊さ	子供達が身のまわりにある命を想起するところから授業が始まった。家族や自分の命、他にも生活で育てた朝顔や夏野菜など植物の命、動物園にいるパンダやゴリラそして題材に出てくるウシ…子供達は様々な「命」を発表した。その後、命を大切にすると話す子供たちに、「大切なのに食べてもいいのか」という問いを立てた。絵本の読み聞かせを終えて、子供達にウシはかわいそうなのか問いかけ、感想を交流させた。そして、「命を大切にすることとは」「自分の命を大切にすることはどういうことか」を絵本の中のウシからのメッセージを元に考えた。	「もうじき たべられるぼく」 (はせがわゆうじ作) 中央公論新社
48	相模原市	小3	道徳	「いただきたいのち」 【生命の尊さ】	教材となる母親の手紙を読んで、病気と闘うわが子に対する母親の気持ちに触れた後、手紙の中に出てくる「たくさんの人からいのちをいただいた」という言葉の「たくさんの人」とはだれのことを指すのかという中心発問を行った。両親はもちろんのこと応援してくれた周りの人や手術をしてくれたお医者さんや看護師さん、励ましてくれる友達など様々な意見が出たことで、「私たちはいろいろな人のおかげで生きている」や「だから自分の命を大切にしたい」といった、生命の尊さに対する認識が深まった様子が見られた。	『新編 新しい道徳 3』 東京書籍
49	相模原市	小1	道徳	「まりちゃんとあさがお」 【生命の尊さ】	おばあちゃんからもらった種から、初めてアサガオを育てた主人公は、一生懸命に水やりをして、きれいな花を咲かせた。ある日その花がしぼんだことにショックを受ける。そんな主人公に、おばあちゃんが「咲いた後には、やがて新しい命が生まれるの。そして、種の赤ちゃんが生まれて、命はつながっていくのよ。」と教える。入学してから「アサガオのお父さんお母さんになろう」と頑張ってきた子供たちは、まりちゃんの思いに共感しながら、「自分もアサガオの命をつなげていこう」という思いを持った。	かながわ「いのちの授業」ハンドブック
50	相模原市	小6	道徳	限りある命の中で「たった一つの命だから」	幼いころから風邪一つ引かなかったAさんはある日突然、自分の右腕ががんに侵されていることを知る。家族や友人に支えられながら懸命に治療を受けるも、がんは転移し余命宣告を受けてしまう。当たり前と思っていた日常が突然奪われ、絶望の淵に立たされても懸命に生きるAさんの話をもとにして、自分に与えられた「たった一つの命」の価値について児童と考えた。なるべく児童が自分事としてとらえやすいよう、教員の今までの具体的な経験なども交えながら話をした。話し合いが進むと「いま当たり前と思っていることを大切に、周りへの感謝を忘れずに日々を過ごしたい。」などと自分事として考える児童の姿が多く見られた。	(参考資料) 東京書籍 新編 6年新しい道徳
51	相模原市	小4	道徳	いじめ	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは絶対にだめだということを再確認した。 ・いじめは犯罪行為と同じ、相手を傷つけることで、絶対にやってはいけないことだと再確認した。 ・いじめは人の命を奪うこともある。 ・つらいときは大人に相談をすることを伝えた。 	教師作成によるスライド
52	相模原市	小6	道徳	かけがえのない命「ある犬のおはなし」	生命あるすべてのものをかけがえのないものとして、生命を大切にしようとする心が養われた。	

53	相模原市	小6	道徳	限りある命の中で「たった一つの命だから」	命の大切さを自覚し、限りある命の中でよりよく生きようとする心情が育った。	
54	相模原市	小1	道徳	自分の命	特別の教科「道徳」の時間に、価値項目「生命の尊さ」についての授業を行った。まずはじめに、動画を用いて動物の心臓の音、人間の心臓の音を聞いた。その後、教科書教材「どきどきどっきんぐ」の内容を扱った。最後に紙コップとホース、ラップで作った手作り聴診器を用いて、自分の心臓の音を聞いた。心臓が動いていることを実感し、驚いたり、感動したりしている児童が多くいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・心臓の音が流れる動画 ・手作り聴診器
55	相模原市	小4	道徳	がんばれ！ぼくのかからだ	自分の体の中では、白血球などの細胞が戦ってくれていることや、汗や寒さによる震えが自分の体や命を守るためのはたらきを知ること、生命の不思議さと大切さについて考える。	『新しい道徳』4年「がんばれ！ぼくのかからだ」
56	相模原市	小2	道徳	いろいろな生き物	教室で飼っているヒキガエルのかーちゃんとの関わりを導入に行い、道徳の教科書の「いろいろな生きもの」の読み聞かせを行った。読み聞かせ後、生き物にはみんな命があることや命の大切さについてクラスで話し合った。	『新しい道徳』2年「いろいろな生きもの」
57	相模原市	小1	道徳	生命の尊さ「ハムスターの赤ちゃん」	生き物の命はなぜ大切かを考えることを通して「命あるものは身の回りに何があるかを知り、大切にしようとする心情を育てる」というねらいをもって臨んだ。導入部分で「いのちは〇〇」と板書し、〇〇に入る言葉を考えさせたところ、「命は大切」と答える児童が多く、「生きているからこそできることがある」等の意見が出た。展開部分では、母親ハムスターに注目させながら、その思いについて考えた。さらにハムスターの赤ちゃんにも注目させることで、赤ちゃんも生きるために頑張っているということも考えることができた。命を支える側だけでなく、自分も、命を大切にすることにも気づくことができた。終末部分では、命をもつ生き物は他にも沢山いることに気づき、身近な生き物と関連付けることができた。	その後、生活科の「いきものだいすき」の学習では、捕まえた生き物にも家族がいることや、ずっと飼っていたらかわいそうという声も出て、子どもたちが命を大切にしようとする姿が見られた。
58	相模原市	小5	道徳	生命の尊さ「クマのあたりまえ」	「普段あたりまえにできることは、命があるからこそできることである」ということに気づき、自分の命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして行った。教材では、子グマが死に直面し「死なないもの(石)」になりたいと思い、石のように過ごす中で、命があるからこそできることや命があることの良さに気づく。子どもたちも、子グマの行動や思いについて話し合う中で、命があることの良さに気づいていた。そして、学習の振り返りでは「人間のあたりまえ」について考えた。命があることのありがたさや、命を大切にしていきたいという思いとともに、今ある命が両親のおかげであることなど命のつながりについて考えている子もいた。	国語科の教材「われは草なり」の学習の中で、「草は草なりにがんばって生きようとしている」という児童の発言があり、「クマのあたりまえ」で命について考えたことを繋げて話をした。

59	相模原市	小5	道徳	生命の尊さ 「クマのあたりまえ」	生命はかけがえのないものであり、大切にしなければならないことは理解している児童が多い。ただ、生命に終わりがあることや生命があることの素晴らしさに実感をもっている児童は少ない。この教材での学習で、普段当たり前に行っていることが実は、生きているからこそできる素晴らしいことだと感想をもつ児童が複数いた。また、生きることの素晴らしさや改めて命を大切にしていこうと考えることができた。	教材 新しい道徳5
60	相模原市	小2	道徳	たいせつないのち 「たんじょう日」	「誕生日」と言われると、児童はまずプレゼントを思い浮かべるが、教科を通して考えていくと与えられた命や家の人からの愛情そのものが目には見えない大切なものであることに気づく。自分の命がたった一つのかかけがえのないものであることを自覚し、命を大切にしようとする態度を養うことができた。	生活科 自分の成長記録作成
61	相模原市	小3	道徳	生命・尊重 (病と健康)	道徳で「いただいたいのち」の話を読み、命について考えた。母親の視点で書かれた文と同じ年の子どもが登場していることで、自分の状況と重ねながら命について考えることができた。「いつ病気になるかわからないが、支えてくれる周りの人に感謝したい。」「今自分が生きているのは、健康だからだ。」という感想を持った。	
62	相模原市	小2	道徳	自分の大切さ	道徳「ぼく」という題材を読み、ぼくが周りの人が好き、そして自分を好きという理由について考えた。学習から「自分がいないと好きなこともできない。」と気づき、友達と良いところを伝え合い、自分への賞状を作った。	
63	相模原市	小複合	道徳	生命尊重	以前の学習で、子どもたちが昆虫などを捕まえても、世話もせず放置する事例があったことから、本教材の題材を用いて学習を行った。昆虫の事例だけだと理解しにくいと考え、昆虫が自分、そして、大男に捕まったという例え話で考えると、様々な困り感を実感することができた。元の昆虫におきかえて考え、餌を入れたり、すみかとしての快適性を意識したりする考えの他、世話ができないようなら逃がしてあげるという優しい気持ちをもつ児童もいた。	支援級3・4年 参考教材： 「人権の花」 道徳教材資料 「小さいのち」
64	相模原市	小1	道徳	生命の尊さ ＜ねらい＞ ・生きていることの喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる	抱いたウサギと自分の心臓の鼓動が重なった感動を早く母親に伝えたい「わたし」が、玄関先で転んでしまい、母親に抱きしめられる。母親と自分の鼓動が重なると、だんだん鼓動がゆっくりになって、不思議だなと気づく。 発問1：ウサギを抱っこして 発問2：お母さんにだきしめられて 発問3：なぜ、ふしぎだなと思ったのでしょうか。 「いのち」は大切なもの、私だけのもの、大事なもの、こころ、生きてること、花も虫も生きてると理解した。	新編あたらしい どうとく1 東京書籍

65	相模原市	小6	道徳	人間も動物も幸せに生きるにはどうすればいい？ ＜ねらい＞ 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること	番組「SEED #13 森脇さんのなやみ」(NHK for schoolより)を視聴し、獣害について知り、人間と動物が共存するにはどうすればよいかについて児童同士で議論した。番組視聴後、児童は自発的にこの問いを生み出し、お互いの考えを交流した。野生動物と共存すべきかどうかという難しい問題について、揺れ動きながらも、これからどうしたらよいかについて考えることができた。議論を通して、命について考えた児童も多くいた。	NHK for school 「SEED」#13
66	相模原市	小複合	道徳	こんなに小さなものから…	ハートの画用紙に、コンパスの針で穴を開けて「なんだかわかるか」からスタートし、それが母親のお腹の中での1番最初の自分たちの大きさなのだと認識させる。次に教師の実際のエコ写真を見せたり、絵本の読み聞かせをしたりして、生まれてくるまでの親の気持ちも考えさせる。最後に赤ちゃん人形を抱かせて、重さや柔らかさを感じさせた。	絵本 エコ写真 赤ちゃん人形 名づけの本
67	相模原市	小1	道徳	まりちゃんとあさがお	「あさがお」にも「いのち」があり、大切に育てられる中で「いのち」がつながっていることに気づく。自分の「いのち」も他の「いのち」も誰かの「いのち」とつながっていることを考える。	※11月を「いのちの授業一斉月間」とし、各学年で生命のかけがえのなさに気づき、敬い、尊ぶ気持ちを持てるようになること、生命ある全てのものを、それぞれの立場で、いのちについて考えることをめあてとした。
68	相模原市	小2	道徳	生きる喜び「ぼく」	日々の中で喜びや楽しさを感じられることから、生きていることの素晴らしさや大切さを自覚することをねらいとしている。家族・社会・自然など様々な側面から生きることの素晴らしさを感じ取り生命の大切さを考えていく。	
69	相模原市	小3	道徳	いただいたいのち	病院に入院した「ゆき」が多くの人に励まされて回復していくことで命の大切さに改めて気づく。	
70	相模原市	小4	道徳	わたしの見つけた小さな幸せ	主人公が突然病気になり入院・手術となった。一か月の療養後、今まで気づかなかった幸せを見つけたという話。命あることの幸せ、そして日ごろのあたりまえが幸せということに気づく。	
71	相模原市	小5	道徳	お母さんへの手紙	生命のかけがえのなさを自覚するとともに、人間の誕生の喜びや死の重さについて知り、よりよく生きようとする。心情を育てる。	
72	相模原市	小6	道徳	たった一つの命だから	命の大切さを自覚し限りある命の中でよりよくいきようとする心情を育てる。	
73	相模原市	小1	道徳	「ハムスターのあかちゃん(1・2年)」	身近な生き物の誕生や成長の様子を優しく見つめて命あるものを大切にしようとする。	※特別支援学級の在籍児童を対象(1年生と2年生で合同授業)
74	相模原市	小3	道徳	「いただいたいのち(3年)」	今ある命の大切さや命がささえられていることに気づき自他の命を大切にしようとする。	※特別支援学級の在籍児童を対象

75	相模原市	小4	道徳	「わたしのみつけた小さな幸せ(4年)」	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にしようとする態度を育てる。	※特別支援学級の在籍児童を対象
76	相模原市	小5	道徳	「くまのあたりまえ(5・6年)」	生きていることの素晴らしさや喜びを感じかけがえのない生命を尊重し大切にしようとする。	※特別支援学級の在籍児童を対象(5年生と6年生で合同授業)
77	相模原市	小3	道徳	いのちの誕生	はじめに、赤ちゃんについての質問を子どもたちが考え、教諭が答えていった。「赤ちゃんの名前は?」「生まれるのにどれくらい時間がかかったの?」「どんな家族にしたいですか?」「名前の由来は?」などの質問が出た。本授業では、「名前の由来」に着目し、名前に込めた思いをゲストティーチャーが話したことで、自分たちも同じように名前には意味があり、そして大切に生まれてきたのだということを感じつきっかけとなった。授業を通してのふりかえりでは、「ぼくの名前の由来も家で聞いてみたい」「赤ちゃんをうむ大変さがわかりました」などが出た。	※5日前に赤ちゃんが誕生した同学年教諭をゲストティーチャーとして、授業を行った。
78	相模原市	小5	道徳	生命尊重	「命」と聞いて思うことを尋ねると、「大切なもの」「一つしかないもの」などの意見が出た。その後、道徳の教科書『コースチャぼうやを救え』を通して、一つの命を多く人が支えようとした実話から、どうしてみんなで助け合おうとするのかを考え合った。どんな人でも命がないと、未来がないし、尊いものであるから支え合っていること気づき、当たり前にある命のありがたさを感じる児童が多かった。「また、日頃から横断歩道の渡り方に気を付けたい」と自分にできることを考える児童もいた。そこから、自分の命、相手の命を大事にしようとする気持ちをもって生活したい(行動したい)と振り返る児童もいた。	【朝日新聞×HTB 北海道150年 あなたと選ぶ重大ニュース】 動画共有サイトより
79	相模原市	小5	道徳	イルカの海を守ろう	自然環境を守るというテーマでイルカの海を守るためにはどうすればよいのか考えていった。海にはたくさんの廃棄プラスチックやゴミが増加していることを知り、そこに住む海の生き物たちも苦しんでいることを資料や動画を通して学んだ。児童たちはゴミをポイ捨てすることが、生き物の命につながっていることを知り、自分たちが今できることを考え、深めていった。	道徳の教科書
80	相模原市	小5	道徳	イルカの海を守ろう	自然環境を守るというテーマでイルカの海を守るためにはどうすればよいのか考えていった。海にはたくさんの廃棄プラスチックやゴミが増加していることを知り、そこに住む海の生き物たちも苦しんでいることを資料や動画を通して学んだ。児童たちはゴミをポイ捨てすることが、生き物の命につながっていることを知り、自分たちが今できることを考え、深めていった。	道徳の教科書

81	相模原市	小4	道徳	生命の尊さ	「わたしの見つけた小さな幸せ」 主人公のわたしが突然病気にかかり、不安になる気持ちに共感し、やっと学校に行けた日に日常にあるいつもの幸せに気づく心情を読み取った。自分の身近にある幸せ探しをし、クラスで共有した後、家庭にワークシートを持ち帰り、小さな幸せについて保護者からコメントを書いていただいた。いつもの日常が大切であることを改めて考えた学習となった。	
82	相模原市	小6	道徳	「尊重しあえる人間関係」	<ul style="list-style-type: none"> ・体の変化、考え方、生き方の個人差 ・将来を描く(最終学年への話) ・尊重しあえる人間関係(LGBTにも触れる) という内容を助産師さんにお話していただく。	本校では、2・6年生の他に4年生も第2次性徴について授業していただきます。
83	相模原市	小3	道徳	ヌチヌグスージ(いのちのまつり)	「ご先祖さまって何人いるのだろう。お父さん、お母さん、おじいちゃん・・・。」数えきれないご先祖さまのだれ一人かけても、自分たちは生まれてこなかったことを知った。命が繋がり自分たちのいのちがある。いのちってすごいと実感できた。いのちの不思議さを感じ、ご先祖さまに感謝する気持ちを育むことができた。	東京書籍 「新しいどうとく3」
84	相模原市	小3	道徳	いただいたいのち	白血病になってしまった「ゆきさん」を見つめる、母の気持ちについて考える授業だった。教師の実体験をもとに、母親の気持ち、父親の気持ちについて考えられるようにした。子どもたちは、自分事として捉えることができ、中には涙をこぼす子もいた。振り返りには、「人間は、助けてもらわないと生きられないお母さんが自分のためにしてくれることがたくさんあるから、手伝いをして、楽にさせたい。」とか、「みんなで助け合って生きることが普通じゃなくて、命を頂いたことに感謝しなければいけないことが分かった。」「生きていることは当たり前ではなく、みんなにたすけてもらっている。」など、自分の命について見直すことができた。	教科書
85	相模原市	小3	道徳	いただいたいのち	白血病で入院したゆきさんとその母の気持ち、ゆきさんが元気になった後の本人からの手紙をもとに、命の大切さについて考えた。	道徳の3年生の内容
86	相模原市	小5	道徳	支えあう命	14歳で重い心臓病の手術を前にして自分が精いっぱい生きてきたこと、家族への感謝の気持ちが表現されている内容をもとに自分が家族を中心に多くの人とのつながりの中で生かされていることについて考えた。	道徳の3年生の内容
87	相模原市	小6	道徳	ある犬のおはなし	動物の殺処分について知り、捨てられる命があることについて考える。人も動物も幸せに生きていくためにはどうしたらいいのかを話し合った。	道徳の6年生の内容

88	相模原市	小4	道徳	わたしの見つけた小さな幸せ	主人公の「わたし」が病気になって、普段当たり前前に過ごしていることが「幸せ」だったことについて考えた。	道徳の4年生の内容
89	相模原市	小1	道徳	生命の尊さ 「生きていることのすばらしさ」	子どもたちは8月から生活科で生き物の飼育を行い、その扱いについて考える前に道徳の授業で命の尊さを学んだ。本時では、生き物を抱いたときの心臓の動きや母親と抱き合う温もりを描いた物語文を教材に使用した。「主人公が母親と抱き合った時の不思議な気持ち」に対する問いかけでは、「心臓の音が重なったから」といった命の不思議さや尊さに気づく児童もいた。その後、生活科の授業で飼育している生き物について話し合うと、「私たちと同じように命や家族があるから、生まれた場所に戻すべき」という意見が多くを占めた。子どもたちは、命に対する理解を深めながら考えをまとめていた。	東京書籍 あたらしいどうとく 「どきどきどっきんぐ」
90	相模原市	小6	道徳	たった一つの命だから	児童と同年代の主人公が、病気と闘いながら自分の命と向き合い、生きることについて考え続けたという実話をもとに、「命のつかいかた＝生き方」について考えた。道徳の授業の中では、特に自分自身を見つめる時間（ふりかえり）の時間を意図的に多くとり、ふりかえりをした。主人公の心の強さはどこから生まれるのか。ということも考え、命は自分のものではあるが、家族やたくさんの人たちに支えられている命であることに気づく児童もいた。	道徳の教科書
91	相模原市	小複合	道徳	なかよし名人って？	全校道徳で行った。「およげないりすさん」を題材に、「なかよし名人とは？」について、考えた。他学年の意見を聞くことで、様々な考えに思いをはせることができたり、新しい発見があったり、また、自分の考えを強くもつことができるようになった児童がいた。それぞれの考えを尊重し、「こうありたい」という思いをもつ児童が多くいた。	道徳「およげないりすさん」
92	相模原市	小2	道徳	思いやり協力	「ふわふわことばとちくちくことば」 ことばのもつ力を知り、人を傷つけるちくちくことばではなく、ふわふわことばを増やそう、使おうとすることができる。	
93	相模原市	小6	道徳	生命尊重	厚労省のHPの情報から日本人の死因として多いものを提示し、なぜ自殺が多いのか考えた。自分の命とともに周りの人の命も大切にする。決していじめによって仲間が命を落とすことがないようにする。また、自分の命は先祖からのバトンを受けた命のリレーであることに気づいた。	
94	相模原市	小2	道徳	ぼく	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらい 生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。 ・人権教育の観点から 生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てるために、本時では主人公「ぼく」の生きる喜びに共感させ、自分のいいところや好きなところを見つけ出し、みんなと認め合うことにより、自分の存在感に気づき、今後の生活の中で自分の存在を大切にさせるようにした。 	東京書籍

95	相模原市	小3	道徳	生命の尊さ	主人公の女の子が血液のがんだと分かり、治療に励みながら、命の尊さについて考えていく話である。クラスの友達が輸血のお願いの手紙を書いてくれた。そこから、多くの人から自分の命を繋いでもらった、と気づいた。病気やけがをしたときの様子から、1つしかない生命の尊さを知ることや、今ある自分の命は多くの人々の支えによってあるものであると気づいてほしい題材である。	新しいどうとく 『いただいたいのち』
96	相模原市	小4	道徳	生命の尊さ	主人公の女の子が腎盂炎だと分かり、治療に励みながら、命の尊さについて考えていく話である。不安になりながらも治療に励み、治ってまた登校することができた。病気になる前にはできていた様々なことが、心身ともに元気でなければできないことや、当たり前ではないことを感じる事ができた。自分の命は自分一人だけのものではなく、周りの多くの人々の支えがあって守られていると気づいてほしい題材である。	新しいどうとく 『わたしの見つけた小さな幸せ』
97	相模原市	小2	道徳	命について考える	導入で命を大切にすることはどういうことか考えた。教材「命」の詩を書いた由貴奈さんの生い立ちや病気、院内学級について話したあと、由貴奈さんの詩を読んだ。由貴奈さんはどういう思いでこの詩をかいたのか、を想像して、ワークシートに書くことで由貴奈さんの「自分を傷つけてほしくない」というメッセージや、同じ病気で苦しんでいる人に「一緒にがんばろう」と呼びかけている思いを想像することができた。最後に、自分はいくらからどんなふうに住きたいか、命を大切にすることはどういうことか考えた。	教材「命」の由貴奈さんの詩
98	相模原市	小6	道徳	道徳「たった一つのいのちだから」(生命の尊さ)	教材「たった一つのいのちだから」を読み、登場人物の周囲の人のことを思いやり、前向きに、懸命に生きようとする姿を通して、「命を全うする」ということについて考え、話し合った。また、別葉を作成し、学校全体として別葉を活用した授業研究を行っている。日頃の児童の様子を授業内でも提示し、より具体的に、自分事として「命を全うする」ということについて考えを深めていた。また、友だちの意見をよく聞き、理解し、自分たちも登場人物と同じように、今ある命で懸命に生きていることを実感していた。	
99	相模原市	小3	道徳	生命の尊さ	重い病気になった主人公が家族や病院の先生、学校の友達に支えられながら病気を克服していく話を通して、命の尊さについて考えた。主人公が周りのサポートに勇気づけられている姿を見て、「人は1人では生きていけない」「私もだれかを支えていきたい」など、命の大切さについて考えが深まった様子だった。授業後に、本学級に入退院を繰り返している児童がおり、その児童を励まそうと退院後にお楽しみ会を計画し、仲間を支えようとする姿も見られた。	東京書籍 新しい道徳 3 『いただいた命』
100	相模原市	小2	道徳	しぜんとなかよく「いろいろな生きもの」	生活科の授業で、植物の栽培や観察をしたり、虫に触れたりした経験をもとに、自分たちの身近には多くの自然があり、たくさんの生き物が住んでいることを知り、登場人物の「たくさんの生きものとなかよくしていきたい」という言葉から、生きものの命を大切にすることを考えさせた。	

101	相模原市	小4	道徳	感動、畏敬の念	生命の神秘に気づいたり、生き物が成長することの大変さや美しさに触れ、感動したりする心を育てた。	東京書籍
102	相模原市	小4	道徳	がんばれ、ぼくのからだ	転んだ子どもにお父さんが自然治癒力の話をし、その子が白血球のことや熱が出る仕組みなどについて調べ、自分の体の中に自分を守る強い味方がいることに気づく話。身体や命の不思議を知りたいという思いが芽生えたようで、たくさんの質問がでた。献血にも興味を持っていた。	日本赤十字社「みんなで学ぼう血液のこと」を使って血液についての学びを深めた。
103	相模原市	小1	道徳	どきどき どっきんぐ	抱いたうさぎと自分の心臓の鼓動が重なった感動を早く母親に伝えたい「わたし」が玄関先で転んでしまい、母親に抱きしめられる。母親と自分の鼓動が重なると、だんだん鼓動がゆっくりになっていくことに気づく話。	
104	相模原市	小6	道徳	「命の重さを感じて精一杯生きる」	7年間という人生に幕を閉じた1年生の少年。白血病になりながらも、その短い人生を精一杯生きた。白血病の治療は、とても苦しく、辛いことであった。しかし、常に前を向き、家族や友達の励ましを受けながら一生懸命に「命」と向き合う少年の姿は、児童にとって「命」の神秘さを実感することにつながった。また、少年が育てていたアサガオを母が「命のアサガオ」として育て続けた。そこで、少年と母が育てたアサガオの種を郵送してもらい、児童一人ひとりに触れさせた。両手で大切に受け取る児童、目に見えない重さを感じる児童など「命の重さ」を実感する様子が見られた。	出典 「5年生の道徳」 文溪堂
105	相模原市	小3	道徳	「いただきたいのち」	登場人物が病気の治療で入院した際の話。闘病の様子や、退院してから感じたことの心情を考えた。加えて、宮越由貴奈さん「命」の詩を読み、生命の尊さを知り、生命は多くの人の支えがあることについて学習した。また、「命」の詩がある「電池が切れるまで」の本を読み、命とは唯一無二で大切なものであることを確認した。	東京書籍 道徳 3年P68～73
106	相模原市	小6	道徳	主題名「かけがえのない命のために」 題材名「ある犬のおはなし」	主人の都合で保健所に連れていかれた犬のおはなしを読み、生命を尊重し、かけがえのなさについて考えた。 ペットを飼っている児童を中心に、生命を預かることの責任や人間の身勝手さなどについて学級全体で話し合った。生命の中でも、犬猫と虫では扱いが異なることに気づき、教室に虫が入ってきた時の対処でも、人間の都合による必要のない殺生はやめようという話にまとまった。	
107	相模原市	小3	道徳	命は支えられている	子どもたちの中で「命は大切だ」という意識や考えはある。そして、その命は家族からもらったものであることも知っている。今回の題材「いただきたいのち」では、生命の尊さについて話し合い考えを深めた。この学習を通して子どもたちは、「今あるたった1つの命は当たり前にあるものではない。」ことを気づいている子が多くいた。いつ、どこで、だれかの命が失ってしまうのかわからない中で、それぞれの命を大切に、そして今という時間を大切にすることを考える機会となった。	東京書籍 新編新しいどうとく3

108	相模原市	小1	道徳	ええところ	<p>「自分の特徴に気づき、長所を大切にしようとする心情を育てる。」ことをねらいにした。</p> <p>【導入】自分のいいところについて考える。</p> <p>【展開】教材文を使って、友達のいいところを見つけてもらった時、友達に見つけた時の気持ちを考える。</p> <p>【終末】友達とお互いのいいところを伝え合う。</p> <p>はじめは、自分のいいところがわからないという児童が多かったが、授業を進める中で自分にも、周りにいる友だちにもいいところがあることに気づくことができた。</p>	東京書籍 新編新しいどうとく1
109	相模原市	小複合	道徳	命があるということ	<p>「わたしの見つけた小さな幸せ」</p> <p>2学期、病気によって学校へ行けなくなった女の子が、闘病中のつらさを乗り越えていくようすから、諦めない気持ちに共感していた。そして、11月から学校へ行けるようになった女の子が今まで気付かなかった小さな幸せに気付いていく場面から、毎日の当たり前は当たり前ではないことに気づき、命や体を大切にしていこうという思いをもつことができた。</p>	3・4年
110	相模原市	小2	道徳	「大切な命」	<p>教材の中の「お母さんの気持ち」や「お母さんの話を聞いたなつこの気持ち」を考えることを通して、命が多くの人に大切にされていることに気づいていた。</p> <p>ふりかえりでは、「自分の命についてどんなことを思ったり考えたりしましたか。」と発問をした。すると、「自分の命があるだけで幸せ」「産んでくれてありがとう」「自分が誕生したときは、どんな感じだったのだろう」といった記述をしている児童がいた。自分の命が多くの人に大切にされていることに気づき、これからも自分の命を大切にしようという主旨の記述が多く見られた。</p>	教材「たんじょう日」
111	相模原市	小2	道徳	生命の尊さ	<p>道徳の教材を用いて生命のつながりについて取り上げた。「自分が食べたものを大切に食べる。」「自分が食べるものに感謝して生きる。」「たくさんの生命を大切に食べる」など、生命のことを考えることで、「生きるって特別なんだ。」「頑張っって自分も生きよう。」「という意見や思いがたくさん出た。</p>	「ゆきのひょう」
112	相模原市	小5	道徳	他者の尊重	<p>互いの良さを認め合う時間を設け、人の良い所を見つけるだけでなく、自分の良い所も認識できるように紙を使ってその紙に相手の良い所を書いていった。この学習をしたことで自己を大切に、他者を思いやる心が育ち、仲間意識が高まった。</p>	
113	相模原市	小6	道徳	いのちの授業 「浅間山の大噴火と鎌原村の家族再編をとおして」	<p>天明の浅間山大噴火の「土石なだれ」にのみこまれた人、助かった人の「生死をわけた鎌原観音堂の15段の階段」の歴史的な背景と、観音堂に残された生存者が生きていくために行った家族再編を考えることをとおして、いのちと家族について改めて考える時間とした。</p>	<p>「輝け！いのちの授業」 (大瀬敏昭著)</p> <p>「くまのこうちょうせんせい」 (こんのひとみ作)</p> <p>(いもとようこ絵)</p>

114	相模原市	小3	道徳	生命や自然	教材「いただいたいのち」をつかって、主題を「支えられた命」として授業を行った。病気になって入院した2年生の女の子が、10ヶ月の入院で退院した後に書いた手紙をには、「励ましの言葉や血液をたくさんの人からいただけたので元気になったのだから、『命をいただいた』と母が言ったことが書いてあった。話し合いでは「命の大切さを感じた、生まれてきた奇跡の命を大切にしたいと思った、たった一つの命を感じた」等の意見が出され、元気である自分たちはとても尊い存在であることに少しは気がつくことができた。	新編 新しいどうとく (東京書籍)
115	相模原市	小1	道徳	生命の尊さ	(ねらい) 生きていくことの素晴らしさを感じ、生命を大切にしようとする心情を育てる。 ウサギと自分の生命、お母さんと自分の生命を感じ、様々な感情が浮かび上がる。生きていくからこそ感じられる心情を理解し、自分事として考える学習活動を行った。	
116	相模原市	小5	道徳	生命の尊さ	(ねらい) 生命のかけがえのなさを自覚すると共に、人間の誕生の喜びや死の重さについて知り、よりよく生きようとする心情を育てる。 重い心臓病をもった主人公が、母とともに過ごしてきた14年間を振り返り記した手紙を読む。自分たちも主人公のように一生懸命生きることが出来るはず。では、一生懸命生きるとはどんなことなのだろうか？投げかけながら「よりよく生きる」ことについて考える学習活動を行った。	
117	相模原市	小1	道徳	生きていくことのすばらしさ (D 生命の尊さ)	本教材は、主人公がうさぎを抱っこしたときに心臓の鼓動が速くなる体験をし、そのことを早く母親に伝えたいと走ったところ、家の前で転び、母親に抱きしめてもらったときに鼓動がゆっくりになる体験をし、心臓の鼓動について不思議に思うという話である。事前に「しゅくだい」という絵本を読み聞かせ、その日の宿題として実際に家族に抱きしめてもらう体験をさせたり、養護教諭に協力を得て、聴診器で自分や友だちの心臓の鼓動を聞かせることで、自分や友だちの生きていく証を実感させたりした。児童は、生きていく証としての心臓の鼓動に驚いたり、教材と自分の体験を重ね合わせながら家族との繋がりについて考えることができた。	教材名 「どきどき どっきんぐ」 東京書籍 新編 あたらしい どうとく1
118	相模原市	小2	道徳	たいせつないのち たんじょう日	教材文『たんじょう日』を読み、主人公のなつこがどのような気持ちで誕生日を迎えたのか、お母さんはどのような気持ちで毎日病院にお乳を届けていたのか、意見を出し合いながら考えを黒板に書き出した。そこから、お母さんの話を聞いて「おたんじょう日おめでとう。」と言われたなつこの気持ちを、ワークシートに記入した。考えを出し合って、自分の命について思ったことや考えたことを振り返り、ワークシートに記入した。	東京書籍 新しい道徳 2年
119	相模原市	小3	道徳	ささえられているいのち	教材文「いただいた命」を読み、身近の人が病気になったらどう感じるのかについて考えた。そこから病気やけがをしたときに、一つしかない生命の尊さを知り、与えられた生命を一生懸命に生きることの大切さを考えることができた。	東京書籍 新しい道徳 3年

120	相模原市	小5	道徳	生命の尊さ	教材文『クマのあたりまえ』を読み、「生命の尊さ」について、「普段当たり前に行っていることは、生きているからこそできることである」ということをクマの「死なないものになりたい」という考えから、「クマのほうがいいってわかったんだ」という気持ちの変化や道徳的価値への気づきなどから考えることができた。また、クマの「いつか死ぬなら、なんで生まれてきたのだろうか」という問いや、「いつか死ぬものではなく、死なないものに生まれたかった」という考えから、「いつか死ぬのなら生きていることに意味はないのか。生きることは何か」という視点で、児童が生きていることの素晴らしさや喜びについて考えを深めることができた。	東京書籍 新しい道徳 5年
121	相模原市	小6	道徳	生命の尊さ	闘病生活の末、16才という若さでこの世を去った西尾誉佳さん。がんのため右腕を切断という非常につらい思いをしており、そんな苦しい生活の中でも周りの人々へ感謝を忘れなかった西尾さんの生き方から学んだ。今生きていることの大切さや、生きていることは当たり前なことではないことなどについて学級全体で考えた。	東京書籍 新しい道徳 6年
122	相模原市	小1	道徳	いきものへのやさしさ	あさがおの生長を楽しみに世話をする様子を描いた作品を読んだ。水をやりながら何回も謝る場面、次の日、つぼみが1つでき、触る場面で、生活科で取り組んでいる栽培活動を振り返りながら、動植物にも「いのち」があり、心をこめて最後まで世話をすることの大切さを考えた。	新編 新しい道徳 東京書籍 1
123	相模原市	小4	道徳	生命の大切さ 「命があるということ」	・生命の尊さを知り、生命あるものを大切にしようとする態度を育てる。 資料に出てくる主人公が病気になり、療養してようやく登校できるようになった時に感じた幸せについて考える活動を行った。	新編 新しい道徳 東京書籍 4
124	相模原市	小6	道徳	生命の大切さ 「たった一つの命だから」	西尾誉佳さんの人生、生き方を通して、病気と闘いながらも、周囲を思いやり、前向きに生きようとする姿から、たった一つの命の大切さと限りある命の中でよりよく生きることについて考えた。	新編 新しい道徳 東京書籍 6
125	相模原市	小5	道徳	ささえ合う命 「お母さんへの手紙」	重い心臓病の手術を前にして、主人公のわたしは母に手紙を書く。育ててくれたことへの感謝が、小さい頃の思い出から始まって現在の気持ちまで綴られている。主人公の気持ち、母の気持ちを中心に、支えあう命の大切さについて考えた。	新編 新しい道徳 東京書籍 5
126	相模原市	小6	道徳	「命の重さはみんな同じ」	動物の命の重さを獣医・保護施設の職員・引き取る飼い主の目線でそれぞれ考えた。人間や動物の命の重さには違いがあるのかや安楽死について考えることで、命は比べるものではなく、大切なものであることを感じていた。	東京書籍 「新しい道徳」

127	横須賀市	小2	道徳	「大切な名前」	アンケートを元に名前に関する経験や考えを学級で共有。その後、友だちを大切にするためのよりよい呼び方や関わり方について話し合い活動を行う。授業後に各家庭から名前の由来についてコメントを依頼し、改めて学級で振り返る。取り組み後、児童同士の呼び方や関わり方に相手を大切にしようとする変化があり表情が明るくなったように感じられた。	独自のアンケート
128	横須賀市	小1	道徳	みんなみんないきている おたんじょうびれっしゃ	「てのひらをたいように」の歌詞から、生きものには命があり、いろいろなことができる命の素晴らしさに気付くことができた。「おたんじょうびれっしゃ」では、多くの人に支えられていることが分かった。2つの単元を通して、自分の成長を感じ、命を大切にしていこうと思うようになった。	
129	横須賀市	小2	道徳	D 生命の尊さ C 家族の愛、 家庭生活の充実 おとうとの たんじょう	自分の命は、家族の願いを受けて生まれてきたことや、自分自身にはたくましく生きる力があることを学習した。また、赤ちゃんの映像から、自分の赤ちゃんの頃をイメージしたり、宿題を活用して保護者の方に誕生した様子やどんな気持ちだったかをインタビューしたりして、大切にされてきたことを実感することができた。	保護者
130	横須賀市	小1	道徳	D 生命の尊さ みんなみんないきている	命が輝いているときはどんなときか考え、いろいろなことを経験することができるのは生きているからであることに気が付いた。自分の身の回りに自分を応援してくれる人(家族や友達など)がいることに気づき、いのちがあるからこそこれからみんなでいろいろなことに挑戦していきたいという話をした。自分が生きて成長していることの喜びを実感し、かけがえのないいのちを大切にしようとすることを考えた。	
131	横須賀市	小2	道徳	生命の尊さ 「わたしのものがたり」	道徳の教科書、題材名「わたしのものがたり」をもとに、生命の尊さについて考えた。自分が活動したり成長したりすることができるのは、「自分でつくった力」と「周囲の人からもらった力」があるからだ気付くことができた。これからも、自らの可能性を伸ばし、かけがえのない生命を大切にしようとする意欲を持つことができた。	教科書「光文書院」
132	横須賀市	小4	道徳	生命の尊さ 「せいっぱい生きる一命の詩一」	教材を読む前に「せいっぱい生きる」とはどういうことか考え、「一日一日を大切に」「毎日楽しく全力で生きる」など、意見を出し合った。それから教材を読み、由貴奈さんの詩から盛田さんが受け取った命のメッセージについて考えた。病気の治療をした経験のある小児科医の盛田さんの姿から、盛田さんは「病気の子どもたちを助けてあげてほしい」「たとえ病気になっても生きることを諦めないでほしい」というメッセージを受け取ったのではないかと話し合った。授業の最後に、「せいっぱい生きる」ことについて改めて問かけると、「自分のできることをして誇らしく生きる」「楽しいこと、苦戦すること、難しそうなことなど、色んな経験をたくさんすること」など、今後の生き方についての思いが書かれていた。教材を読む前と読んだ後で「せいっぱい生きる」の考え方が変容し、限りあるかけがえのない自分の生命を自覚して精一杯生きていこうとする思いが強くなる様子が見られた。	「ゆたかな心」 (光文書院)

133	横須賀市	小1	道徳	生命の尊さ 「わきだした みず」	道徳『わきだした みず』の教材を通して、生命の尊さや相手を助けずにはいられない心について考えた。教材に出てくる「かに」がどうして3日間も休みなしに頑張り続けることができたのは、「友達の命のため」という思いが一番強いのではないかと考えていた。 友達の命のために頑張るかにの心の素晴らしさに気づき、「自分も友達を助けられる人になりたい」「友達が困っていたら助けてあげたい」「友達のことも他の生き物のことも大切にしたい」と、自他の命を大切にしていきたいと感じている様子が見られた。	「ゆたかな心」 (光文書院)
134	横須賀市	小2	道徳	おとうとのたん じょう	教材文「おとうとのたんじょう」を読み、赤ちゃんのあくびや手を動かすなどの何気ない仕草や動きが生きている証拠であり、それを見て家の人が喜んでいることに気づいた。また、自分の命は自分の力だけでなく、周りの人の願いや支えがあってこそであるということを通して考えを深めた。導入時は、なぜ命が大切なのかという発問に答えられなかった児童が、「お父さん、お母さんに一生懸命育ててもらっているからもっと大切にしようと思った」と自分だけでなく、周りにも支えられているからこそ、さらに大切にしていきたいという思いをもつことができていた。	2年道徳「おとうとの たんじょう」
135	横須賀市	小6	道徳	わくわくモー モースクールを 通して、いのち や食について学 ぶ	導入では、「わたしたちが給食で飲んでいる牛乳はどのようにして私たちのもとに届くのだろうという」発問を通して、酪農や流通への関心を高めさせた。酪農家の方々が朝早くから搾乳を行うこと、牛が多くの糞尿をするので、清潔に保つための作業だけでも多大な労力を使うことなどを知り、子どもたちはとても驚いていた。また、実際の搾乳体験などを通して、牛乳がいのちから生まれてくる飲み物であることを子どもたちは実感していった。授業後、「牛乳をはじめ、自分たちがいのちをいただいていることや、食に関係する方々に感謝して食べたり飲んだりするようにしたい。」とふりかえるなど、食やいのちについて考えを深める姿が見られた。	
136	横須賀市	小4	道徳	レスキュー隊 (生命の尊さ) (勤労、公共の 精神)	教材を通して、自分の生命も他社の生命も同じように大切にしようとする心と、人の生命を救おうとする行動に感動する心を育むことをねらいとした。社会の災害への備えと関連付けて、もしもの時に生命を懸けて救おうとしてくれる人や、自分の生命を守るために日頃から気を付けておくことなど、自分事としてとらえ、真剣に考えている姿が見られた。同時に、レスキュー隊の活動に興味をもって読み、感謝の心を持つことができた。	道徳 「レスキュー隊」 社会 「自然災害に そなえるまちづくり」
137	横須賀市	小1	道徳	道徳 みんなみんない きている (D生命の尊さ)	児童にとって聞きなじみのある「手のひらを太陽に」を歌い、歌詞の内容を見ながら「生きているから〇〇」ということについて考えたのち、作詞者やなせたかしさんは、アンパンマンを書いた人であり、アンパンマンはどんな人物かを考えた。「生きていると感じるときはどんなときか」と問いかけた際は、生きているといろいろな感情があるということに気付くことができた。生きていると、楽しいことだけではなく辛いこともあるが、命が輝けるように応援してくれている人のためにも、命を大切にすることをよく考えられていた。	光文書院 しょうがく どうとく ゆたかなこころ 1年

138	横須賀市	小複合	道徳	命の守り方	<p>防災をテーマに学習をした。東日本大震災の実際の写真をスライドで見せながら、大地震が来たときの周りの様子を伝えた。学校や家が全て壊れてしまっても、生きていれば町や家は復活することを話し、今の自分たちにできることを考えた。子どもの発言からは、「非常食が必要」「懐中電灯が必要」「情報を得るためのラジオやスマホが必要」という声が挙がった。また、台風がちょうど接近していたこともあり、台風にもきちんと備えないといけないなという意見も子どもから出てきた。</p>	支援学級
139	横須賀市	小2	道徳	自分のよいところ	<p>「じぶんのよいところ」について道徳の教材「ミーボーしんぶん」を通して考える。最初は、じぶんのよいところが意外とないかも・・・と見つけにくそうな子も、授業を通して、じぶんのよいところをいくつか見つけることができ、自分とはとてもかけがえのない存在であることに気が付くことができた。また、「～がすき」「～にきょうみがる」も立派な「じぶんのよいところ」だと分かり、日常で「好きなもの」を集めていくことも、「じぶんの命を大切にすること」に繋がっていくことを確認した。</p>	
140	横須賀市	小4	道徳	生命の尊さ	<p>クラスのみんなどと同じ4年生だった時に、病気（がん）で亡くなった宮越由貴奈さんの半生や遺した詩を基に、どんな思いで闘病したのか、自分の生命が途絶えようとしている中で、どんなことを思っていたかを考えた。詩を読んで、「生命とは1つしかないもので、電池みたいに取替えられないものである」という意見が出た。ただそれだけにとどまらず、その時の由貴奈さんの心は、「最後まで命を大切に、ぎりぎりまで生きたいと思っていた」という意見も出てきた。</p> <p>終盤では、「精一杯生きる」とはどういう意味なのかを考え、めいいっぱい楽しむことや、生命が続く限りやれることをするというまとめにつながった。「授かった生命に感謝をして、それを精一杯輝かせてほしい」という担任の言葉で授業を終えた。</p>	<p>教材名 「せいいっぱい生きる」 出典：「道徳・ゆたかな心・4年」光文書院</p>
141	横須賀市	小5	道徳	希望と勇気 努力と強い意志	<p>導入で、「困難にぶつかったとき、自分ならどうするか」全体で考えた。大勢の子が「頑張る」「諦めない」と答える中で、ある児童が「頑張れないかもしれない」と言ったことから「乗り越える力を支えるものは何なのか」を考えるために教材を読み始めた。世界選手権で6つのメダルを取った池江選手が病気になった時の悲しみの深さを知るとともに、それでも諦めずに努力を続けた理由が「応援してくれた人の存在」と、「目標を持つこと」であると気づくことができた。自分のことを支えてくれる人や自分の目標を日頃から大切にしていってほしいと担任から伝え、授業を終えた。</p>	<p>「ゆたかな心」より みんなといっしょに 前へ、前へ ー池江璃花子ー</p>
142	横須賀市	小2	道徳	<p>・自分の名前はだれが、どうしてつけたのだろう？</p>	<p>・教材では、主人公が弟の名前の込められた願いを親から聞く場面があるため、教材を読んだ後に自分の名前について扱った。「漢字でどのように書くのか」を確認したあと、漢字辞典で漢字の意味を調べた。</p> <p>・授業後に保護者に児童の名前の由来を教えていただいた。（ご家庭によっては配慮が必要であるが、今回は支援級の数名、普段からやりとりしている保護者であったため、実施した。）後日、その願いを児童と一緒に確認した。自分の名前に込められた家族の思いを知ること、教材を自分ごととして捉えられるようにした。</p>	<p>・「おとうとのたんじょう」</p>

143	横須賀市	小6	道徳	命をかがやかせる	道徳教材『命のメッセージ』から、「命」について考え、また、教材を通して「命の重さ」について考えた。さらに、「命をかがやかせる」とはどういう生き方なのか、それぞれの考えを学級内で共有し、命についての見方を広げたり、深めたりする授業を実践した。	道徳教材「命のメッセージ」
144	横須賀市	小4	道徳	小さな命も大切な命	教材「ヒキガエルとロバ」を扱った授業を行った。導入時は命は大切なものであることを確認した。しかし、「大切な命＝人間の命」というイメージがあった。教材のなかで、登場人物にいじめられているヒキガエルをロバが助ける場面がある。気持ち悪いという理由でヒキガエルをいじめる登場人物と、ヒキガエルを助けたロバの心を比較しながら、小さな命の大切さについて考えた。外見や大きさで命の大切さを判断できないということに子ども達は気が付き、これまでの自分たちの生活を振り返ることができた。	教材「わたしたちの道徳 小学校3・4年」内の「ヒキガエルとロバ」
145	横須賀市	小6	道徳	かけがえのない命	6年生の道徳「負けないで」の東日本大震災で、母親や友だちを亡くした佐々木瑠璃さんが、亡くなった人や大切な人を亡くして悲しんでいる人のためにプロのオーケストラの方たちと、トランペットで演奏をするというお話です。このお話から、「命を輝かせて生きる」とはどういうことかをテーマに命の大切さについて考えました。子どもたちからは、当たり前前の日常は当たり前ではなく、大切なものであり、命は尊いものだと感じていました。	
146	横須賀市	小5	道徳	SNSトラブル	SNSトラブルを題材にした授業では、実際に起きた問題を紹介し、その後の展開について考えた。3人の登場人物それぞれの立場に立って視点を変えながら話し合うことで、多角的な考え方ができるようになった。SNSを利用している児童が多く、自分たちの使い方についても熱心に見直していた様子が見られた。振り返りの中では、「自分も同じような立場だったらどうするか」「自分が軽い気持ちでいった言葉で相手のいのちを奪ってしまう可能性がある」といった意見が多く出され、これからの使い方を慎重に考えようとする姿勢が見られた。また自分たちと年齢の近い大学生の話聞くことで自分事としてとらえることができていた。	講師は慶応義塾大学の学生さん
147	横須賀市	小6	道徳	フレンドシッププロジェクト	いじめについて、加害者、被害者、傍観者それぞれの視点に立って考え、認知の歪みについて学んだ。いじめについて学んだことを1～5年生に伝えた。6年生とともに考えた、グループによってスライドを作成したり、動画やクイズなどを作成し伝えた。問題解決的な学習を通していじめについて自分自身のこととして多面的に捉えることができた。	動画「知らんぷり」
148	横須賀市	小1	道徳	「たいせつないのち」	誕生日はなぜお祝いをするのかを考えた。「自分がうまれた日だから」「大きくなったから」などの発言があった。教科書の「おたんじょうび れっしゃ」を読み、文章の中の「トンネル」の意味を考えた。「トンネル」は、病気をしたり、けがをしたり大変だった時を表していることを理解し、その時の家の人や友達、自分はどんな気持ちだったかを考えた。今、命があるのは多くの人に支えられてきたこと、自分も頑張ってきたことをに気づき、これからも命を輝かせるために頑張りたいことを話しあった。	「おたんじょうび れっしゃ」道徳教科書(光文書院)

149	横須賀市	小5	道徳	生命の尊さ	道徳の教科書 コラム「ことばのたからもの」の授業を行った。相田みつをの「自分の番 いのちのバトン」の詩を読み、生命の連続性に焦点を当てた学習を行い、「バトンを受け継ぐ」というキーワードをもとにしてまとめさせた。振り返りでは、「自分って奇跡が重なって先祖が大切にしてきた命を背負っているんだな」「自分の人生を大切に楽しく生きなきゃいけないと思った」など一人ひとりが命と向き合い、これからの生き方について書けていた。	
150	横須賀市	小4	道徳	生命の尊さ	広島平和公園「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木貞子さんの絵本の読み聞かせを行い、生きたくても生きられなかった命があることを知らせ、今ある平和をずっと続けられるようにするためには、自分には何が出来るかを考えさせた。	
151	横須賀市	小3	道徳	生命の尊さ 「どうか、生きていてくれよ」	自らの危険を顧みず、人の命を救おうとする消防士の話。消防士の人たちが、危険を顧みず人の命を救おうとするのはどうしてかを考えることを通して、生命の尊さに気付く様子が見られた。また、命について話し合う中で、「命はかけがえのないもの」、「自分の命も他人の命も同じように大切」、「一つしかない命を大切にしたい」という考えをもっていた。	(教材) 小学どうとく ゆたかな心
152	横須賀市	小複合	道徳	いのちと平和について考える	ビキニ島での水素爆弾実験を題材に、児童が平和やいのちの大切さに迫ることをねらいとして行った。1954年3月1日、太平洋のビキニ島でアメリカが水素爆弾の実験を行い、人間や海の生き物が被爆してしまう。アニメでは、トビウオの子どものキャラクターが被爆後に体調を崩してしまう。分かりやすいアニメーションを見て、水素爆弾含めた戦争の是非を考えることをねらった。「海の命を大切にしてほしい」「どうして戦争のために海で実験するのだろう」といった感想をもつことができ、効果的だった。	・低学年 ・DVDアニメ 「トビウオのぼうやはびょうきです」
153	横須賀市	小複合	道徳	平和といのちの大切さについて考える	昭和28年8月6日、広島に爆弾が投下された。この朝、旧広島県立第一高女1年生220人は、学徒動員で作業中被爆、全員が死亡した。つかの間の青春を精一杯生きて原爆の犠牲となった少女たちと、残された親たちの悲しみをアニメーションとドキュメンタリーを合成して描いている。戦時下でありながら、女学生になった喜びを忘れずに塚の間の青春を過ごしていた少女たちの健気な姿から「みんな笑顔で暮らせるようになってほしい」など、自分と主人公を重ねながら、平和やいのち、友だちの大切さについて深く考えられた。	・高学年 ・DVDアニメ 「夏服の少女たち」
154	横須賀市	小4	道徳	いただきます ごちそうさま	授業では、まず、食事の前や後に何気なく使っている「いただきます」「ごちそうさま」の言葉の意味や思いをふり返った。その後、給食を例に挙げ、給食を支えている「人」や「生命」、「思い」についてマインドマップで考える授業を行った。生き物の命をいただくことの感謝だけでなく、その命を育てたり、調理したりしている「人」への感謝が必要であるという気付きが得られた。また、自分たちの命は、他の生命に支えられているものだという気付きにもつながり、食事を残さず食べたり、食器をきれいに返したりするという実践意欲の向上にもつながった。	光文書院 『ゆたかな心 4年』

155	横須賀市	小2	道徳	おとうとの たんじょう	主人公は生まれたばかりの弟の動きを見て、生きる力を感じ、自分も生きていることを実感した。物語を通して、命はさまざまな人に大切にされていることを知り、命の尊さを理解して、命を大切にすることが育まれた。「おとうとのたんじょう」という教材を通じて、子どもたちは生まれたばかりの弟の様子を見て「生きているサイン」に気づき、両親の嬉しそうな姿から、自分も大切に育てられてきたことに気づいた。授業の後半では、自分の命を大切に思ってくれている人を考え、自分の命の大切さに気づき、一生懸命勉強や運動に取り組み、命を大切にすることがさらに高まった。	
156	横須賀市	小複合	道徳	「平和と命を考える」	長崎の原爆の非道さを、子どもたちに伝える平和の物語を映像化した人形アニメ「ながさきの子うま」（原爆によって命を奪われるのは人間だけではなく鳥や馬などの生き物の命まで奪うことを訴えたストーリー）を複合学年で視聴した。戦争によって引き起こされた人間や動物たちの悲劇を目の当たりにし、戦争の悲惨さを嘆いたり、二度と繰り返してはならないと感想を持ったりした児童がいた。また、5年担任の祖父が持っていた実際の日章旗の寄せ書きから、「戦争を経験していない自分たちが、戦争のことを語りついでいかなければならない」と講話を行った。	小3・4・5年で実施 司会は3年担任。 後半の講師は5年担任。 (参考資料) 「ながさきの子うま」
157	横須賀市	小1	道徳	さるのおかあさん・サヤカ	「さるのおかあさん・サヤカ」を読んで命の力について考えた。生まれつき手が不自由でも子ザルのお世話をするサヤカのすごい所を話し合い、障害があっても工夫しながら一生懸命に生きる素晴らしさに気付くことができた。また、すごい力を持っているのは、サヤカだけでなく自分たちにも命の力があることに気付くことができた。	
158	横須賀市	小4	道徳	生命の尊さ	「五百人からもった命」では、命が危ない患者に対して、ラジオなどの呼びかけによって500人以上の人が輸血のために集まり、様々な人の思いで命を救われるという題材である。「命はあげたり、もらったりすることはできるのか」という問いに対して、「命そのものはあげることにはできないけれど、つながりがあるとあげていることになるかもね」「輸血をできない人も応援する気持ちがつながっているかもね」などとそれぞれが様々な視点から考えることができていた。学習を通して、「命は一人に一つしかないもの」「支え合っていくもの」「困っている人がいたらできるだけ協力したい」などと振り返っていた。	
159	横須賀市	小6	道徳	人権問題について考えよう	拉致問題とはどのようなことをされてしまったのかなぜ、今も取り上げられているのか、人権問題とどのように関わりを持っているのかを再確認した。 学習活動としては、アニメ「めぐみ」の短縮版を見て自分たちと同じような年代の子が被害にあってしまったこと自分たちにもいつそのような危険があるのか分からないからこそ自分の身は自分で守っていく必要があるのだということを動画を見た後で、話し合った。 実際に動画を見ると子どもたちはとても衝撃を受けていて心が動かされている様子であった。また、自分たちには何かできることがないのかどうして日本人を朝鮮が狙ってきたのかということについてすごく関心を持って考えている様子であった。	北朝鮮による 日本人拉致問題ホーム ページ アニメ「めぐみ」

160	横須賀市	小3	道徳	生命の尊さ 「どうか、生きていてくれよ」	「生命はかけがえのないものであることが分かり、生命を大切に生きていくことをねらいとして、消防士である岡村さんはなぜ自分の命を危険にさらしてまで人の命を救おうとするのかを考えた。「自分にしかできない仕事だから」「家族を悲しませたくないから」「たった一つの命を絶対に救いたいという思いが強かったから」などの意見が出され、これからはたった一つしかない自分の命を大切に生きるにはどうしたらよいかを考え、交流した。「けがや病気に気をつける」「後悔のないように生きる」「友だちや家族の命も大切にしたい」という児童がいた。	
161	横須賀市	小5	道徳	生命の尊さ	山岳警備隊の方の活動を読み、自分の命も危ない状況なのに、どうして他人の命を守るために行動できるのか考えた。人は支え合って生きていることに気づき、かけがえのない命を大切に生きていく態度を養った。また、ふりかえりの際に、自分が命が危ないと思った経験を語ることで、身近に危険があることを知らせ、命を大切にする行動をするよう意識をさせた。 また、キャンプ（宿泊体験行事）後に行うことで、火を使った活動や海の活動について命を大切にしながら楽しむためにはどうしたらよいか実際の経験をもとに考えられるようにした。	命をかけて命を守る - 山岳警備隊 -
162	横須賀市	小5	道徳	生命の尊さ	救命講習を申し込んだ。「命をかけて命を守る - 山岳警備隊 -」の単元で学んだ命を守る行動を実際にやっている人から話を聞き、自分たちにもできることを学ぶ機会となるよう設定した。上記の内容をさらに深める活動としてとてもよいものだった。命を守るというのが、児童にとって遠い存在だったものが、自分たちにもできることを実感し、日常への実践意欲につながっていたと感じる。	保健「けがの予防」
163	横須賀市	小6	道徳	いじめ防止活動	例年同様、6月上旬から下旬にかけ、2時間の学年合同道徳授業を実施し、いじめの定義やいじめがあった際の立場（いじめられている人、いじめている人、傍観者、無関心）を様々な教材・活動等を通して確認。その後、グループ毎にいじめを防止するためのクイズや劇等を作り、1～5年生に、いじめ防止を呼び掛ける活動を行った。『いじめをなくすために』一人一人が事前に何ができるか、またはいじめを目撃した際に何ができるのか等を考えてもらえるようなきっかけ作りに努めた。	
164	横須賀市	小複合	道徳	動物愛護精神	子ども達が動物を飼育することの楽しさやその責任を知るために行った。また、動物を飼育している・していないに関わらず、動物を大切にする心や命の尊さを考えるためにも行った。動物も生きている、すなわち大切な命があるということを大前提に、動物を飼う前に何が大切か考えたり、どうすれば毎日ちゃんとお世話ができるかを話し合ったりした。さらには、放棄された動物の実情を知り、命の尊さについても考えた。子ども達は真剣かつ意欲的に学習に取り組んだ。	1年・2年学年指導

165	横須賀市	小4	道徳	命に向き合う	<p>前時では「五百人からもらった命」の話から命のささえ合いについて学び、命を大切に生きていこうとする心を育んだ。本時では「命の詩」を扱った。命の詩を読んだとき、「同じ年でこんなつらい思いをしている人がいるなんて。」と驚いた児童が多かった。自分事として捉えることは難しかったが、他者の立場になって真剣に考える姿が見られた。クラスで考えていくうちに「死が怖かったと思う。それでも詩を書いたりして励ましていたのではないか。」と精一杯生きようとする姿に気付き、感動している児童もいた。「今自分が元気に生きていることが当たり前ではないこと」を感じ、「命を大切にすること」について改めて考える機会となった。</p>	<p>光文書院 「小学 道徳 ゆたかな心 4年」 主題名「命に向き合う」</p>
166	横須賀市	小6	道徳	生命のメッセージ	<p>「限りある命をどのように生きていったらよいのか」と問いかけると「毎日楽しく生きる」「後悔のない人生」などの発言があった。しかし、題材を読み、交通事故で亡くなった親の思いを知り、「今、生きていることが当たり前ではないことを知った。」「生きたくても生きられないで終わる命もある。私達の命は、どんなに価値が高い物よりも高い存在にある。」「命は自分だけの物ではない。産んでくれた母や父の命でもある。」と捉え直すことができた。また、鈴木さんの小学生のみんなに向けメッセージを読むことで、命が人とのつながりの中にあるかげがえのないものであることを理解し、限りある命を懸命に生きようと思えることができた。</p>	<p>光文書院「小学 道徳 ゆたかな心 6年」 主題名「生命のメッセージ」</p>
167	横須賀市	小4	道徳	命に向き合い、 せいいっぱい生きる (生命尊重)	<p>小学4年生で重い病気とたたかい、亡くなってしまった宮越由貴奈さんの書いた「命」という詩。そしてその死を胸に医者として活躍する友人の盛田さんの姿。これらを通して、命には限りがあること、生きたくても生きられなかった命があることなどを知ること、「今ある自分の命を大切に生きたい」「限りある命を、せいいっぱい生きたい」と思う心があることを学習した。 子どもたちは、同じ年齢の子の「詩」と「死」に衝撃を受けながらも、これまで当たり前と感じていた「生きる」ということについて深く考え、意欲を高める様子がみられた。</p>	<p>せいいっぱい生きる ー命の詩ー</p>
168	横須賀市	小2	道徳	いのちの たんじょう (生命尊重)	<p>自分の命や名前には、家族の願いや思いがつまっていることを知り、より一層自分の命を大切にしたいと思う心があることを学習した。 さらに授業後に保護者に子ども自身の名前の由来をインタビューするという課題に取り組み、より自分事に捉えて考えることができた。インタビューしたことを授業の中で共有し、感動している様子がみられた。</p>	<p>おとうとの たんじょう</p>
169	横須賀市	小3	道徳	生命の尊さ 「いのちのつながり」	<p>命と命がどのようにつながっているのかを考え、大昔からつながってきていることに気づかせた。おおよそで計算を数字で見れるようにすることで、その多さを実感させ、自分の命の大切にする心を育んだ。 また、自分がこれからつないでいく命についても話を聞き、自分自身の命がいかに大切かを考えることができた。</p>	<p>光文書院 どうとく 「いのちのまつり」</p>

170	横須賀市	小3	道徳	いのちのつながり 「いのちのまつり」	本教材は、主人公の「コウちゃん」が、島のおばあちゃんの話聞いて、「命のつながり」について考えるという物語である。主人公の「ぼくのいのちってすごい」の一言から「受け継がれ、引き継がれていく命（連続性）」の尊さについて考えた。先祖の誰一人欠けても今の自分が存在しないことや、これから自分も命をつないでいく立場になることを感じる事ができた。	光文書院 道徳 「ゆたかな心」 (教科書)
171	横須賀市	小3	道徳	「いのちのまつり」	命と命はどのようにつながっているのかを考えた。教材の内容は、自分の命はお父さんお母さんが生んでくれただけではなく、その前には数えきれないくらいの先祖がいる。おばあさんの話を聞いて主人公がそのことに気付くという内容である。子どもたちも自分の先祖が、そのようにたくさんいるんだということに改めて驚いている様子だった。自分の命は過去から大切に受け継がれているものだという自覚を持つことから、命の大切さを学習することができた。	
172	湘南三浦	小3	道徳	「大切なものは何ですか」	虫たちがそれぞれの一番たいせつなものを話し合う姿などを通して、生命を大切にするとはどういうことか、一人一人が考え、話し合い活動を行った。	
173	湘南三浦	小5	道徳	人権について	本校で起きた問題行動について学年集会を開催し、個人個人の人権を重んじる意識を持つよう全担任で呼びかけた。また、人権についての意識を更に深めるために、道徳の交流授業を実施した。全5学級ローテーションしながら、5人の担任がそれぞれの内容で人権をテーマに授業を行い、人権を軽んじる行動を断じて許さない姿勢を示した。全国的に報道された実際のいじめ事件を紹介し、いじめが被害者の人生に取り返しのつかない傷を残すだけでなく、加害者の人生にも一生の傷を残すことに気づかせた。	
174	湘南三浦	小複合	道徳	うまれてきてくれて、ありがとう	あなたは、世界でたった一人のかけがいのない存在。うまれてきてくれて、ありがとう。」 絵本を通して、子どもの自己肯定感を育み、かけがいのない命の誕生を喜び合う。 上記のことを読み聞かせを通して行った。	絵本「うまれてきてくれてありがとう」 童心社 にしもとよう 文 黒井健 絵
175	湘南三浦	小6	道徳	命のかがやき	主人公の成長を喜び、共に生きることのすばらしさを語る父親の姿などを通して、命について考えるとともに、人とのつながりの中にあるかけがえのない命を大切に、精いっぱい生きようとする心情を育てることができるよう学習した。	光村図書 「命のかがやき」
176	湘南三浦	小3	道徳	平和について	国語科教材「ちいちゃんのかげおくり」で、題材を通して戦争の悲惨さ、悲しさなどや平和について学習した後に、道徳で自分たちと同じ小学生のスピーチ「平和への誓い」の動画の視聴や広島平和記念資料館の展示物や遺品を見る機会を設け、自分事として戦争や平和について考える授業を行った。	小学生代表 平和への誓い 動画・スピーチ原稿 広島平和記念資料館

177	湘南三浦	小1	道徳	「いきているって」	教科書の教材文を読んで様々な場面を取り上げ、生きていることについて考えた。実際に聴診器で心臓の音を聞くことを通して、生きていることを実感し、生命を大切にしようとする心情を持たせる。	光村図書1年 「いきているって」
178	湘南三浦	小2	道徳	もうすぐ八才	事前学習で、小さなころと比べて変わってきたと思うことを書かせた。授業では、生きているとはどういうことかを考えさせ、自分の成長を振り返って変わってきたと思うところを発表しあった。その後、教科書の「もうすぐ八才」を読み、主人公の「わたし」が「八年生きたら、もっとかわるかな。」と思った時の気持ちを考えさせた。その中から成長することは、できなかったことができるようになること、友達が増えること、ワクワクして楽しいことだという意見がでてきた。終末の話で、授業を振り返り、これから成長していくこと、変わっていくことが楽しみだねと説話をを行った。	光村図書出版 きみがいちばんひかる ときー2年
179	湘南三浦	小6	道徳	かけがえのない命「命のかがやき」	道徳の教科書にある読み物教材を基に学習を進めた。導入では、教師自身の出産時の喜び体験を話して聞かせた。教材を読み聞かせ、ダウン症の赤ちゃんが成長していく様子を写真で見ても、両親がわが子を大切に育てている一生懸命さを感じられるようにした。小さい子が大好きな児童が多かったので、読后感想の中にも、赤ちゃんがかわいいと書かれているものがあった。児童たちが、親から大切にされて生まれてきたということを感じてくれていることを願う。	光村図書出版 きみがいちばんひかる ときー6年
180	湘南三浦	小複合	道徳	平和人権学習	出前授業講師から東日本大震災や能登半島地震での被災地の様子や人々の生活について説明を聞き、災害支援のことやボランティア活動について小学生ながらにできることがあることを知った。人と助け合い、いのちを大切にすることについて、それぞれが考えた。	ADRA Japan講師派遣
181	湘南三浦	小5	道徳	命の大切さ	「命の詩～電池がきれるまで」を題材に、作者の「電池は切れても取り替えればよいが、命を簡単に取り替えることはできない。だからせいいっぱい生きる」というメッセージを受け取り、生きたくてもいえることができない子に思いを巡らせた。今生きている自分たちの命、友達の命、家族の命、みんなの命の大切さについて考えた。	光村図書 命の詩～電池がきれる まで
182	湘南三浦	小2	道徳	支え合う命	「がんばれアヌーラ」を題材に、重い病気にかかったぞうのアヌーラの看病をする飼育員のおじさんの気持ちを想像した。アヌーラの体をたおれないように両側から体を寄せる仲間のガチャコとタカコの行動にも目を向けアヌーラが元気になった時の飼育員のおじさんの気持ちを想像すると共に、「命を支え合う」ことについて、自分の命が支えられている時を考えた。	光村図書 がんばれアヌーラ
183	湘南三浦	小2	道徳	生命の尊さ	・生きていることのすごさ「ぼくのかさぶた」 傷が治ったことから、体は毎日新しくなることを知り、生きていることの素晴らしさを実感した登場人物の姿を通して、生きていることの不思議さやすごさについて考え、友だち同士で紹介しあった。	教科書

184	湘南三浦	小5	道徳	命の大切さ	神経芽細胞腫という病気で亡くなった11才の子の詩やエピソードから、どんなことを彼女は最期に他の人へ伝えたかったのだろうかと考えた。「電池はすぐにとりかえられるけど」「命はそう簡単にはとりかえられない」という比喻および対比表現に注目し、いじめや自殺の大きな原因の1つである「メンタルケア」について考えた。子どもたちのふりかえりには、きついことや大変なことに取り組んでいるときいかに気分転換をして切り替えるかを考えていきたい、自分が今生きている環境がいかに恵まれているかがわかった、院内学級の存在を初めて知り小学校以外にも病気と闘いながら勉強する子がいることを知ったという感想があった。	光村図書道徳5 「きみがいちばんひかるとき」
185	湘南三浦	小4	道徳	生きているしるし	自分の生まれたときのことを父親から聞き、改めて妹の泣く様子を見つめる「ちえ子」の姿を通して、命の大切さについて考えさせ、一つしかない尊い命を大切にしていこうとする心情を育てた。教科書を読みながら、随時発問し、ワークシートを用いて、考えたことを整理していった。授業中、自分に兄弟姉妹がいる児童は、自分のことのように置き換えた発言が見られ、そこから、一人ひとり具体的にイメージすることができ始めた。そして、多くの人に支えられている命を大切にしていこうとする考えを深めた。	道徳の教科書
186	湘南三浦	小4	道徳	生きているしるし	自分の生まれたときのことを父親から聞き、改めて妹の泣く様子を見つめる「ちえ子」の姿などを通して、命の大切さについて考えた。一つしかない尊い命を大切にしていこうとする心情を育てるために、わたしたち1人1人の命はなぜ大切なのかを考え、話し合った。	学校道徳 教科書
187	湘南三浦	小1	道徳	「わたしってなあに」子どもの権利条約を知ろう	藤沢市が作成しているリーフレット「わたしってなあに」を使用し、子どもの権利条約をクイズを通して知ると共に、世界の子どもたちの中には、戦争などによって、権利が守られていない、学びたくても学校に行けない子どもたちがいることを知った。	「わたしってなあに」
188	湘南三浦	小2	道徳	いのちをいただくとは	絵本『いのちをいただく』を読み聞かせし、感想をグループ毎に出し合った。「いのちがあった食べ物を残さず食べようと思った」、「いただきますのあいさつは、いのちをいただいているということだと思った」、「こんな仕事があって（屠殺）肉を食べることができるんだ」、「坂本さんにはいつまでもこの仕事をやってもらいたい」、「みいちゃんが育ててきた牛を最初、食べられなかった気持ちがすごく分かる」などいろいろな感想をもったようであった。授業後の給食では、残食が減り、「いのちを無駄にしてはだめだよ」と残している友達に声かけしている場面も見られた。	原案 坂本 義喜 作 内田 美智子 絵 魚戸おさむ 絵本 『いのちをいただく』
189	湘南三浦	小5	道徳	生命の尊さ	まず1年生の時と比べて自分自身が日々変化し、成長し、生きている一つの生命であることを実感させた。その後、命のすばらしさをうたった資料『同じでちがう』を読み、「自分と友達との“同じでちがう”」ことを考えさせた。子ども達は同じ命をもつ人間であると共に、一人一人には個性があり、違うからこそ、それぞれの違いを生かして助け合うこともできる、と話し合った。また、「命についてどんなことを考えたことがあるか」をテーマに話し合い、全体で交流した。その結果、一人一人考え方が異なることを知り、自分とは異なる「個」を大切にすることや自分と同じ命を大切にしようとする心情を養うことができた。	(参考資料) 光村図書 道徳5年 「きみがいちばんひかるとき」 『同じでちがう』

190	湘南三浦	小3	道徳	いじめをゆるさない心	いじめにあたる行為への意識が薄かったり、他者の気持ちを考えられなかったり、周囲が傍観者となって止められなかったりする児童の実態を踏まえ、絵本を題材にして授業を行った。被害者、加害者、傍観者それぞれの立場の登場人物に注目し、被害者や加害者だけでなく、周囲にいる者も含めて一人ひとりが当事者であること、見て見ぬふりをせず、積極的に声掛けや助けを求める行動をとることがいじめの早期解決につながるとの意識を高めた。	(使用教材)『わたしのせいじゃない』レイフ・クリスチャンソン著、岩波書店
191	湘南三浦	小5	道徳	いじめをゆるさない心	いじめを発見したときに自分ならどうするか、心の中にある葛藤や不安と向き合いながら考える授業を行った。個で考える活動とペア・グループでの話し合い活動を組み合わせることで、友だちの意見を聴いて自分の考えを広げ深められるようにした。「自分が行動しても変わらないかもしれない」「自分がいじめられるのが怖い」などの本音を語りつつ、「それでも行動しなければ変わらない」「自分にできることもあるはず」「みんなで行動しよう」と、個や集団としてのあり方を改めて見つめる姿が見られた。	(使用教材)『わたしのせいじゃない』レイフ・クリスチャンソン著、岩波書店
192	湘南三浦	小2	道徳	平和ってどんなこと?	絵本を読んで、子どもたちにとっての平和とはどんなことなのかを問いかけた。三食食べることや友達と遊ぶこと、暖かい布団で寝ることなど、日常生活の中に平和がたくさんあること、そして、それがいかに尊いかということに気づかせた。	平和ってどんなこと? 浜田桂子作 へいわってすてきだね 安里有生
193	湘南三浦	小1	道徳	「いきているって」	主人公の日常的な行動は、生きているからできるということを実感するために、自分の胸に手を当て心臓の鼓動を感じたり、友だちの背中に耳を当てて、体の音やぬくもりを感じ取らせ、生きているあかしや、すばらしさについて話し合った。	光村図書どうとく①
194	湘南三浦	小2	道徳	「ぼくのかさぶた」	教材文は、主人公の男の子がけがをして治ってきたかさぶたを見て、「生きていることのおすごさ」について気づいていくものである。教材文を通して、児童は自身の体が今この瞬間も新しくつくりかわっていくことを再認識し、驚く様子が見られた。また、心と体が成長していくためには、自他の生命を大切にしていくな心と行動が大切であることに気づき、ワークシートにも感想をまとめた。	光村図書どうとく②
195	湘南三浦	小6	道徳	平和学習	広島の実験体験伝承者を招いて講話をしていただいた。講話の後、親子で平和について語り合う時間を設けた。自分の周りだけが平和であればいいのか(世界状況から)、日々の当たり前な時間を大切に過ごしていきたい等、子どもたちなりに平和について深く考える時間になった。	被爆体験伝承者 PTA親子ふれあい活動を 兼ね保護者も参加
196	湘南三浦	小5	道徳	生命の尊さ 「三十八億年の命」	読み物教材「三十八億年の命」を通して、命の繋がりについて扱った。「命は誰のものなのか」という問いを設定し、長い繋がりの中にある生命のかけがえのなさに気付けるように話し合いを進めた。また、筆者の主張を理解するだけでなく、自分自身の考えを深められるよう、授業のまとめでは生き物年表を作成した。これにより、生命の長い歴史が現在の自分たちの命に繋がっていることを視覚的に捉えられた児童もいた。多くの児童が、一人ひとりがたった一つのかげがえのない存在であるということに自覚し、命は自分だけのものではないという思いを抱いていた。	

197	湘南三浦	小1	道徳	いきているっていいね	どきどきする心臓の音からいのちを感じる活動を行った。心臓の音に着目したため、動物は生きているが木や草花は心臓がないからいのちではないという意見が出た。しかし、あさがおを育てた体験から植物もいのちがあることに気づいた児童から、人も動物も植物もいのちがあるということに気づくことができた。「いきていると、どんないいことがあるか」というテーマでクラスで話し合い、楽しいことやうれしいことがたくさんあることに気づくことができた。いきているからいろいろなことを感じることができ、食べたり遊んだり、お勉強したり家族と一緒に過ごしたりすることができるので、「いきているっていいね」という意見がたくさん出た。	道徳教科書【いきているって】
198	湘南三浦	小5	道徳	防災『自分の身は自分で守る』	災害時に自分たちにできることを考えて話し合った。災害時だけではなく、普段の生活の中でも、安全に生活するためには、どんなことが大切か、自分たちに何ができるか、図を使って考えた。	教科書
199	湘南三浦	小5	道徳	命の詩	宮越由起奈さんの「命」という詩を題材に、命について考えた。自分と年齢が変わらない1人の女の子の生涯を知り、「精一杯に生きると言うことは、どういうことなのか」を自分なりに考え、お互いの発表を聞き合った。クラス内から「生きられるのに、あきらめてはいけない」という言葉が最後には聞こえるなど、由起奈さんの心と真剣に向かい合う時間となった。	
200	湘南三浦	小4	道徳	大切な命	「生きているしるし」を読み、「一人一人の命はなぜ大切だと思うか。」を話し合った。「自分がもしお母さんで、赤ちゃんが生まれたら、絶対に守ろうと思う。いろいろな人の思いがこめられていると思ったからです。」「たくさんの人に支えられていること、心配されたことをあらためて今日振り返ることができました。」「自分の命を大切にしながら友達の名も大切にしていこうと思います。」など、児童は命について考えていた。	道徳の教科書
201	湘南三浦	小6	道徳	命をつなぐ	「命の旅」という北海道の知床の川に戻ってきた、マスやサケを中心とした食物連鎖の文章を読み、「命が命をつないでいる」ということを知った。そこから、「自分たちはどのような命のつながりの上で生きてきているのか」を考えた。普段食べているものも、それぞれが一生懸命に生きていたものだとすることを忘れずに、感謝の気持ちを持ってもらえるような授業を行った。	道徳の教科書
202	湘南三浦	小2	道徳	生命の尊さ	第2学年道徳「もうすぐ八さい」の授業で、生きていることの不思議さやすばらしさを実感し、命を大切にすることについて子どもたちと一緒に考えた。小さい頃と比べて変わってきたことを問うと、身長が伸びた、九九ができるようになった、友だちとけんかせず遊べるようになった等、自分のさまざまな成長を実感していた。そこで、生きていると変わっていくことがたくさんあり、生きることの楽しみと期待を感じさせることができた。 また、9月に出産した教員から名付けの由来を聞くと、自分の名前にも興味を持ち、家族にインタビューをしてくるなど、興味深く活動に取り組んだ。どれだけ家族に大切にされているかを実感することで、自分のことや友だちのことを大切にすることを育んだ。	

203	湘南三浦	小4	道徳	命の尊さ	映画『ブタがいた教室』という作品を鑑賞し、「飼育したブタを食肉センターに送るのか?」「送らずに別の方法を模索するのか?」自分だったらどのような判断を下すのかを考え、意見を交流した。子どもたちは、互いの考えを伝え合う中で、食べるということが、命を『奪う』ことではなく、命を『受け継ぐ』ことなのだ認識を改め、新たな価値観を得ることができた。生きるという事は、多くの命によって支えられていることであり、日々、命をいただいていることに感謝の気持ちをもつべきであるとの認識を深めることができた。	映画『ブタがいた教室』
204	湘南三浦	小1	道徳	命の素晴らしさ	日々の生活の中で、命の大切さや尊さを感じ取る活動を行った。「ハムスターのあかちゃん」の題材を読み、これから大きくなるハムスターの赤ちゃんにかきたい言葉を考え、命の大切さについて考えた。また、命の素晴らしさを感じた時の体験や経験を話し合い、命あるものを大切にしようとする気持ちをもてるように指導した。	ハムスターのあかちゃん (新訂あたらしいどうとく①)
205	湘南三浦	小6	道徳	命の尊さ	殺処分を待つ犬達を題材にした物語を読み、学級でペットの命、ペットへの接し方、ペットの幸せについて話し合った。ペットを家族の一員として扱うこととペットを家族の一員の様に扱うことの違いについて議論した。災害時の避難所生活で、ペットと一緒に避難したいという意見とアレルギーがありペットが近くに居られると困るといった意見が対立し、命の尊さについて深く話し合うことができた。	新訂新しい道徳⑥ 「ある犬のはなし」
206	湘南三浦	小2	道徳	「ど根性ひまわり」を通して東日本大震災を知る	石巻市出身の教員が東日本大震災の津波で流された自宅やがれきの山となった故郷の映像を使い、備えることの大切さを伝えるとともに被災者に思いをはせた。震災後に津波に負けず開花した「ど根性ひまわり」の種をクラスでまき、自然災害のことを考える機会を設定した。	HP がんばろう石巻の会絵本 第三文明社 漆原智良 「ど根性ひまわりのきーぼーちゃん」
207	湘南三浦	小3	道徳	生命の繋がりを 感じる	すべての生命に生物学的な父親と母親が存在することを知るとともに、永い年月にわたって生命が受け継がれていることを道徳教材「いのちのまつり」とワークショップを通して学んだ。	助産師 「ヌチヌグスージ (いのちのまつり)」
208	湘南三浦	小4	道徳	思春期・命の授業	妊娠から出産までの胎児の成長を学習し、生命の尊さを学んだ。受精卵の大きさや心音を実習的に体感するとともに、ボランティア保護者によるお芝居を通じて、適切な男女の出会いや、受精について考えた。	助産師
209	湘南三浦	小1	道徳	ハムスターのあ かちゃん	「おいしく朝食が食べられる」など、見過ごしがちな生きている証を考えた。また、自分の生命に対して、愛情をもって育んできた家族の思いに気付かせた。これらの教材と実体験を考えあわせ、振り返りを発表した。	道徳の教科書 東京書籍

210	湘南三浦	小複合	道徳	いじめを許さない学校づくりを目指す	「心のコップの大きさは人それぞれ」で、「ちょっと嫌なこと＝コップの水1滴」を注がれ続けると、心のコップの水が溢れてしまう。どのくらいの水で溢れてしまうのかも人それぞれ。だから、「いじめの種」を見逃さず、できるだけ早く摘み取る必要があるということ共有し、学校全体でいじめをなくすためのキャンペーンを行った。その中で、学年の発達段階や学級の実情に合わせて資料等を活用しながら道徳の授業を行い、いじめは消えがたい心の傷を負わせてしまうことを学んだ。また、いじめやいじめにつながる言動を見かけたら、信頼できる大人に相談すること等を学んだ。	NHK for school動画 “心のコップ”のお話 (令和6年度いじめ防止サミット資料)
211	湘南三浦	小3	道徳	生命の尊さ	道徳教材を用いて、自分のルーツが遠い祖先からつながっていることに気づき、考えることができた。 その受け継がれるバトンの不思議さを、改めて実感することで、3年生なりに自分が生まれたことの価値に気づき「こんなにつながっているなんて、すごい」と感想を漏らす児童も多数いた。	東京書籍 新しいどうとく3年 「ヌチヌグスージ」 (いのちのまつり)
212	湘南三浦	小1	道徳	いのちのつながりってなんだろう	絵本「おへそのあな」を使って生命の誕生について知り、自分がかげがえのない存在であることに気づくことができた。また、自分が誕生するまでの家族の思いを知り、周りの友だちも同じように大切に育てられてきたことを理解することで、お互いを大切にする気持ちを持つきっかけとなった。	長谷川義史 「おへそのあな」
213	湘南三浦	小1	道徳	命を守る	茅ヶ崎警察署生活安全課主催の高校生による非行防止（防犯）教室を行った。西浜高校の演劇部が「①不審者・誘拐防止」と「②いじめ」をテーマに演劇形式で実施した後、それを振り返りながら、やって良いこと、悪いことを教えてくれた。①は、不審者が公園で一人で遊んでいる子に声をかけて連れて行こうとする場面だった。②は、自慢する子を面白くなくて無視、それをかばった子も無視されるという場面だった。そういう時は、どのように対応すればいいのかを考えさせたり説明したりした。	
214	湘南三浦	小6	道徳	命の尊さ、有難さ	今まで社会科や国語科などで学習した戦争についての学習を振り返り、「平和について」ポスターを作製することで、戦争の悲惨さ、平和の尊さや大切さを改めて考える契機となった。	「平和について」ポスター作文コンテストへの応募
215	湘南三浦	小複合	道徳	相互理解、寛容	自作教材を用いて、人の心を傷つける行為は、暴力と同じでいじめであること、また、その様子を見て、楽しんだり、笑ったりすることもいじめにつながることを、朝会を通じて投げかけた（発問）。これを受けて各クラスで考え、学年の発達段階に応じて「どのような場面で人を傷つけてしまっているか、どうすれば良かったのか」について考え、共有を図った。	自作教材、 全学年で実施

216	湘南三浦	小3	道徳	生命の尊さ	<p>自転車を手放して運転したり、危ない乗り方をしたりする児童が多い現状から、自転車の乗り方について学習した。</p> <p>動画を視聴し、加害者側の意識で自転車事故をイメージさせることで、自分事として自転車の乗り方について考えることができた。時間に余裕を持って乗る、ヘルメットをかぶる、夜間はライトをつける、スピードを落とすなどの振り返りができた。</p>	NHKforSchool「子ども安全リアルストーリー」
217	湘南三浦	小1	道徳	生命の尊さ	<p>身近な生き物の誕生や成長の様子を優しく見つめ、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる授業を行った。教材「ハムスターのあかちゃん」を読んで、ハムスターが成長していく様子から普段当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証」を実感することができた。また、自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いや、自分の生命に対して愛情をもって育ててきた家族の思いを知り、自分の生命そのもののかけがえのなさ、大切さについて話し合った。</p>	道徳 教科書 「ハムスターのあかちゃん」
218	湘南三浦	小6	道徳	限りある命の中で	<p>道徳の教科書にある「たった一つの命だから」【東京書籍】の授業を行った。教師が教材を範読し、まず『誉佳さんの生き方で心に残ったのは、どんなことか』みんなで考えた。次に、誉佳さんが知人に送った年賀状に書いた「たった一つの命だから」にどんな言葉が続くか考えた。子どもたちは、自分の命、仲間の命の尊さについて真剣に考えていた。病気になっても力いっぱい生きていた誉佳さんの生き方に影響を受け、自分の生き方について考えさせるきっかけとなった。</p>	他クラスの児童の様子を把握する意味合いも含めて、同じ教師が同じ教材で各クラスを回って授業をした。(6年5クラス)
219	湘南三浦	小1	道徳	命の素晴らしさ	<p>道徳の教科書にある「ハムスターのあかちゃん」【東京書籍】の授業を行った。ねらいは、「身近な生き物の誕生や成長の様子を優しく見つめ、命あるものを大切にしようとする態度を育てる」である。導入では、身近な生き物とのふれあいの経験を話した。展開では、ハムスターの赤ちゃんの成長を見守る母親目線になって話しかける活動をした。場面絵を黒板やモニターで児童に見せながらどんな言葉をかけるかを考えていった。動物を飼育した経験のない児童のために、終末に、ハムスターの様子がわかる動画を見せた。「小さい」「かわいい」といった感想が出てきて、命の素晴らしさを感じさせることができた。写真や動画だけでなく、実際に見たりふれあったりする学習を行うことでさらなる効果が得られるのではないかと考える。</p>	新しい道徳 1 東京書籍
220	湘南三浦	小5	道徳	支えあう命 「お母さんへの手紙」	<p>主人公は重い心臓病で、手術を受けることになり、それまで支えてくれた母親宛ての手紙を題材にしている。母親に対してどんな想いで手紙を書いたのか、今まで母親にどのように支えられてきたのか、自分自身はどんなのかを考えた。そこから限りある命の尊さにつなげていった。児童からは、命は大事だということはわかっているけれども、これまで以上に命の大切さや尊さ、命が支えられていること、自分もそうだが相手にもかけがえのない命があるということを再確認したという振り返りが多くあった。</p>	

221	湘南三浦	小複合	道徳	いのちのじゅぎょう	<p>赤ちゃんの誕生の様子を知り、赤ちゃんが大切に大きく育てられたことを知り、自己肯定感を高める目的で授業実践を行った。</p> <p>NHK「ふしぎがいっぱい」5年理科「人のたんじょう」の視聴や、模型を用いた胎児の大きさの確認することで、視覚的に児童が赤ちゃんが生まれてくる様子がわかるようにした。</p> <p>赤ちゃんと同様の大きさ・重さの人形の抱っこしたり、実際に産休に入る直前の本校職員のおなかの中にいる赤ちゃんの心音を聞いたりする活動を取り入れ、いのちを五感で感じ取れるようにしたことで、いのちの大切さに気付くことができた。</p>	本校職員 複合学年（本校特別支援学級を対象とした授業）
222	湘南三浦	小3	道徳	新しい命 命が生まれ育つこと 大切な命	<p>生命は自分だけのものではなく、周りの人々に支えられていることに気づき、生命を大切にしようとする心情を育てる。</p>	
223	湘南三浦	小5	道徳	生命の尊さ 「太陽のようなえがお」が命をつなぐ	<p>夏休み明けには防災教育を行っているが、2024.1.1、2011.3.11、1995.1.17等、児童自身や保護者も経験している震災のことを取り上げ、「怖い」「逃げよう」だけではなく、「命をつなぐ」ことをテーマに授業を展開した。特に、阪神淡路の震災は「震災ボランティア元年」とも言われ、その活動が今に繋がっていることを意識させ「自助」「共助」にも触れた。</p>	
224	湘南三浦	小3	道徳	「ごめんね、サルビアさん」	<p>動植物を心をこめてお世話をする大切さについて考えた。</p>	
225	湘南三浦	小複合	道徳	内容項目「生命の尊さ」	<p>内堀氏がアフガニスタンで撮った写真の巨大パネルを空き教室全体に展示した。児童一人ひとりが気になった写真に付箋を貼り、その理由を話していった。写真の一枚一枚には、その裏にある背景や、いきさつ、その後があり、そのことを内堀氏は愉しく話していた。アフガニスタンは大変な状況で、日本とは全然違った環境であるが、写真にうつった子どもは、どの子も生き生きとしていて、生きる喜びにあふれていることを児童も感じていた。内堀氏の「みんなにとって、本当に大切なものは何？」「アフガニスタンの人たちにとって、大切なものは物質的なものではない」という話が子どもの心を大きく揺さぶっていた。</p>	学年1～6年 ゲストティーチャー 写真家：内堀タケシ氏 （光村図書『ランドセルは海を越えて』筆者）
226	湘南三浦	小5	道徳	内容項目「公平・公正・社会正義」	<p>授業者はハンセン病問題を提示しながら、差別をしてしまう自分の心に目を向けるように計画した。児童は、ハンセン病問題をあつかっている際には、「差別は絶対にいけない」と話していたが、記憶に新しいコロナバッシングが話題になると、「自分も差別をしていたのではないか」「差別をしてしまうのではないか」と自分を見つめなおしていくこととなった。それぞれの経験を話す中で、人間の尊厳を踏みにじる差別は、恐怖や人間の弱さ、そして軽はずみな言動から生まれことに気づいていた。</p>	道徳教科書 『13歳から考えるハンセン病問題』

227	湘南三浦	小3	道徳	主題「命のふしぎ」	教材「ヌチヌグスージ～命の祭」を読み、「命のバトン」とはどのようなことなのかを考えた。教材に出てくる沖縄の風習「シーミー（墓参り）」の画像を見せたり、お墓参りの目的や経験を話したりすることで、教材への理解を深めることができた。また、自分の命が続いてきた様子を絵本の挿絵を用いることで、「命のつながり」を視覚的に捉え、受け継がれていく命の尊さや大切さに気づくことができたと思う。	教材名「ヌチヌグスージ～命の祭～」
228	湘南三浦	小4	道徳	主題「命の不思議さ」	教材「生き物と機械」を読み、生き物と機械の違いを考えることを通して、命とはどのようなものなのかを考えた。本文や生き物の画像などから、機械にはない命の強さを感じさせるとともに、命はかけがえのないものであることを改めて考えた。また、命とはどのようなものかを考える中で、これから先、技術の進歩によって人と見分けがつかないAIが生まれたとして、それには命があるのか。など、想像を膨らませ、命について多面的・多角的に考えることができた。	教材名「生き物と機械」
229	湘南三浦	小4	道徳	わたしのいもうと	「いじめ」をテーマにした絵本「わたしのいもうと」という絵本を使い、一人ひとりが尊い存在であることについて考える授業を行った。登場人物である女の子が、学校でいじめを受け、傷つき、不登校になってしまったという話である。「いじめは絶対にしてはいけない」「いじめをしていた人ほど何も気にしていない」「相手の気持ちを考えていない」等、子どもたちは、いじめはあってはならないことだと再認識した。また、命はかけがえのないものであるということについても考え、一人ひとりを大切な存在として認め、ともに生きていくことの重要性を学んだ。授業後も引き続き、人権感覚を育てることに努力している。	絵本「わたしのいもうと」
230	湘南三浦	小1	道徳	命をいただく	「食べることは好き？嫌い？」「それは、なぜ？」と問う。「牛肉は食べる？」「なんの動物の肉か知ってる？」と聞くと、多くの子が牛肉であることを知っていた。 ・『もうすぐ食べられるぼく』を読む。 “せめて、ぼくを食べた人が自分の命を大切にしてくれたらいいな” 食べずに生きていくのは難しいこと。肉も魚も野菜も“命をいただいている”ということをお忘れずに、少しでも残さず食べようと話し合った。中には、「かわいそうだからもう牛肉はもう食べない」という子もいた。	絵本『もうすぐ食べられるぼく』
231	湘南三浦	小3	道徳	生命の尊さ	教材に登場する様々な虫たちがそれぞれ大切だと思うものについて話し合う中で、命を大切にすることはどういうことであるかという点について考えていった。話の中でモンシロチョウが死んでしまい命は限りがあるもので、失ってしまったら取り戻せないということを確認した。はじめの児童の反応としては、「家族」「友だち」が挙げられる中で「命」と答える児童が多くいた。そのため、命を大切にするためにどんなことに気をつけたいか深く考え、命の大切さについて考え直すことができた。	光村図書『大切なものは何ですか』

232	湘南三浦	小6	道徳	生命の尊さ	<p>戦時中の話を聞いたり映像を見たりして、戦時中の社会の様子や、特攻隊という存在を知るところから授業を始めた。実施に特攻隊へ志願した藤井一さんのエピソードを紹介し、藤井さんが家族にあてた手紙に触れ、それをもとに、特攻隊へ志願した人々の思いについて考える活動を行った。授業の最後では、「いのちの作文」を書き、まとめとした。作文には、</p> <p>「いのちを大切にしたい」、「今のような戦争のない国であり続けてほしい」、「先人たちのために前を向いて生きていきたい」など、生命の尊さやこれからの自身の過ごし方について考えた内容が多く見られた。</p>	映像教材
233	湘南三浦	小4	道徳	からだと命の学習「いのちの授業」	<p>助産師の方と妊婦の方に「いのち」の始まりから生まれてくるまでを教えてもらった。模型を元に少しずつ大きくなる様子や、お腹の中で大きくなることを知り驚いていた。妊婦体験のエプロンの着用や、人形を抱っこする経験等を通して、妊婦や子育ての大変さを実感するとともに、自分がこのように大切にされていたと感じる児童も多くいた。感想では、命や自分に対して大切に思う気持ちが多く書かれていた。</p>	講師は、助産師を中心に妊婦の方のお話や、町部局の子ども育成課の協力のもと、体験授業を行った。
234	湘南三浦	小3	道徳	大切なものは何ですか	<p>「大切なものは何ですか」という題材において、あなたは命を大切にするために何ができるでしょうか？ということ、それぞれの体験談や教科書本文に登場する蝉や虫たちに置き換えて考えたりすることでいのちの大切さを育んだ。</p>	
235	湘南三浦	小3	道徳	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にする	<p>身の回りの自然や生き物との関わりについて、「生きている仲間」を大切にするやよいさんの姿を通して考えさせた。はじめに野菜や花を育てた経験を振り返り、「生きている仲間」を読み、やよいさんはどんなことをトマトに話しかけたのかを、演じて考えた。さらに、やよいさんはどうしてトマトを「生きている仲間」だと思ったのかを考え話し合った。最後に、自分たちの周りには、どんな「生きている仲間」がいるか、また、どうして「生きている仲間」だと思ったのかを考え発表した。児童は、「食べ物も一つ一つが命だから、ありがたいの気持ちをわすれないようにする」などと、生命のありがたみに気づいていた。</p>	光村図書 「生きている仲間」
236	湘南三浦	小3	道徳	大切なものはなんですか	<p>セミは、虫たちに一番大切なものを尋ねた。コガネムシはお金、アリは食べ物など、大切なものを挙げていく中、アゲハチョウは、池に落ちて動かなくなったモンシロチョウの話をする。セミは、みんなの話を思い出しながら、一番大切なものについて考えこむ。生き物たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿を通して命を大切にするとは、ということかについて考える。</p>	光村図書 「大切なものは何ですか」
237	湘南三浦	小3	道徳	生命の尊さ	<p>虫たちがそれぞれのいちばん大切なものを話し合う姿などを通して、生命を大切にするとはどういうことかを考えさせ、生命の尊さを感じ、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。</p>	光村図書 「大切なものは何ですか」

238	湘南三浦	小5	道徳	生命の尊さ	宮越由起奈さんが書いた命の詩やエピソードなどを通して、命の大切さについて考えさせ、限りある命を懸命に生きることの尊さを感じ取り、自分らしく精いっぱい生きようとする心情を育てる。	光村図書 「命の詩 電池が切れるまで」
239	県央	小6	道徳	国際理解 人権教育	生命のつながりについて学び、自分の命を大切にするだけでなく、他人の命も大切にすることについて考えた。また、映像資料を用いて、国際理解について考え、多国籍文化の共存の大切さと難しさを実感しながら話合った。	教科書「その思いを受けついで」 動画「外国から来た転校生」
240	県央	小1	道徳	いきているっていいな【生命の尊さ】	道徳「みんないきている」を読み、日々の生活で実感する身体感覚や感情を思い起こす活動などを通して、生きている良さや素晴らしさについて考えさせた。児童からは、友達と遊んでいるときや、お腹が減って給食を早く食べたいと思ったときに、生きていることを実感するとの発言があった。授業の最後には、普段当たり前に感じられる感情や感覚を大切にしていこうとする姿が見られた。	
241	県央	小複合	道徳	あなたのいのちは宝物【生命の尊さ】	妊婦である教師の講話から、命を生み出すことの大変さを体験的に感じることで、自分自身がかげがえのない存在であることに気付かせることを目標とし、授業を行った。妊婦ジャケットを着用したり、赤ちゃん人形を抱いたりする活動を通して、生命の尊さを実感させた。さらに、自分が生まれたときの家族の気持ちを知る活動から、自分の命は家族によって支えられていることを知り、自他のかけがえのない命を大切にしようという心情を育てることを目指した。	「あかちゃんが生まれる一幼年版」ニルス・ダヴェルニエ作 中島さおり訳
242	県央	小1	道徳	生命の尊さ	自分にとって大切なものが何かを考える活動を通して、いのちは、誰にでも平等に与えられた、たった一つのものであることを考えた。その後、ハートの中心にある針穴を見ることを通して、いのちのはじまりは、0.14ミリメートルの大きさだったことを知った。また、おへその役割やお母さんのおなかの中で育つ赤ちゃんの生きる力を知り、一人一人が大切な命を持っていることを学んだ。	養護教諭に授業を行ってもらった。
243	県央	小3	道徳	かけがえのない命	虫たちがそれぞれの一番大切なものを話し合う姿などを通して、生命を大切にすることは、どうということか考えさせ、生命の尊さを感じ、自他の生命を大切にしようとする心情を育てることがねらいである。教材の中で一人の死がどれほど多くの人たちを悲しませているかを考える活動を通して命の尊さについて考えた。学習のまとめでは、自分や他者の命を大切にしようとする考えを書いた児童が多くいた。	光村図書 「大切なものはなんですか」
244	県央	小6	道徳	いじめをたち切る正義 「わたしのせいじゃない」	導入と終末で同じ発問をすることで考えの広がりや深まりに気付かせた。いじめの四層構造や自分だったら誰に何て声を掛けるのかを考えさせた。意気揚々とノートに考えを書き、交流する姿が見られたが、あなたがこのクラスの一員だとしたら本当に声を掛け、いじめを止めることができるのか聞くと、はっとした表情を浮かべ悩みだした。最後には音楽「愛にできることはまだあるかい」をBGMに愛知県の人権啓発ポスターに書かれた詩を聞かせた。三田小人権旬間の取組の1つとして6年生で実践した。	「小学道徳生きる力6」 (日本文教出版) 教材：「わたしのせいじゃない」 補助資料：愛知県人権啓発ポスター 音楽：愛にできることはまだあるかい

245	県央	小複合	道徳	全校道徳 1・2年 あたたかい心 3・4年 こまっている人が いたら 5・6年 深い思いやり	全校道徳という取り組みを行った。三田小重点内容項目「B親切、思いやり」の授業を一斉に行った。低学年と特別支援学級は「くりのみ」を、中学年は「親切がいっぱい」を、高学年は「最後のおくり物」を教材として選択した。また、ペアクラスで各学級の児童を半分ずつ交換し、異学年交流を図りながら実践した。異学年での交流を通して、「親切・思いやり」について、多面的・多角的に考え、思いやりの心をもって相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てることをねらいとした。	「小学道徳生きる力2」（日本 文教出版） 教材：「くりのみ」 「道徳④きみがいちばんひかる とき」（光村図書） 教材：「親切がいっぱい」 「小学道徳生きる力6」（日本 文教出版） 教材：「最後のおくり物」
246	県央	小複合	道徳	全校道徳	年間で2度、全校道徳を実施した。1度目は5月の朝会で、「自分の物を大切にすることが、自分や相手を大切にすることにつながる」ということを、イラストをスクリーンに投影しながら全校で考えた。2度目は12月の人権週間での取組で、「思いやりや優しさ」について、各学級同じ教材で道徳の授業を実施した。イラストから動画を作製し、ワークシートと指導案を配付したことで、どの教員も同じ授業をすることができた。学年に応じて発問を変えたこともあり、児童の実態に合った道徳の授業が展開できた。	全学年での取り組み
247	県央	小複合	道徳	自分の大切さと 共に他の人の大 切さを認めるこ とができるよう な人権感覚の育 成	厚木市人権擁護委員会を講師に迎え人権教室を行った。 1～3年生は、「ずっと友達でいたいから」を題材に、登場する生き物たちの気持ちを考える活動を行った。物語を通して、みんなが笑顔になるためには、困ったことを相談できること、勇気をもって気持ちを伝えること、そして相手を思いやる優しい心を大切にすることを学んだ。 4～6年生は、人権啓発ビデオより「手伝えることはありますか」を題材に、登場人物の気持ちを考え、気づいたことをグループで話し合った。児童は、何でもやってあげることが親切ではなく、相手のことを考えた声のかけ方、手伝い方をすることが大切だと話していた。平等に生活するとは何かについて考える機会となった。	厚木市人権擁護委員会 人権啓発ビデオ「わた したちが伝えたい、大 切なこと～アニメで見 る全国中学生人権作文 コンテスト入賞作品 『手伝えることはあり ますか』」
248	県央	小1	道徳	いきているって	教科書の挿絵から、体の温もりや心臓の鼓動などいきているからこそ実感できることを考えさせた。自分たちの普段の生活を振り返り、生きているからできることを考えることで、日々の生活を見直したり感謝したりする様子が見られた。	
249	県央	小4	道徳	ヒキガエルとロ バ	登場人物の行動についての話し合いを行った。すべての生き物には命があり、懸命に生きていることに気づき、命を粗末に扱うことは、情けないこと、愚かなことであり、身の回りの命を大切にするためにどんなことができるか考えを書いた。	
250	県央	小2	道徳	「やくそく」	不注意で交通事故にあってしまった女の子が病院で目を覚ますと、家族が涙を流していた。その涙にはどんな意味が込められているのか、これからは事故にあわないようにしようと自分と約束したのは誰のための約束かなどを考えた。家族が流していた涙は悲しみではなく、安心の涙であり、自分の命は家族にとってそれだけの価値があることや、自分との約束は自分のためだけでなく、自分を支えてくれている人のためでもあることに子どもたちは気付いていた。振り返りでは、これまでの自分の生活の仕方について書いていたり、家族への感謝を書いたりする児童が多かった。	

251	県央	小3	道徳	「マサラップ」	<p>さまざまな人とともに生きるために大切なことを、道徳教材を通して考えた。外国から来た先生との関わりや他国の言語や食べ物に興味を抱く主人公の思いや行動から、他の国の人と仲良くなるためにどうしたら良いかを考えさせた。学習を通して、他国の人と仲良くなるためには、他国について知り、親しみを感じ、関心をもつことが大切であるという意見が出た。外国にルーツのある児童が当学年に多いことから、言葉が通じないことを否定的に捉えるのではなく、自分から知ろう・分かってもらうことが大切であると、自分たちの生活に学習を繋げられるようにまとめの話を行って授業を終えた。</p>	
252	県央	小5	道徳	自己肯定感を高める	<p>人権学習ワークシート集「とってもいいね、わたしらしさ あなたらしさ！」を使って学習した。一人ひとりには違いがあること、それは大切な自分らしさであることに気付いたり、友だちの好きなもの好きなことを考える活動を通し、自他の個性を肯定的に捉え、尊重し合うことに気付いたりすることをねらいとした。</p> <p>自分で自分の良さを見つけることが難しい児童が多くいたが、友だちから良さを教えてもらうことで自分自身の良さを知ることができた。前向きな言葉をかけ合うことで温かい雰囲気づくりをすることができた。人権週間に単発で行うだけでなく、機会をとらえて継続的に行っていきたい。</p>	県教育委員会「人権学習ワークシート集」
253	県央	小2	道徳	地域の行事に親しむ 「花火にこめられたねがい」	<p>新潟県長岡市の長岡大花火大会では、戦争で亡くなった方々への慰霊の思いが込められた白い花火が上がる。他にも新潟中越地震の復興の思いが込められた花火「フェニックス」などの話を、主人公のゆうとは、おばあちゃんから教えてもらうといった内容だ。児童たちは、亡くなってしまった人々の命や、戦争や地震で悲しい思いをした人々の思いを想像しながら、実際の長岡大花火大会の映像を視聴した。「込められた思いを考えながら見る花火は、いつもの花火より心に残った。」「感動した。」「亡くなった人々を忘れないでいたい。」といった感想をもっていた。</p>	小学道徳 生きる力
254	県央	小6	道徳	安全な暮らし	<p>「学校を愛する心」を主題とする『ぼくたちの学校』から関連して、災害時に命を守るためにできることを考えた。災害発生時の学校での対応や、家にいたときの対応、自分ができることやしなければならぬことをクラス全体で考えた。併せて「つらいことがあったときは我慢しなくてよい」という気づきや、「自分だけは大丈夫という油断が命取りになる」ということを改めて確認できた。</p>	小学道徳 生きる力
255	県央	小1	道徳	生命の尊さ	<p>「いきているって」の詩を通して、生命の尊さについて学習した。胸に手をあてて心臓の鼓動を確認したり、自分を抱きしめて体が熱くなるのを実感したりして、自分が今生きていることを味わった。また、どうして主人公が「いきているって、なんだかいいね。」と言ったのかを話し合った。日常生活の中で、何かをして、何かを感じるからこそ、生きている証だということ、そのような当たり前の命こそが「なんだかいいね」につながることに気付く児童がいた。授業後には、「あったかい。みんな生きている！」と笑顔で抱き合ったり、手を広げて「風が気持ちいい。」と叫んだりする児童もおり、1年生なりの生きることのよさを感じ取っていたと思う。</p>	光村図書どうとくより 「いきているって」

256	県央	小1	道徳	あさがおを育て、命の大切さに気付く	物語の主人公があさがおを育てる様子から、大事に愛情をもって育てていることに気付いていた。自分たちも1学期にあさがおを育てた経験を踏まえ、動いているものだけに命があるのかという発問に、「植物にも命があるから、一生懸命お世話をしないといけないんだね。」という声も聞こえた。身の回りにある小さな生き物や植物に対しても優しく愛情をもって世話をし、接することの大切さを感じ取っている様子が見られた。	どうとく 1 きみが いちばん ひ かるとき 光村図書
257	県央	小6	道徳	生きることをあきらめない	本教材は、死を覚悟しながらもよりよく生きようとする恩師のために、主人公も自分の目標に向けて精一杯努力しようとする話である。病気にかかり別人のようになってしまった恩師に再会し、戸惑う主人公の心情をていねいに考えさせた。教材文を読む中で、最も心が揺さぶられたところとその理由を共有した。恩師からの「あきらめるな おれも生きる」という言葉に魅かれる子どもが多かった。限りある命の中伝えられた恩師の言葉から、自分も前向きに生きていこうという感想が多く出された。	小学道徳 生きる力6 日本文教出版
258	県央	小5	道徳	生命の尊さ	命は誰のものだろうという問いかけによって「自分だけのもの」と答える児童が多い中で、教材文「三十八億年の命」を扱った。命はすべての生き物とつながっていること、生命は神秘的なものであること、一つ一つの命はかけがえのないものであることに気付け、「命は自分だけのものではない」ということにせまっていた。この授業後、これからは自分だけの命だという意識から、祖先からのつながりで命を考えようとする児童の姿が見られた。	教材文「三十八億年の命」
259	県央	小6	道徳	「命のアサガオ」 内容項目： D生命の尊さ	限られた生命を力の限り生き抜こうとした少年や、その思いを受け継ぎたいとアサガオを育てたお母さんの思いから、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとした。 「命のアサガオ」を読み、登場人物の思いについて考え、話し合った。その後、児童は、「せいっぱい生きる」とは、自分にとってどう生きることかを考え、ノートにまとめた。	日本文教出版 小学道徳 生きる力
260	県央	小2	道徳	やくそく 「交通事故から命を守る」	自分の命は自分だけのものでなく、多くの人の思いを受けていることに気付き、かけがえのない命を大切にしていこうとする心情を育てようと授業を行った。戸田小の近くには住宅が少なく、長い時間をかけて登校する児童が多いため、大きい道路だけでなく、見晴らしが悪い道路に囲まれているのがこの学校の特徴であることを子どもたちに伝えた。地域の方々も交通指導してくれるが、日々、自分たちで交通ルールを守ることが大事だ。また、自分たちがやくそくを守っていたとしても、運転手側が守れないことがある。被害者になった教員の実体験を子どもたちに伝えることで、事故はいつ起きるかわからないことを伝えた。	日本文教出版 小学どうとく生きる力 2
261	県央	小1	道徳	友情・信頼 「にわのことり」	擬人化された鳥たちの話を通して、友達と仲よくし、助け合おうとすることの大切さ、自己を見つめ、友達に助けてもらったことや助けた経験についても考えさせた。	光村図書 どうとく 1

262	県央	小5	道徳	命の尊さ	教材は、4年生の女の子が「命」について考えてつくった詩である。まず、導入で「命」とはどのようなものかを聞いた。児童は「1つしかないもの」「大切なもの」という考えが多かった。教師の「精一杯生きるとはどのような生き方か？」という発問では、グループで「自分は〇〇を頑張りたい」「自分の命を大切にしたい」「周りの人の命も大切にしたい」など話し合い、共有した。自分だけでなく周りの人のことまで考えることのできた児童もいた。	
263	県央	小3	道徳	命の尊さ	虫たちが一番大切なものを話し合い、生命を大切にするとはどのようなことかを考える教材である。まず、導入で「一番大切なものは何か？」を聞いた。児童は「命」「家族」という考えが多かった。教師の「命を大切にするとはどういうことか？」という発問では、グループで「命を守るために〇〇に気をつけたい」「自分だけでなく家族や友達を大事にしたい」など話し合い、共有した。自分だけでなく周りの人や生き物のことまで考えることのできた児童もいた。	
264	県央	小6	道徳	性教育	性について考える時間をとった。 【内容】 ・プライベートゾーンってなあに ・性器ってなあに？ ・男らしさ・女らしさってなあに ・大人のスイッチが入ったかな ・初経（生理・月経ってなあに） ・精通ってなあに 「性」は恥ずかしいものではなく、自分の体や心を守るために大切なものであることを学ぶことができた。	
265	県央	小6	道徳	生命の尊さ	知床の動物たちの生きるための営みなどを通して、「命の旅の意味」について考えさせ、多くの生命のつながりの中にあるかけがえのない命を実感し、生命を尊重しようとする心情を育てる。	
266	県央	小6	道徳	命のかがやき	教材「命のかがやき」を通して、命について考えた。障害がある娘静香をどのように育てていくか、困惑する父親だが、懸命に生きる静香の姿や妻の父の励ましの言葉で前向きに育てていくことを決意する。そうして静香の未来に希望をもった両親は、周囲の人たちの優しさや思いやりに接することで、人間の温かさに気づく。そのような話から、命の輝きとはどのようなものなのか考えさせ、人とのつながりの中にあるかけがえのない命を大切に、精いっぱい生きようとする心情を育むことをねらった。	光村図書6年

267	県央	小5	道徳	おばあちゃんからもらった命	命を守ってくれたおばあさんへの感謝を忘れないめぐみさんの姿などを通して、相手の思いに応えるためにできることを考えさせ、温かなつながりに感謝し、善意に応えようとする意欲を育てるねらいをもった。 実話が基になっているため、失われた命の重みやそれを目の当たりにしためぐみさんの心境などにも触れつつ、様々な感じ方気持ちの表し方があることに注目した。	光村図書5年
268	県央	小4	道徳	いのちの教室	助産師さんを講師に呼び、実際の出産の様子を動画で見たり、赤ちゃん人形を抱っこしたりと、命の誕生について学習した。また、お礼のお手紙を書く中で、自分の命の大切さについて改めて考えた。	助産師（講師）
269	県央	小4	道徳	生命について	<ul style="list-style-type: none"> ・生命について、生まれる瞬間に立ち会う現場の人から話を聞いた。 ・出産の映像を見せた。 ・児童は命の大切さについて考えた。 	講師：助産師
270	県央	小2	道徳	人権教室	「ずっと友達でいたいから」というテーマで紙芝居を使って友達と仲良く過ごすためにどうすれば良いか考えた。自分の思いを伝えること、困ったときは相談することを確認した。話し合いの中では子どもたちから「自分がされて嫌なことはしない」「相手の気持ちを考える」などの意見が多く出た。	外部講師
271	県央	小4	道徳	やまといのちの教室	「みんな大切ないのち」助産師さんによる授業だった。胎児がおなかの中で誰にも教わらずに自らやっていることがあることに驚き興味をもって話を聞いていた。出産の様子をDVDや、骨盤の模型を使った説明を聞いて、出産の大変さを感じるとともに、多くの方が自分の命を大切に思っていたことを感じていた。最後に赤ちゃん人形を抱っこして、小さかった自分を想像しながら命の大切さを学んでいた。「初めて知った。帰ってから家族に、生まれた時のことを聞いてみたい」と自分が考えたことを振り返ろうとする姿も見られた。	外部講師 大和市立病院助産師
272	県央	小4	道徳	いのちの授業	いのちのはじまりからいのちの誕生までの話を聞いた。命の始まりでは、その小ささやおなかの中の様子に驚いていた。また、出産時に赤ちゃんが骨盤を回りながら出てくるといふ話や動画も熱心に見ている子が多く、興味を示していた。お家の方が子どもたちの誕生をどれだけ喜んでいたのかが伝わった。また、赤ちゃん人形を抱っこする体験もすることが出来た。授業を通して、いのちの重さがわかる内容だった。	講師：市立病院小児科医師 教材：赤ちゃん人形
273	県央	小4	道徳	生命の尊さ	本授業では、生き物と機械の違いを通し、生命の尊さについて考え命を大切にすることを育てることをねらいとした。導入では、自分自身の生きていることはすごいと思った経験を振り返った。その後、教科書の題材を通し、機械の犬と生きている本物の犬の違いや、ロボットと人間の違いを比較しながら生きていることについて考えた。終末では、自分の命の大切さについて、「命は一人にひとつしかない。」「お金で買うことができない大切なものである。」という思いをもたせることができた。	4年 きみがいちばんひかるとき（光村図書）

274	県央	小1	道徳	生命の尊さ	体のぬくもりや心臓の鼓動を感じるなど、生きているからこそ実感することを表した詩などを通して、生きてるとどんないいことがあるかを考えさせ、生命を大切にしようとする心情を育てた。	道徳1 いきているって
275	県央	小2	道徳	生命の尊さ	自分の成長に気づいた「わたし」の姿などを通して、生きているとどんなところが変わっていくのかを考えさせ、生きることの不思議さや素晴らしさを感じ、生命を大切にしようとする心情を育てた。	道徳2 きみがいちばんひかるとき
276	県央	小3	道徳	生命の尊さ	トマトを育てたり、周りの生き物に声をかけたりする登場人物の姿を通して、自分と同様に生命のあるもの全てを大切にしようとする心情を育てた。	道徳3 きみがいちばんひかるとき
277	県央	小3	道徳	生命の尊さ	それぞれ一番大切なものを話し合う姿などを通して、生命を大切にするとはどういうことかを考えさせ、生命を大切にしようとする心情を育てた。	道徳3 きみがいちばんひかるとき
278	県央	小4	道徳	生命の尊さ	亡き祖母の口癖と祖母との思い出を大事に過ごす「ぼく」の姿などを通して、生命の尊さについて考えさせ、「死」を理解し、与えられた生命を大切に生きようとする心情を育てた。	道徳4 きみがいちばんひかるとき
279	県央	小5	道徳	生命の尊さ「命の詩 電池が切れるまで」	命の詩やエピソードを通して、命の大切さについて考えさせ、限りある命を懸命に生きることの尊さを感じ取り、自分らしく精一杯生きようとする心情を育てた。	光村図書 「道徳5 きみがいちばんひかるとき」
280	県央	小6	道徳	命への感謝「おばあちゃんからもらった命」	命を守ってくれたおばあさんへの感謝を忘れない主人公の姿などを通して、相手の思いにこたえるためにできることを考えさせ、あたたかなつながりに感謝し、善意にこたえようとする実践意欲を育てた。	光村図書 「道徳6 きみがいちばんひかるとき」
281	県央	小6	道徳	生命尊重「命の旅」	北海道・知床の動物たちの生きる姿を通して、生命は多くのつながりの中にあるかけがえのないものであることを知り、生命を尊重しようとする心情を育てた。	光村図書 「道徳6 きみがいちばんひかるとき」
282	県央	小6	道徳	生命尊重「命のかがやき」	ダウン症候群で生まれた子の成長を喜び、共に生きることの素晴らしさを語る父親の姿などを通して命について考えさせ、人とのつながりの中にあるかけがえのない命を大切に、精一杯生きようとする心情を育てた。	光村図書 「道徳6 きみがいちばんひかるとき」
283	県央	小6	道徳	生命尊重「恋ちゃん—はじめての「みとり」」	大好きだったおおばあちゃんを見とる登場人物の姿などを通して、命の素晴らしさとはどのようなことかを考えさせ、限りある命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重しようとする心情を育てた。	光村図書 「道徳6 きみがいちばんひかるとき」

284	県央	小4	道徳	自分らしく生きるってなんだろう	<p>4年生は思春期に差し掛かり、男女の違いを意識し始めるなど、体とともに心も大きく成長する時期である。授業を通して、「男だから」「女だから」というジェンダーバイアスにとらわれず、人それぞれの「自分らしさ」を大切にしながら生きていくことについて考えていく。</p> <p>児童の振り返りでは、「男だから、女だからと考えるのではなく、自分の気持ちを大事にしようと思った。」「自分のことが少し好きになった。」など、自分らしさを大切にしようと考えている姿が見られた。</p>	NHK for school 「u&i男らしく、女らしくがいいの？」
285	県央	小4	道徳	いのちの授業	<p>胎児のときや出産の様子についてや、生まれてきた後についての話を聞いた。その後、実際に人形を使って赤ちゃんを抱っこする体験をした。一人ひとり抱っこし、全員が体験することができた。命の尊さについての話を聞き、考えを深める児童が多かった。</p>	講師：市立病院小児科医師
286	県央	小4	道徳	やまと♡いのちの教室	<p>大和市すくすく子育て課の助産師さんから、お腹の中にいる時や生まれた時の赤ちゃんの様子について話を聞いた。また、出産時の映像を通して、両親やまわりの人の気持ちを知ること命の大切さについて考えを深めた。</p>	講師：大和市すくすく子育て課助産師
287	県央	小複合	道徳	思いやりの心の育成	<p>挨拶や思いやりなど、人とよりよくつながる、自分のことも友だちのことも大切にできる児童の育成を目指し、児童指導中心に道徳教育の推進を行った。コロナ対策により、人とかかわる、交流する体験活動が縮小された現状を見直し、児童の思いやりの心の育成、他者との共生につながる教育活動の見直しを検討した。</p>	全校対象
288	県央	小2	道徳	生命を大切にする心の育成	<p>自分の身体的な変化や、技術面や心の成長について振り返りながら、「生きていると変わっていく」ということや、当たり前で見過ごしがちな日常の中にある「生きている証」を実感させた。学習を通し、生きることの不思議さやすばらしさを感じたり、自分や周りの生命を大切にしようと考えたりすることができた。</p>	道徳 「もうすぐ八さい」 (生命の尊さ)
289	県央	小3	道徳	「大切なものは何ですか」 D 生命の尊さ	<p>大切なものは何かと問われ、それぞれに考えをもつことができた。登場人物が大切にしているものは、どれか一つを選ぶことは難しく、根底には命の大切さがあることに気づいた。また、これまで漠然と命は大切だと考えていた児童に、理由を考えさせることができた。命の連続性に関心を持ち、自分の命も誰かにもらったものであると考え、命を大切にするために、自分だけでなく、周りに生きる人や生き物にも目を向けることができた。</p>	教科書 登場人物を印刷した 掲示物
290	県央	小6	道徳	「命のかがやき」 D 生命の尊さ	<p>ダウン症候群という障害をもって生まれてきた「静香」が周囲の人たちの優しさや思いやりに接することで、人間の温かさに気づき、両親は静香とともに生きる世界に「かがやき」を感じるという教材文を読むことを通して、教材文から読み取れる「命のかがやき」とはどんなものであったかを考えた。また、自分自身が生活の中で、どのような「命のかがやき」があるかを考えた。</p> <p>話し合いを行う中で、命の大切さや、命があることは当たり前ではないということに気づく児童が多くみられた。</p>	教科書

291	県央	小2	道徳	ぼくのかさぶた	主人公のぼくはかさぶたが取れ、きれいに傷が治っていることを通して生きていることのすごさを感じる教材を使用し、生命の尊さについて学習した。自分の体は栄養をもとに新しくなっていくことや日々成長していくことを普段の生活の中から発見し、児童は生きていることの良さを実感していた。また授業の最後に自分の体に手紙を書く活動を行い、感謝の気持ちを伝えたり、これからも命を大切にしようとする意欲が見られたりする児童が多くいた。	
292	県央	小1	道徳	いきているって	朝起きて、おなかがすいたと感じる場面や、校庭で友達と走り回って、心臓がドキドキする場面などを取り上げ、それぞれの場面において生きているよさに気づいたことを書いた詩を使用し、生命の尊さについて学習した。生きているからこそ感じられることとして、家族や友達と楽しく過ごせること、習い事を頑張れることなどを考え、今の生活はすべて生きているからこそであると改めて実感し、生きていることのすばらしさを感じている児童が多くいた。	
293	県央	小2	道徳	「もうすぐ八さい」	自分の成長に気づいた主人公の姿を通して、生きているとどんなところが変わっていくのか考えさせ、生きることの不思議さや、生命を大切にしようとする心を育んだ。学習の中で、子ども同士の対話から「死ぬとどうなるの。」「心臓が止まるんだよ。」「成長も止まってしまうのか。」というように、生と死についても考えることができた。人は、ずっと成長し続けるわけではなく、歳をとり、できないことも増えていくことに気づき、今の成長していく素晴らしさを改めて感じるすることができた。	光村図書 「きみがいちばんひかるとき」 二年生 道徳の教科書
294	県央	小3	道徳	生きている仲間 (生命尊重)	登場人物の「トマト」に対する言動や行動をもとに、「生命」として接しようとする心情を考えた。児童は、前年度に生活科の学習で野菜を育てており、自身の経験をもとに命あるものとして考えることができていた。 また、慣例的に行われていた「いただきます」を見直し、感謝の心情が伴うように、別の挨拶を考えようとする児童の提案があった。クラスで考えていく中で、限りある命について考えることができた。	「生きている仲間」 (光村図書)
295	県央	小2	道徳	生きていることのすごさを考える	けがをした経験を想起したところから、できたけがも時間がたつときれいに治ることに気づき、生きていることを実感した。本文では、かさぶたが治ることや爪がのびることは、自分にとって当たり前だけれど生きることにつながっていることに気づくことができた。さらに、寝ること、ご飯を食べることが力になって、生きることにつながっていることを知ることで、命の大切さを話し合った。児童からは、「自分の体にありがとうと言いたい。」というような振り返りがあり、自分の体に興味をもち、感謝をすることができた。	
296	県央	小1	道徳	いきているって	朝起きて、おなかがすいたと感じる場面、妹を抱きしめてぬくもりを感じる場面、校庭で友達と走り回って、心臓がドキドキする場面など、それぞれの場面において感じたことや生きているよさについて書かれた詩を読み、生きるこの素晴らしさを感じ、生命を大切にしようと思えることができた。	光村図書 道徳①きう みがいちばんひかるとき

297	県央	小3	道徳	「いのちのまつり」	「いのちのつながり」というテーマで学習を行った。教材を読み、主人公のコウちゃんが「いのちをありがとう」と言った気持ちを考えたり、仕掛け絵本を見て先祖のつながりを体感したりした。授業の中で話し合いが進むと、「自分の命は、父母だけでなく昔の人から受け継がれているもの。自分のものだけではないから大切にしたい。」という感想を持ち発表した児童がいた。普段は感じることのない「いのちのつながり」を一人一人が考える時間となった。	関連資料 図書室の本 (絵本：いのちのまつり)
298	県央	小2	道徳	「あなただけの命ではない」	道徳で、「あなただけの命ではない」という意味を考えた。まず、人は様々な生き物たちから命をいただくことで、生きることができるということに気づかせた。そして、相田みつをさんの「自分の番 命のバトン」の詩を用い、自分たちの命が、何百年・何千年も前から受け継がれてきたものであること、100万人以上の人から受け継いできたものであることに気づかせ、命の尊さを実感させた。そして、自身の命の尊さとともに、他者の命の尊さも同様であることを理解させた。自他のことを大切にすることを高めたうえで、人への言葉のかけ方、言い方などに気をつけていくことを促した。	相田みつを 「自分の番 命のバトン」
299	県央	小2	道徳	「自然を大切に」	道徳で、「身近な自然やそこにある命を大切にすること」について学んだ。5月頃からドジョウ、テナガエビ、イモリ、ヨシノボリなどの日本の在来種の淡水生物を教室で飼育し始め、在来種という生き物について理解した上で授業を行った。生き物を飼ってあげる、お世話をしてあげるということだけが”生き物を大切にすること”というわけではなく、”生き物の住む環境を守ってあげること”が何よりも大切であることを学んだ。在来種が減ってきていることの原因を知り、生き物の住む自然環境を守っていくことで、生き物の命を守っていくことを学んだ。	光文書院 道徳 ゆたかなこころ 「めだかの学校」
300	県央	小3	道徳	命のつながり	「いのちのまつり」という題材は、命と命のつながりを考える内容になっている。授業の導入では、「先祖」という言葉の意味や命がつながって現在の自分が生きているということを理解できていない児童が多かった。家系図を書くことで、ずっと昔から命がつながっていることや、自分がつないでいくことに気づいたようだった。授業の振り返りでは「命をありがとう」「たったひとつの命を大切にしたい」「自分も命をつなぎたい」といった内容が書かれていて、児童それぞれが命の大切さについて考えていた。	光文書院 小学どうとく ゆたかな心 「いのちのまつり」
301	県央	小4	道徳	「いただきます」「ごちそうさま」	昨年度に続き、給食はたくさんのおかげで食べられるということ学んだ。改めて、「いただきます」「ごちそうさま」をどんな気持ちで言っているのかを考えるきっかけとなった。「せっかく作ってくれたから、一人一人が残さず食べられる量にしよう」「調理員さんの片付けが楽になるように箸の向きを揃えよう」など、自分達で声をかけ合う姿が見られるようになった。栄養士の方や調理員の方、食材への感謝の気持ちを感じたことで、心をこめた挨拶を意識することができるようになった。	

302	県央	小5	道徳	生命の尊さ	動物管理センターの所長の方の記事を中心に、「動物の命」をテーマとして取り扱った。実際の交通事故の体験や動物管理センターでの実態を知ったことで、驚いている児童が多かった。生きているもの全ての命が、かけがえのない尊いものであることを理解し、命を大切にしようとする気持ちを学んだ。自分だけでなく、他の生き物の命も大切にしていこうという思いをもつ児童も見られた。	光文書院 道徳 「命と向き合う人生」
303	県央	小4	道徳	家族愛	教材「ぼくの生まれた日」を通して、親から生命を受け継いでいることや家族が自分の生命を特別なものとして扱っているという実感を持ち、家族を喜ばせて生きていこうとする心情をもてるようにする学習内容である。 教材の人物が「生まれた日の家族の気持ちを考える」という発問を設定し、自分の誕生には多くの人がかかわり喜びの気持ちをもっていただけ、そして名前には様々な願いが込められていることに気が付くことができた。終末では、児童一人一人の保護者から、生まれた日の出来事や名前に入れられた願いなど書かれた手紙が渡された。家族を大切に思うだけでなく、自分の命の特別さを感じている児童が多かった。	光文書院 「ぼくの生まれた日」
304	県央	小6	道徳	命と平和	道徳の教材文「羽ばたけ、折り鶴」を読み、命や平和の大切さについて考える授業。折り鶴に込められた世界の人々の願いや平和の大切さについて考えたことをまとめさせた。戦争や核兵器をなくしたいという平和を願う人々の思いに共感し、平和のためには、戦争を絶対にしないと強く思うことや、日々の生活に感謝すること、世界の問題に関心を持ち続けることが必要だということを経験し、考えを深めることができた。	小学道徳 ゆたかな心 「羽ばたけ、折り鶴」 光文書院
305	県央	小2	道徳	生命の尊さ	「おとうとのたんじょう」という弟が生まれた時の様子が書かれた題材文を読み、命の誕生の尊さに触れた。実際に弟や妹ができた時の経験を思い出し、思いをクラス全体に共有した児童もいた。考えの共有から、児童一人ひとりが、自分の命は家族の願いを受けて生まれてきたことや、自分の命を大切にしようとするを感じていた。また、自分の命が大切だということと同じように友達の命も大切だと考えた児童もいた。	
306	県央	小4	道徳	生命の尊さ	命を救う仕事をする人たちについて、どのような気持ちで仕事に取り組んでいるのか考えた。「レスキュー隊」の話を通して、自分の命の大切さや、いざという時に助けてくれる人たちの気持ちを学ぶことが出来た。	教材 「道徳ゆたかな心4年」 内「レスキュー隊」
307	県央	小3	道徳	「いのちのまつり」	「いのちのまつり」という教材を通して、命のつながりについて考えた。自分達の命は多くの人々の力で受け継がれてきたものであることを知り、「ご先祖様にどのような姿を見せたいか」という視点で、自分の命をどのように生きていくかについて考えを深める時間となった。	光文書院 「小学どうとく ゆたかな心」

308	県央	小1	道徳	いのちのすばらしさ 「みんなみんな いきている」	アンパンマンの作者である、やなせたかしさんが作詞した「てのひらをたいように」には、どんな思いが込められているのかを考える題材。歌詞の中でいろんな生き物が生きていることに触れてから、「生きている」と思うときはいつであるか考えていく。うれしいことも悲しいことも全部生きているということであることを実感して、最後に振り返りをした。	しょうがく どうとく 1ねん 光文書院
309	県央	小1	道徳	たいせつないのち「おたんじょう びれっしや」D 生命の尊さ	自分は、多くの人に支えられながら、自分の生命力によって生きてきたことがわかり、そのすばらしさに心を動かし、生命を大切に生活していこうとすることをねらいとした。初めに「命の大切さ」について考えを出させた後、「おたんじょうびれっしや」を読み、考えを広めたり深めたり、自己を振り返る活動を行った。児童の多くは、命の大切さについて「かわいそうだから。」や「お母さんが悲しむから。」等と考えていたが、授業が進むにつれて、「生きているから喜びもある。」や「多くの人から誕生をお祝いされている。」等多面的・多角的に考えたり、「自分も多くの人に誕生をお祝いされていて、自分の命を大切にしたいと思った。」等と自分自身のかかわりの中で考えを深めたりする児童の姿が見られた。	
310	県央	小3	道徳	いのちとは 「どうか、生きて いてくれよ」 D生命の尊さ	生命はかけがえのないものであることがわかり、生命と大切に生きて生きようとすることをねらいとした。初めに「どうして命は大切なのか」を考えさせた後、「どうか、生きていてくれよ」を読み、考えを広げたり深めたり、自己を振り返る活動を行った。児童の多くは、「たった1つでかけがえのない命」「ゲームみたいに生き返ることはない」という理由から、消防士の人たちは命を危険にさらしてまで人の命を救おうとしたのだと考えていた。授業が進むにつれて、「命は、親からもらった大切なもの」や「自分だけでなく、ほかの人も命も大切にしたい」等多面的・多角的に考え、命を大切に生きて生きようという気持ちを高めていた。	
311	県央	小複合	道徳	人権教育 「いのちの授 業」	自校の児童の実態を踏まえて、かながわ「いのちの授業」ハンドブックを参考に、いじめの四層構造について(傍観者の視点に立って考える)の資料を作成し、全学年で授業を実践した。上履きが下駄箱からなくなるという事例から命の大切さについて考えさせた。加害者だけでなく、観衆・傍観者にも焦点を当てた指導を行った。昨年度の振り返りから継続的に行っていきたいという職員の見解もあり、今年度も同じ内容で行った。	(参考資料) かながわ「いのちの授 業」ハンドブック
312	県央	小2	道徳	生命の尊さ 資料名「おとう とのたんじょう う」	資料を読み、生きる力の尊さや命の大切さについて考えた。弟の誕生を通して主人公や家族が感じる喜びや生命の力強さに気付かせるとともに、児童も周りの人に愛情をもって育てられ、ここまで成長してきたということにまで考えを広げることができた。また、3学期には生活科の「あしたへつなぐ自分たんけん」の学習で、自分の誕生から2年生になるまでの成長過程を振り返る活動があり、その中でお家の方の思いに触れることを通して、教科を超えて自分の命がいかに大切なのかを改めて感じさせることができた。	光文書院 「小学 どうとく ゆ たかなこころ 2年」

313	県央	小4	道徳	生命の尊さ 「レスキュー 隊」	児童の身の回りにも、医者や消防士など、命を救う仕事をしている人たちがいる。本教材では「レスキュー隊」の仕事についてふれ、実際の救助の様子やウェブサイト、隊員の話などをもとに「命の尊さ、大切さ」について考えさせるようにした。前述の職業も含め、児童は漠然とレスキュー隊の仕事については理解しているため、凄さやカッコよさに目が向きがちになる。レスキュー隊の人たちも自分の命が危険にさらされていることを捉えさせ、それでも一人でも多くの命を救いたいという活動の中から、「かけがえのない命の尊さ」を感じさせるようにした。	光文書院 「小学 道徳 ゆたかな心 4年」
314	県央	小6	道徳	生命のメッセ ージ	道徳科の教科書「ゆたかなこころ」に掲載されている、交通事故で最愛の息子を失った筆者の話を読み、いのちのミュージアム展の存在や、筆者の思いを知り、限りある命を輝かせるために命を大切にしようという気持ちを高めた。	ゆたかなこころ6年 『生命のメッセージ』
315	県央	小6	道徳	心身の健康 SOSの出し方	不安や悩みを多く持つ思春期を迎えた6学年が、学習をした。悩みは誰にでもあるので、その解消の仕方、人への頼り方を学んだ。 児童は、自分の普段の生活と比較して考えていた。自分だけで解決しようと考えていた児童が多かったが、様々な方法を知ることができたことが良かった。	講師：綾瀬市健康づくり 推進課の保健師の方
316	県央	小5	道徳	いじめの恐ろし さ	いじめが原因で不登校になってしまったり、自殺をしてしまったりした例を挙げ、自分が被害者の立場だったらどんな気持ちになるのかを考えた。また、実際にいじめのSOSを手紙として出している例を挙げ、その友達に手紙の返事を書く活動をした。	NHK for School 「いじめをノックアウト」
317	県央	小1	道徳	みんなみんない きている	「みんなみんないきている」の教材文を読み、自分が生きて成長していることの喜びを実感し、かけがえのない命を大切にしていくことを理解した。命が輝けるように応援してくれている人を考えて、発表をした。そして「てのひらをたいように」を最後に皆で歌った。	小学 道徳
318	県央	小6	道徳	生命の尊さ	主題のねらい「かけがえのない命の大切さを理解し、命を輝かせて生きようとする。」東日本大震災で母、祖父、祖母、幼馴染の友達を失った当時高校生だった生徒。悲しみを乗り越えて東京のホールでプロのオーケストラと彼女がトランペットを演奏して、被災した人々を力づけた。その後、亡くなった母が褒めてくれた将来の夢をかなえて看護師になった。この話を通して、児童の「自分もかけがえのない命を大切にし、命を輝かせて生きよう。」とする意欲を高めた。	光文書院 小学道徳 ゆたかな心6年「負けないで」
319	県央	小2	道徳	いのちのたん じょう	自分の生命は家族の願いを受けて生まれてきたことや、自分には生きる力があることがわかり、自分の生命の大切さについて考えた。生命が大切な理由についてわかったことをまとめた。	おとうとの たんじょう う (道徳・光文書院)

320	県央	小5	道徳	全教育活動における道徳教育推進の取組 「互いを理解し、尊重し合う 心情・人権意識を育てる」	◎「自分研究」についての授業 【相互理解、寛容】 5年生を対象に、学級担任と養護教諭が共同で「自分の困っていることをみんなで『研究』しよう！」をテーマにして相互理解や寛容に関する授業を行った。自分の「すきなこと・すきなもの」を書いて発表した後に、自分の「こまっていること」を自分で考えたオリジナルキャラクターとして擬人化させて描き（「イライラタイプの『ブンブン丸』」など、自分の直したい部分をキャラとして描き、名付ける）、そのキャラが自分のなかに出てきてしまった時にまわりの友達にはどうしてほしいのかを伝える『対策カード』や『対策アイテム』も描いて発表した。自分の特性をユーモラスに擬人化し、発表して紹介し合うことを通して、自分の「苦手なこと」を知って対策を検討し、同時に「好きなこと」を見つけながら成長していけることをねらいとして授業を計画した。	参考資料：金子書房 「特別な支援が必要な 子たちの『自分研究』 のススメ —子どもの 『当事者研究』の実 践」
321	中	小3	道徳	「戦争・平和と命のつながり 「ちいちゃんのかげおくり」から「いのちの祭り」へ」	国語教材「ちいちゃんのかげおくり」は、3年生にとっては初めてとなる「戦争」との出会いであり、当たり前とと思っている家族との生活、命、未来などの「平和」を、物語を通して深く考える機会を与えてくれた。この国語学習と並行して、道徳では、沖縄を舞台にした「ヌチヌグスージー命の祭り」を扱った。お墓参りでオバアに聞いた話から、主人公が「今ある自分の命は、遠い祖先から綿々と受け継がれてきたものである」という不思議さや生命の連続性に気付く内容である。「戦争で生き残った人達が、私たちの先祖になっているということだね」「ちいちゃんの家族の命のつながりは途絶えてしまったんだ」など、ちいちゃんの物語と関連付けた感想が多く出た。「今生きているのは、命がずっとずっと引き継がれて続いているからなんだ」「命はみんなからさずかったから物なんだな」「ご先祖様がくれた命、大切にしよう」と感想を交流していた。	
322	中	小1	道徳	ひまわり学級ってどんなところ	子どもたちが日頃疑問に感じている「特別支援級ってどんなところかな？」ということから動画を見て、特別支援級がそれぞれの個性に合わせて学習していることを学んだ。誰もが安心してその子の苦手や特性に合わせて学ぶことの大切さや学校にそのような学級があることを理解した。また、特別支援級に交流に行く友達を励ましたり、その頑張りを認めたりする姿が見られるようになった。	
323	中	小1	道徳	生命の尊さ	自分たちの普段の生活を振り返り、「毎日当たり前に行っていることは、生きているからこそできるんだ」ということについて話し合った。そして、一人一人が、「生きているっていいな」と思うことや場面を思い浮かべ、ワークシートに書いたり発表したりした。「友達と遊んでいるとき」「おいしいものを食べているとき」など、いろいろな意見が出ていた。	
324	中	小4	道徳	生命の尊さ	道徳の教科書「生きているしるし」を読み、登場人物の姿を通して、命の大切さについて考えた。主発問としては、一人一人の命はなぜ大切なのかをあげた。命は自分一人のものではなく、家族、友達、先生など周りの人のおかげであることにも気付く発言があった。振り返りでは、自分ごととしてこれからも命を大切にしていきたい、人を傷つけるようなことは言わないようにしたいという意見が出た。	

325	中	小6	道徳	違いを認め合う	<p>普段から、子どもたちは他人との違いを気にしたり、嫌がったりする傾向がある。そこで、「友だちと同じ」と思ったことをプリントに書き、友だちと共有した。同じであることを確認できると、子どもたちは安心した様子でいた。その後、「友だちと違う」と思ったことを書き、教材文の読み聞かせを行った。お話で「違うこと」の意味や、見方によっては「普通が普通でない」ことなどについて絵をヒントに理解していった。文中の「同じを探して、違いを面白いがる」のメッセージから、最終ページの登場人物のセリフを予想し発表を行った。その後、自分が書いた「友だちとの違い」を紹介し合い、「面白いがる」返し方を考えて交流を行った。子どもたちは違いを笑いながら話し合い、違っていることへの抵抗感が減った様子が見受けられた。</p>	
326	中	小5	道徳	D生命の尊さ 主題：命の大切さ	<p>作者が書いた命の詩やエピソードなどを通して命の大切さについて考えた。限りある命を懸命に生きる尊さを感じ取り、自分たちも一生懸命に生きていこうという気持ちをもった。</p>	
327	中	小2	道徳	D生命の尊さ 主題：「いのちはどうして大切なのでしょうか。」	<p>2年生の教科書には「生命の尊さ」について扱う教材が3つある。本時で扱った「空色の自転車」では、事故にあって日々の生活が送れなくなってしまった子の話から、いのちの大切さについて考えられるようになった。また自分のいのちだけでなく、家族や友達のいのちの大切さに気付き、守ろうとする声が多く上がった。いままでの積み重ねで、毎日当たり前前に過ごせていることへのすばらしさを考えることができた。</p>	
328	中	小2	道徳	「生きていることのよさ」	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな時に“生きるよさ”を感じるか考えを書いた。 ・保健室の先生の言葉を聞いて、登場人物はどんなことを考えたと思うか、全体で交流した。 ・あなたは自分の体にどんなことばをかけてあげたいか書き、考えたことを友達や家族と交流し、まとめた。 	
329	中	小3	道徳	「命を大切にすることはどういうことでしょうか」	<ul style="list-style-type: none"> ・「命」について今の自分が思うことを書いた。 ・命を大切にすることは、どういうことか考えた。 ・命を大切にするために、どんなことに気を付けていきたいかを考えて書き、交流した。 ・「命」について学習を通して考えたことを書いた。 	
330	中	小3	道徳	「つなぐ言葉、断ち切る言葉」	<p>学年内で人が傷つく言葉を日常的に平気で使っている姿があった。そこで、言われて傷つく言葉と嬉しい言葉を紙に書かせてどんな違いがあるのかを考える授業を行った。傷つく言葉を挙げたあとに、その言葉の前に先生の名前をつけてすべてを読むと、だんだんと嫌な顔をする人や顔を伏せる児童が出てきた。嬉しい言葉を挙げたあとに比較させると圧倒的に傷つく言葉が多いことに気付いた。そのあと、この言葉一つで命を絶ってしまった人の事例を話した。振り返りには、「悪口を言うことはいけないと改めて分かった」とあった。</p>	

331	中	小5	道徳	生命の尊さ「38億年の命」	「あなたたちは、両親の性質を半分ずつ受け継いだ、たった一つの存在。命をつないできてくれた、たくさんの生き物への感謝を忘れずに、命を大切にしよう…。命はあなただけのものではないのだから」という言葉についての話し合いをした。両親の愛から生まれた自分自身の誕生、そして祖父祖母、曾祖父曾祖母からつながってきた命のリレーの奇跡に思いを馳せ、命の大切さを考えていた。そして、これから将来どんなことがあっても、自分を大切にすることをみんなで確認し合った。
332	中	小3	道徳	生命の尊さ	経験の乏しい本分校の児童の実態に合わせて、命について考えることのきっかけになるように、児童にとって身近なものであるペットについて話題にすることにした。生きものを飼うことの良さ、うれしいことは何かを問い、命あるものとふれあうことで生まれてくる嬉しさや、愛情などプラスの感情に気付かせた後、反対に、飼うことの大変さを考えることで、一時的な感情だけでは飼うことはできず、命あるものを飼うことに伴う大変さにもふれさせた。エサやりや掃除の大変さ、金銭的負担などの考えが児童からあがった。後半は、犬と、ファミレスなどで見かける接客ロボットを比較させ、どちらも愛らしく人を癒すなど共通する一面もあるが、命あるものの不可逆性にも気付かせた。ロボットは壊れたら直せる、死なないなど、命あるものとロボットとの違いに気付いた意見が出ていた。
333	中	小3	道徳	「命のふしぎ」	今の自分の存在からさかのぼっていき、数えきれないくらいの命がつながって、今の自分があることに気付くとともに、命の不思議さを実感することができた。数多くの命がつながっている自分の命を、精一杯大切に生きていきたいと考えることができた。
334	中	小4	道徳	搾乳体験を通して	学区内の牧場の方に牛を連れて来ていただき、搾乳体験を行った。搾乳体験や畜産についてのお話を伺うことで、命をいただいていることの有難さを学んだ。また、「実際に牛に触れると温かかった」など、児童からは感想が多くあがった。身をもって、動物の命の大切さを感じる機会となった。
335	中	小6	道徳	生命の尊さ	道徳科「命のかがやき」の学習をした。ダウン症候群の子が一生懸命生きるなかで、両親が命の輝きを価値付ける教材である。教材から読み取れる命の輝きをクラスで考えた。教材を読む前は「何かが達成されたとき」「何かが成功したとき」など、よい結果になることが命の輝きだと考える児童が多かった。しかし、教材を通して「生きていることで命は輝いている」「周りの人の協力や支えで、さらに輝くことができる」「例え結果が出なくても、懸命にやることで輝ける」などの意見があがってきた。障がいがある子であっても、命の輝きがあること、自分たち一人一人に命が輝くときがあることを実感することができた。
336	中	小6	道徳	「命の尊さ」	筆者やその家族が、障がいのある子どもの生き方や周りの人々との関わりを通して、生命の尊さを感じるという題材を扱った。「命のかがやき」という視点で、生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを考えた。自然の中での生命、社会的関係の中における生命、生命の尊厳なども踏まえ、多面的・多角的に生命について考えることで、生命のかけがえのなさを自覚し、精いっぱい生きようとする心や他者の生命を尊重する心情を養うことができた。

337	中	小3	道徳	生命の尊さ	戦争中（沖縄戦）、身近なところであった、命がないがしろにされてしまう事例から、平和とされている今の時代に生きる命について考えた。具体的な事例を取り上げることで、3年生なりに、当時の人々の様子について考え、命の尊さを考える機会になった。
338	中	小4	道徳	「命の大切さについて考える」	この授業では、道徳教育の根本である生命の尊さについて学んだ。この時期の児童は「命」について、自分事として切実に感じられていない場合が多い。教材「生きているしるし」を読んで、グループで話し合った。自分がどのように生まれ、成長してきたかを振り返り、自分の命を大切にしていくことを考える場となった。話し合い後、グループごとに発表し、共有することで他の人たちの感じ方や考え方を知り、学びを深めていた。教育活動全体を通じて行う道徳教育において、社会科の防災の学習や理科の植物の栽培、保健の体の発育発達など、命について取り上げ、命の大切さについて、今後も効果的に指導していくことが大切である。
339	中	小複合	道徳	「ぼくのいのち、わたしのいのち」	「いのちとは？」の発問に、児童は「心臓」「体の真ん中にある」等、イメージがあまり広がっていない様子だった。道徳の教科書「空色の自転車」を紙芝居にして読むと、交通事故で大けがを負い、昏睡状態になる主人公が家族や友人に見守られる様子に心動かされている様子が見られた。「もし自分だったら」「もし大切な人だったら」ということを想像し、命の重さや大切さに触れる発言に変容していった。あたりまえにあると思っている「いのち」は、とても大切なのだということを児童同士で共有していた。
340	中	小1	道徳	「いきているからできること」	「生きていると、どんないいことがある？」と聞くと、「友達に会える」「勉強ができる」と答える児童もいれば、「お腹の鳴る音を感じられる」「暑さや寒さを感じられる」「生きているからこそ実感することができる」と回答する児童もいた。あたりまえのように今日を過ごし明日をむかえる、そんな「あたりまえ」があるのは、「一人ひとり大切ないのちがあるから」と子どもの心に残った。
341	中	小3	道徳	生命の尊さ	夏のある日、土の中から出てきたばかりのセミは、数種類の虫たちに「大切なものは何ですか？」と訊ねる。それを読む児童は、虫たちの返答（お金、食べ物、健康、勉強）を知る度に、「わかる！」「あ、同じだ！」と共感したり、自分なりに大切なものをつぶやいたりしていた。最後の質問に答えたアゲハ蝶は、友達のモンシロチョウが蜘蛛の巣に引っ掛かり、母親の前で命を亡くしたことを語り始める。物語を読み終えると、児童たちは自然に、なぜ命が大切なのかを語り始めていた。命は儂くて脆いもの、今を大切に生きること、勉強を頑張ることは命を大切にすることになる等、様々な意見が飛び交っていた。

342	中	小1	道徳	「おおきく そだって」 (生命の尊さ)	「ちいさなふとん」のお話を通して、自分自身の成長を感じるタイミングについて考えさせた。自分の生活を振り返ったり、友達の成長した話を聞いたりすることで、体の成長はもちろん、心の成長にも気付いた。例えば「友達との関わりの中で、譲ったり、思いやりをもった行動をしたりすることができるようになった」ということがあがった。振り返りの活動を通して、自分の成長を実感することができた。また、これからの自分にも目を向けさせることで、今までの成長以上にこれから成長していくことができるのではないかと、今後の自分の成長に期待をもてるようになった。	
343	中	小複合	道徳	いのち 「みんな赤ちゃ んだったんだ ね」	赤ちゃんクイズ（先生たちの赤ちゃんのころの写真をもとに、どの先生か当てる）で、「みんな赤ちゃんだったこと」に実感を持てるように導入。 2ヶ月の赤ちゃん人形（実際の重さ）を、児童一人ひとりが抱き、みんな大事に育てられたことについて想像を膨らませた。絵本「つながってる～いのちのまつり～」を読み聞かせし、大事ないのちが、ずっとずっとつながっていることを知り、いのちの大切さについてじっくりと考える時間を設けた。	
344	中	小1	道徳	「ダンゴムシ」 のいのち	図書室にある、ビッグブック「ダンゴムシみつけたよ」を読み聞かせる。普段小さなダンゴムシを、絵本で大きく見ること、ダンゴムシの住処、エサ、赤ちゃん、天敵などを知り、ダンゴムシの世界に入って行く。展開後段には、ダンゴムシへの手紙を書いた。「がんばってね。」「人間のくらしと案外にているんだね。」「一生懸命に生きてるね。」小さいいのちの尊い命を考えた。	
345	中	小2	道徳	いのちのつながり	特別の教科道徳「14 ぴよちゃんとひまわり」では、いのちのつながりについて考えを深めた。教材を通して、「なくなったひまわりは幸せか、幸せじゃないか」をテーマに、話し合い活動を行った。幸せではないと考える児童からは、「死んだら生きかえることができない」や「もうぴよちゃんに会えない」という意見が出た。それに対して幸せと考える児童からは、「天国で見ているからぴよちゃんたちが笑顔なら幸せ」や「なくなってしまったけど、思い出すと心の中にずっと一緒にいる」、「ひまわりはなくなったけど、赤ちゃんの種が大きくなっているから幸せ」という意見も出た。話し合いを通して、目の前の命の大切さに気づくだけでなく、「いのちのつながり」について考えを深める学習だった。	
346	中	小1	道徳	生命の尊さ	ノンノンがある朝体調を崩し、大好きなにんじんも食べられなくなってしまい、次の日の朝、体調がよくなったとき、いろいろなことが素敵に思えたというお話を通して、自分の生命と健康を大切にしようとする心情を育てることをねらいとした。 ノンノンと自分を重ね合わせて考え、体調がわるいときには、友達に会いたくなったり・好きなものを食べられないことがつらい、という意見が活発にでた。振り返りでは「いつも元気でいたい」など、元気でいることの大切さについて話し合った。	

347	中	小2	道徳	生命の尊さ	<p>生後3か月のいとこを抱っこしたことをきっかけに、自分の赤ちゃんの頃の話聞いて自分の命について考えた「ぼく」の姿を通して、命の大切さを改めて理解し、かけがえない命を大切にしていこうとする心情を育てることをねらいとした。</p> <p>現在、生活科の学習で自分の小さい頃の話が家族に聞いていることもあり、多くの児童が自身と重ね合わせ、自己をふり返ることができた。一つしかない自分の命をこれからも大切にしていきたいという思いをもつことができた。</p>	
348	中	小4	道徳	「電池が切れるまで」	<p>自分たちと同じくらいの年齢の子が病気で苦しむ中でも周囲に対して思いやりを持ち、自分に負けずに前向きな言葉を発し続けた実話にふれて、自分自身の限りある命を精一杯、生きていこうとする気持ちを持つことができた。</p>	
349	中	小2	道徳	生命の尊さ	<p>主人公である、ひよこのびよちゃんが、ひまわりの種が成長し、やがて花が咲き、そして枯れていく姿を見て、命のつながりに気づくという題材で「1つの世代から次の世代へと、生命が受け継がれていることに気づき、失ったら2度とはもどらない生命の大切さについて深く考えることをねらいとした教材を取り上げ、児童は、話し合っていく中で「いのちのつながり」について深く考えていた。</p>	
350	中	小3	道徳	せいっぱい生きる「六さいのおよめさん」	<p>病気に負けずに強く生きてきたケイコちゃんや、それを支え続けたお父さんの気持ちを考えるを通して、限りある命の大切さを学ぶことができた。また、お父さんが、ケイコちゃんが亡くなった後、命の授業をしていることを紹介し、亡くなってしまった命でも、命の授業を通して私たちにつながっていくことを知る活動となった。ケイコちゃんが生きられなかった分も強く生きていきたいと感じることができた。</p>	
351	中	小複合	道徳	生命の尊重 『いのち、どうとく？～わたしのいもうと編～』	<p>「相手の命は、誰かにとって大切な命」をテーマに授業を行った。「死ね」や、中指をたてる行為が何故禁止されるのかを考えた。なかなかテーマに沿った気付きが出にくいと予想し、『わたしのいもうと』を読み聞かせた。あくまで『妹』を中心として登場人物の気持ちを考察し、妹は『私』と『母』に愛されていたことに気付かせたうえでもう一度自分の大切な存在の命を大切にするにはどんな行動が起こせるのかを考え、発表した。また、紙風船を使って心の動きについて学習した。ふわふわ言葉やポジティブな感情に傾いたときには心は膨らむが、逆にちくちく言葉やネガティブな感情に傾くと潰れてしまうことや、その状態からだとなかなか心は膨らまない（元に戻らない）ことを視覚的に捉えた。</p>	

352	中	小3	道徳	生命の尊さ 『六さいのおよめさん』	<p>「かがやかせよう いのち」という視点を持って、「心にひびくかねの音」とユニット教材として取り組んだ。「せいいっぱい生きる」とはなんだろうという発問を軸に進め、なぜ命は大切にしなければいけないのかを考えた。</p> <p>幼くして小児がんと闘ったケイコちゃんの死をお父さんはどんな気持ちで見送ったのだろうかと考え、残された人の寂しさや、悲しさに気づき、自身にもその死を悲しむ人がいることを共有した。命はなぜ大切にしなければならないのだろうかという発問に対して、「命は一人に一つしかない」や「命には未来があるから」という考えを持つことができた。だからこそ、一日一日を大切にせいいっぱい生きなくてはならないと、生きていくことを前向きにとらえようとする姿があった。</p>	
353	中	小2	道徳	生命の尊さ	<p>道徳の「ぴよちゃんとひまわり」では、教材から命のつながりについて考えた。ひまわりに対するぴよちゃんの気持ちの変化を通して命の大切さを考えるものだった。登場人物の気持ちを理解するためにぴよちゃんとひまわりをグループで役割分担をして音読した。そのことで、ぴよちゃんの気持ちに寄り添うことができた。最後に「いのちのまつり つながってる」という本を読み、命を受け継いできて、自分たちも同じようにつなげていくものだと思った。担任が妊婦だったこともあり、命が育っていく過程を目の当たりにし命を大切にしていこうと思えた。</p>	
354	中	小2	道徳	生命の尊さ	<p>主人公のひよこが、食べようとしていたひまわりの種の世話をし仲よくなるも、ある日ひまわりはかれてしまってひよこは悲しむが、次の夏、一面のひまわり畑になったという内容の教材文を読んだ。役割演技をすることで、ひまわり畑を見たひよこの気持ちを考えた。「ひまわりさんの子どもが成長してよかった」「ひまわりさんと同じ笑顔だ」などの意見が出た。また、いのちのつながりについて考えるところでは、飼っていたカナヘビが死んだときに卵が残っていたことや、自分の顔が父親に似ていることを挙げる児童もいた。伝え合いの中で、自分達の生活を振り返り、命のつながりを感じる場面を見つけることができた。</p>	
355	中	小6	道徳	生命の尊さ	<p>11歳で骨肉腫が見つかり、13歳で亡くなった猿渡瞳さんの教材文を読み、命の尊さを考える授業を行った。「生きる」とは何かを授業の初めと終わりに問いかけることで、「生きる」ことについてどのように捉えられたかを整理させた。また、瞳さんが行った弁論大会でのスピーチの動画を見せることで、瞳さんの強い思いが伝わるようにした。癌で亡くなるという自分の身近では無い題材であり、児童たちにとって架空の話として遠いものになることも考えられる。それを避けるため、最後は自分の生き方を考えさせる。生きたくても生きられない人がいるという事実を知り、今健康に学校で過ごしていることへの感謝やもっと努力をしたいなどの思いが持てるような終末にした。</p>	

356	中	小2	道徳	「いのちのつながり」	「ひよこのびよちゃんは、食べようとしていたひまわりの種の世話をしななよくなったが、ある日ひまわりは枯れてしまう。びよちゃんは悲しむが、次の夏に丘は一面のひまわり畑になった」というお話を読んで、生命のつながりについて考えた。ひまわりに対するびよちゃんの気持ちが「食べたい→大切にしたい→いなくなって寂しい」と変化していることを感じ取り、そんなびよちゃんの気持ちを想像していくことで、生命に対して愛情をもって接することの大切さに気づくことができた。	
357	中	小3	道徳	家族愛 「いのちのまつり」	沖縄のお墓参りの特徴を伝え、先祖への感謝の気持ちを踊りや歌で伝えることを確認した。また、父、母、祖父母もご先祖様であることも確認し、ご先祖様を数えたときに主人公がどんなことを思ったのか考えさせた。「支えてくれた人がたくさんいる」「こんなにたくさんの人に命をもらったんだ」「自分の命はすごい」という感想が出て、ご先祖様を大切にしていこうという気持ちや命を受け継いでいこうという気持ちを引き出した。	三線のBGMを流すことで沖縄の雰囲気を出した
358	中	小4	道徳	生命の尊さ 「レスキュー隊」	レスキュー隊員の仕事内容を知る。レスキュー隊員の気持ちを想像することから、生命の唯一性や有限性による尊さについての自覚を促す。自分の生命を危険にさらしても、災害救助を行うレスキュー隊員の様子から、誰の生命であっても、大切にしなければならないという気付きが生まれた。また、学習後のふり返しには、自分の生命はもちろん、友達や、周りの人の生命も大切にしたいという思いを書いた児童がいた。	小学道徳 ゆたかな心 4年
359	中	小1	道徳	植物の成長	「あさがおにも『いのち』があり、大切に育てられる中で、その『いのち』が繋がっていることを知るとともに、自分の『いのち』も、他の『いのち』も、誰かの『いのち』と繋がっていることに気づき、『いのち』の繋がりに感謝しながら、生活できるようにする」ことをねらいとして学習を行った。 あさがおは、しばむ前に種を残して、いのちを繋げていることに着目した。そこから、自分や他の人のいのちも繋がっていることについて学習を行った。 最後に、自分の『いのち』について考え、ふり返しを行った。	
360	中	小4	道徳	生命の尊さ	「命」の詩を読み、せいっぱい生きるとはどういうことかについて考える授業実践を行った。重い病気を患った女の子が書いた詩を読み、命の大切さについて考え、また今の自分はせいっぱい生きているのか、自分にとってせいっぱい生きるとは、今できることはなにかということについて考えた。児童は、生きていたくてもそれがかなわない人がいるということ、自分が今元気に学校に来ているのは当たり前ではないことに気付き、もっといろいろなことに挑戦したり、勉強を頑張りたいなどと考えていた。	小学道徳 ゆたかな心 (光文書院)

361	中	小4	道徳	せきが空いているのに	「親切、おもいやり」をテーマに授業の実践を行った。授業を通して日頃の思いやりについて考える機会を得た。思いやりというキーワードを深掘りをしたことで、相手のことを考えて行動することが実感を伴った気づきとして児童の心に残ったと思う。「先生、俺振り返り結構書けたよ。」と満足げに伝えに来た児童がいた。相手がいることで実感できる思いやりの心。自分も相手も大切にできるということをこれからも大事にしてほしい。今回の授業を通して、自身の言動を振り返り、これからも思いやりのあり方を考えることができるよう、引き続き見守っていきたい。	小学道徳 ゆたかな心 (光文書院)
362	中	小4	道徳	命をすくう	命を救う仕事をする人たちについての教材「レスキュー隊」を読み、命の大切さについて考えた。レスキュー隊の方々の「人の命を救いたい」「尊い生命を救いたい」という強い思いについて知り、考えを深めた。授業を通して、自分の命も他者の命も同じように考えたり、「命はかけがえのない大切なものだ」と考えたり、「大切にしよう」と考えたりする児童がいた。	小学道徳 ゆたかな心 4年(光文書院)
363	中	小6	道徳	「いのちの授業」	助産師さんをお招きし、いのちの誕生について話を聞いた。生まれる前の鼓動の音を聞かせてもらったり、産声は風船を一気に10個膨らませるほど苦しいことであることを教えてもらったりして、自分たちが一生懸命いのちとして生まれてきたことを知った。「みんなは生きているだけで100点満点」という言葉を何度も言って頂いた。振り返りでは、いのちの誕生がどれだけ奇跡的なことで、どれだけ頑張ったのかを知り、自分のいのちの大切さに気付いていた。保護者の方にも来校いただき、子ども達と一緒に参加していただいた。宿題として今日聞いたことと、思ったことをおうちで伝える取り組みを行い、家族でいのちについて考える機会にもなった。	
364	中	小6	道徳	「いのちのつながり」	ダウン症の主人公に関わっていく、家族や友達の姿から、人とのつながりによって輝いていくいのちについて考える学習を行った。これまでのいのちの学習では、過去から未来につながっていくという連続性や、一度しかない人生について考える有限性についてを扱ってきた。本授業では、人と人とのつながりに焦点をあて、自分の周りの人の存在に目を向ける活動を行ったため、子ども達は特に自分事として捉えることができていた。人はお互いに関わりあう中で、幸せを実感できるということに気付くことができた。	

365	中	小5	道徳	生き続ける灯 「障害に負けず 懸命に生きた2 1年」	<p>二宮町に生まれた、生まれつき聴覚障害があった秋澤瞳さんの、21歳という短い人生を教材とすることで、目標をもって生きることの大切さや、人はその人を取り巻く人との関わりの中で助け、助けられ充実した人生を生きていくこと、さらには命は永遠ではなく、自分の意志とは関係なく、途絶えてしまうこともあるということなども考えさせることとした。</p> <p>授業では児童に、2つの質問を設定した。1つ目の「なぜ障害に負けず瞳さんは頑張れたのか」に対しては、「両親が障害に関わらずいろいろな経験をさせたから。」や「たくさん人の助けがあったから。」「自分が頑張ることで障害を持った他の人のためになると思った。」などの感想が見られた。2つ目の「21歳で閉じてしまった瞳さんの人生をどのように思いますか」という質問に対しては「悲しい。」や「信号無視をした車がひどい。」などの他に「短い人生であったが楽しかったのではないか。」など、一生懸命に生きた人生を肯定的に捉える感想もいくつか見られた。</p> <p>人生の価値は長い短いではなく、その時間にどのように充実した生き方をしたかということである。小学生は、命が突然途絶えるということは、現実的に遠いところにある。しかし、命は有限であること、1日1日をしっかり送ることが人生を有意義にするための一番の方法であることを話し、授業のまとめとした。</p>	
366	中	小6	道徳	生命尊重 「自分自身がか んばって生まれ てきたかけがえ のない大切な存 在であること」	<p>「助産師」の仕事についての説明を聞いた後、自分にとって一番大切なものは何かを考えた。家族や友達、そして命という意見などが出た。その後、理科の学習を振り返りながら命の始まりである受精卵の大きさを折り紙を使って確認した。その小ささに驚く様子が見られた。次に赤ちゃんの人形抱っこ体験や胎児の心音を聴く体験をした。最後にまとめとして自分は頑張って生まれてきたかけがえのない存在であり、「生きているだけで100点満点」という話を聞いた。</p>	講師は 助産師さん、保健師さん
367	中	小6	道徳	生命の尊さ	生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てた。	新しい道徳「東京大空襲 の中で」（東京書籍）
368	中	小6	道徳	生命の尊さ	人間や動物の生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする態度を育てた。	新しい道徳「命の重さは みな同じ」（東京書籍）
369	県西	小2	道徳	たいせつな命	<p>教材を読みながら、「自分の命」について考えることができていた。児童から「ぼくの命はいろんな人に大切にされてることが分かったから、自分ももっと大切にしていきたい。」という発言が出てきた。学習の終わりには「家族にいつも大切にしてくれて、ありがとうと言いたくなった。」と家族や周りの人の思いに気付き大切にしようとして振り返っている児童が多かった。</p>	東京書籍 新しい道徳 「たんじょう日」
370	県西	小1	道徳	「自然愛護」	<p>「すみれとあり」を読み、植物や虫が一生懸命生きようとしていることに気付いた。身の周りの生き物を思い出し、命を大切にすることについて考えた。「虫は見たら逃がす」「虫を殺さない」「木を折らない」など多くの考えが出た。</p>	(株) Gakkenn 新版 みんなのどうと く1

371	県西	小1	道徳	「生命の尊さ」	「みんなあかちゃんだったよ」を読み、自分が成長したことについて考えた。一人で食べたり走ったりできるようになったことから「いのちってすごいな」と気づいた。親への感謝の言葉も出た。	(株) Gakkenn 新版 みんなのどうとく1
372	県西	小6	道徳	生命の尊さ 「命を見つめて」	教材では、限られた命を輝かせて生きることや死を意識しながらも生を全うする気高さに触れ、みんなで話し合った。最後まで自分の生き方を追求する姿に共感し、命を輝かせて生きることのすばらしさについて気付くことができた。	学研 新みんなの道徳
373	県西	小4	道徳	生命の尊さ 「ぼくのおばあちゃん」	導入では、命をかけたがえのないものだと思ったことを出し合い、命について考えることを知らせた。入院したおばあちゃんの命とおばあちゃんを見守る「ぼく」や周りの人たちの思い、願いを知ることを通して、命は身体と共に思いも受け継がれていくものであり、決して自分だけのものではなく、与えられ、命をつなげていく必要があることにも気付くことができた。	学研 新みんなの道徳
374	県西	小3	道徳	いのちのまつり	誕生日に何をするか児童に問い、「ケーキを食べる」「何か買ってもらう」などの児童の声を聞き取ったあと、教材を範読し、命は続いていくけど、誕生日を迎えられなかった命もあることを児童に問う。年間の生後まもなくから1年以内に死亡する乳児の数を発表し、見たくなくなったら見なくていいことを事前に伝えて、生命誕生（母の表情よりも看護師、医者従事者を主とした）の動画を視聴した。次の誕生日に何をしたいかを児童が書いた文章の中には、母への感謝、先祖への感謝、医療関係者への感謝をふりかえる児童が多くいた。母親と同居していない児童がいないことを確認後、実施している。	道徳推進教師として、3、5年生では、年間7回の授業を実施した。
375	県西	小5	道徳	命と向き合う人生	誕生日に何をするか児童に問い、「ケーキを食べる」「何か買ってもらう」などの児童の声を聞き取ったあと、教材を範読し、獣医の仕事も大変だけど、人間誕生の時の医者も大変であることを確かめた。また動物にも人間にも誕生日を迎えられなかった命があることを児童に問う。年間の生後まもなくから1年以内に死亡する乳児の数を発表し、医療従事者だけが大変なのか？ほかに大変な人はいないかを考えながら生命誕生（母の表情と看護師、医者の動き中心）の動画視聴とした。児童の実態から、特に母の出産の大変さに重きを置き指導した。母へ「次の誕生日ではありがとうがほしい」など母への感謝をふりかえる児童が多くいた。クラスでは母親と同居していない児童がいないことを確認後、実施している。	道徳推進教師として、3、5年生では、年間7回の授業を実施した。
376	県西	小複合	道徳	多様性と認め合い	聴覚障害者と視覚障害者、それぞれの立場の方の話を全校で聴いた。健常者の立場では当たり前になり、できることに感謝するということが気づけなかったことを話してくださった。また障害があると困ることもあるが、できることも多く、健常者と変わらない生活があることも知ることができた。障害の有無に関係なく、命は等しく同じであり、みな家族がいて同じように生活を送っていることに気づき、考えることができる時間となった。	全校での道徳配布された資料

377	県西	小1	道徳	生命尊重	道徳『みんなみんないきている』の教材を読んで、自分が嬉しかったことや悲しかったことはどんなことなのかについて考えた。自分の命が輝いているときはどのようなときなのか、命が輝けるように応援してくれている人は誰なのかについて意見を出し合った。	『みんなみんないきている』
378	県西	小1	道徳	生命の尊さ	「手のひらを太陽に」の歌詞をもとに、生きることや命の輝きについて考える単元である。 本学級では、みんなで歌を聞いたり歌ったりした後、アンパンマンの絵やその作者の写真を見て、その歌にどのような願いが込められているかを共通理解した。それを受けての話し合いを通して、「いのちがあるから、喜んだり悲しんだりできるのだな」「自分たちが元気でいられるように、いろいろな人が応援してくれているのだな」ということに、気づくことができた。	教材文 「みんな みんな いきている」 歌 「手のひらを太陽に」
379	県西	小4	道徳	生命尊重	教材文の主人公とおじいちゃんとの会話を通して、人は多くの命に支えられていること、命にはいつか終わりが来るので毎日感謝して精一杯生きようという心情を育てた。	道徳「わたしのいのち」
380	県西	小3	道徳	「どうか、生きていてくれよ」	12月、社会科の「災害からまちを守るために」の学習において、火事から地域を守るための取り組みに関心を持ち、消防署や地域の人々の取り組みについて調べる中で、地域や自分の身を守る大切さについて考えていった。そこで、道徳の「どうか、生きていてくれよ」という学習と関連させながら、生命の尊さについて取り上げた。登場人物の消防士の行動から自分の命を大切にしていると思うか議論する場面を意図的に取り入れたことで、自分の命、他者の命どちらも大切であることに気づくことができた。	社会科の学習で消防署を見学
381	県西	小6	道徳	「命を見つめて」	「命を見つめて」は実話であり、主人公は児童と同年代である。癌と闘い、必死に生き続けようとする姿、そして弁論大会の作文に込められた思いは、児童の心をゆさぶり、命の大切さや生きるとは何かについて様々な視点から話し合い、考えることができた。話し合いの後、主人公の弁論大会の動画を流すと、どの児童も真剣に主人公のスピーチに聞き入っていた。振り返りの時間では、「生きる」とはどのようなことかについて、児童が改めて自分と照らし合わせて実感を持って考えを深めていく姿があった。	YouTube「命を見つめて」弁論大会を視聴
382	県西	小3	道徳	生命の尊さ	教科書のコラム「ことばのたからもの」にある相田みつをさんの「いまここにしかないわたしのいのち あなたのいのち」の詩を読み、命の大切さを感じる時はどんな時か、命をテーマに考え、話し合った。 話し合いを通して広がった命に対するそれぞれの思いを、学習後に詩で表現した。短い詩、長い詩、それぞれではあったが、かけがえのない命について一人ひとりが自分の言葉で表現することができた。 また、全体で共有することで、命の尊さ、一生懸命生きることについて、さらに考えを深めることができた。	道徳の教科書

383	県西	小1	道徳	生命の尊さ	「てのひらをたいように」の歌詞を読み、「みんな、みんな、生きている」という歌詞から命の輝きについて話し合った。喜んだり悲しんだりしながら、いろいろなことができる命の素晴らしさを伝えるとともに、やなせたかしさんのように、命が輝けるように応援してくれている人を見つけ、発表した。	・やなせたかしさんの写真とアンパンマンの挿絵 ・「てのひらをたいように」CD
384	県西	小5	道徳	一枚の写真から	授業の最初に、2枚の集合写真を配った。1枚は5年生の4月に撮った写真、もう一枚は3年生のときに撮った写真である。どちらも同じアングル(桜の下)で撮っており、子供たちは写真に見入っていた。 「自分たちの成長は？」という学習課題を設定し、話し合った。初めは見た目の成長に関する発言が挙がった。話し合いを進める中で、「ここまで大きくなったのは、家族のおかげ。」「もらった命を大切にしたい。」などの発言が挙がった。 最後に書いた子供たちのふり返りからは、自分の成長や家族への思いが大きく広がっている様子を感じられた。	
385	県西	小2	道徳	たからものなあに	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にするという題材だった。自分の生命は、周りの人々にとっても大切な物であることに気づき、かけがえのない生命を大切にしようとしていこうとする思いがもてた。	新みんなのどうとく2 (学研)
386	県西	小5	道徳	生命の尊さ 「命をかけて命を守る一山岳警備隊」	教材文「命をかけて命を守る一山岳警備隊」を読み、命の尊さ、その命を守るために働く人の思いについて考えた。自分の命をかけても、他者の命を助けようとする山岳警備隊について、「自分だったらできない。」「でも誰かがやらないと…って思ってる。」など自分ごととして考える姿が見られた。自分たちの周りにも、自分たちの命を支えている人たちがいることに気付くとともに、かけがえのない自他の命を大切に生きていこうと意欲を高めた。	光文書院 ゆたかなこころ5 「命をかけて命を守る一山岳警備隊」
387	県西	小1	道徳	生命の尊さ	「手のひらを太陽に」は、「ぼくらはみんな生きている…」という歌詞から命の輝きを具体的な言葉で感じ取ることができる教材である。「うれしいんだ」「かなしいんだ」などの言葉から、日常では当たり前と感じる感情は、生きているからこそ感じ取ることができるすばらしい感情であると自覚することができた。そして、やなせたかしさんの「みんながげんきにすごしてほしい」という思いから、自分を応援してくれる人について考え、自分の命が輝けるように多くの人が支え、応援してくれていることに気づくことができた。	光文書院 しょうがくどうとく ゆたかなこころ 1ねん 「みんなみんないきている」

388	県西	小5	道徳	生命の尊さ	秋田県動物管理センターの所長さんは「捨てられてしまった動物たちの病気やけがを治し、命を救うこと」「動物とふれ合う喜びに改めて気づいてもらうこと」を目的に保護活動を行っている。本学級の児童の中にも、ペットを飼っていたり、牧場や動物とふれ合える店などに行ったりする児童が少なからずいた。教材を通して、そんなに可愛い動物たちがたくさん捨てられてしまっていることを知り、ショックを受ける児童も多くいた。これから、どのようにして、身近な動物とふれ合っていくかについて真剣に考えることができた。また、動物だけでなく、他者や自分の命も大切にすることでどんな命も大切にしていけることができると考えることができた。	光文書院 小学 道徳 ゆたかな心 「命と向き合う人生」
389	県西	小3	道徳	いのちの重さについて (消防士のお話を読んで)	消防士が、自分の命を危険にさらしながらも、子どもを救い出す、という内容の資料を読んで話し合いをした。「消防士さんは自分の命を大切にしているか」と発問し、4段階で選ばせた。理由を聞くと、「子どもの命の方が大切」という意見が出た一方で、「消防士自身の命は大切にしているとは言えないかも」という意見も出た。話し合いを通じて、相手の命はもちろん、自分の命も大切に生きていく姿勢が大切であることを学ぶことができた。	光文書院 ゆたかな心 3年 「どうか、生きていてくれよ」
390	県西	小複合	道徳	いのちについて	クラスの児童が校庭でトカゲを捕まえてきて、教室で飼うことになったことをきっかけに、「いのち」をテーマにして授業を行った。まず、いのちとは何かを話し合い、実際に校庭へ出て、いのちのあるものを探した。校庭には昆虫やめだか、植物などがあり、多くのものにいのちがあることを知り、そのいのちあるものを大切にしなければならないということを話し合った。最後に教室で飼っているトカゲのいのちも「大切にしたいね」と話し合って飼うことを決めることができた。	※特別支援学級での実践 3年、5年
391	県西	小3	道徳	いのちとは	ある消防士の行動から、かけがえのない生命を大切にする心について考える物語である。登場人物の自分の生命を危険にさらしてまで、人の生命を救おうとする姿を通して、生命の大切さを学んだ。終末では、「一つしかない自分の生命、これからの人生をどう生きたいか」について考え、児童は、「自分の生命だけでなく、家族や友だちの生命も大切にしたい。」「自分の夢に向かって精一杯がんばりたい。」という思いをもっていた。	光文書院 ゆたかな心3年 「どうか、生きていてくれよ」
392	県西	小3	道徳	「いのち」について考えよう	妊娠8ヶ月の教員から胎児の成長過程や妊娠中の母親の思いを聞いた。さらに、生まれたばかりの赤ちゃんの人形を抱いたり、妊娠中のお腹を触ったりする体験を通して、生命の尊さについて考えた。赤ちゃんの成長の早さや人形の重さに驚きながら、母親の思いとともに、たくさんの人に支えられて成長してきたことに気づき、子どもたち一人ひとりが「いのち」について、その価値や大切さを考えることができた。	T1 妊娠中の教員(校内) 教材 エコー写真や生まれたばかりの赤ちゃんの人形

393	県西	小3	道徳	「いのちの大切さ」について考え、深めよう	5月に行った「命」の授業に引き続き、出産の準備や出産時の様子、赤ちゃんの成長について、出産を経験した教員から話を聞き、命の大切さ、尊さを感じることができた。また、実際に赤ちゃんに触れ合い、自分自身の成長を振り返ったり、家族の支えを改めて感じたりした。そして、大切な命は、自分だけではなく、友だちの命も大切であることを深く感じ、日常生活の中でも相手を大切にしようとする心をさらに育むことができた。	T1 出産を経験した教員（校内） 教材 生まれてきた赤ちゃんの成長の写真、動画
394	県西	小5	道徳	「どうすればいいんだ」（内容項目：公正、公平、社会主義）	教材を読んだ後、「いつからいじめが始まっていたと思う？」と問うと、児童によってばらばらの意見が返ってきた。そのことから、「いじめは始めようと思って始まるのではなく、いつの間にか始まっている」ことに気づき、そこがいじめの怖いところだ、と共有することができた。さらに、「人によって態度を変えてしまうところがあるのではないか。」と問うと、確かにそういうこともある、と認める様子も見られた。児童は振り返りの中で「自分がやったことが誰かを傷つけたり、その結果命を奪ったりしてしまうのが怖いと思った。」「自分で自分の行動を見直すことが大切だと思った。」と書いた。一人ひとりの大切さについて、また人とのかかわりについても考えることができた。	教材 ・新しい道徳5（東京書籍）
395	県西	小1	道徳	いのちのすばらしさ	教材「ハムスターのあかちゃん」を用いて、生命の尊さに関する授業を行った。ハムスターのあかちゃんが生まれた挿絵をみて、「あかちゃんに話しかけてみよう。」と発問した。「ママのおっぱいをいっぱい飲んで、大きくなってね。」「しっかり育ててもらってね。」など、ハムスターのあかちゃんに優しく声をかけようとする児童がたくさんいた。また振り返りの際、「生き物やお花に優しくする。」「動物の命を大切にする。」などといった思いを発言したり、振り返りシートに書いたりする児童もいた。	教材： 「ハムスターのあかちゃん」
396	県西	小6	道徳	たった一つの命だから	児童は生命の尊さについて、命は大切だということは理解しているが、自分の生活に照らし合わせて実感を伴って考えることができていなかった。そのため、資料を通して、自分が生きていることや身近な家族や友達と共に過ごせることが当たり前ではなく、命があるからこそそのことだと気づかせ、日常の生活を「生命」という視点で捉えさせた。また、指導者の「親を亡くした経験」の説話から、自分の命も大切にしなければならないということを実感した児童も多かった。	
397	県西	小2	道徳	主題名 生きていること 「ぼく」	本題材は、自分自身が存在しなければ、喜びや楽しさを感じることができないことから、生きていることの素晴らしさや大切さに気付いていくことが重要である。本文を読み終えると、子どもたちは好きなこと、ものをたくさん発表し始めた。そのため、黒板の中心に「ぼく・わたし」と書き、その周りに板書するようにした。一人ひとりが言い終えた後に、黒板の中心に書かれた「ぼく・わたし」という文字やイラストを消した。すると、児童がすぐに「それだと全部なくなっちゃうじゃん。」と反応していた。それに続いて、他の児童も「自分がいなかったら何も残らない。」「自分と命が一番大事。」ということに気づき、自分の命を大切にするという思いをもつことができた。	東京書籍 「新しい道徳」

398	県西	小5	道徳	生命の尊さ	教材名「お母さんへの手紙」を読み、重い心臓病の手術を前に、自分の命を精一杯生きてきた主人公の心の動きと、母への感謝と励ましの言葉を綴った手紙から、手紙に込められた思いを考えた。生命のかけがえのなさを自覚するとともに、死の重さについても考えを巡らせ、よりよく生きようという思いを持つことができた。	東京書籍 新しい道徳5年「お母さんへの手紙」
399	県西	小4	道徳	自然愛護	社会科「水はどこから」の学習と関連させ、水源林のはたらきや水源を守る取組を理解させた。トカゲやカマキリの飼育活動に取り組んでいる子どもたちに、動植物や自分たち人間は自然と関わりながら生きていることを改めて実感させ、自分たちがこれからの暮らしでできることは何かを考えさせた。授業後は、山北町の公園で水源林間伐体験を行い、「森を守るためにどうすればよいか」考えることができた。	講師 帝京平成大学教授 東京書籍 4年「ふれあいの森」で 水源林体験 山北町森林組合
400	県西	小3	道徳	生命の尊さ 「いただいたいのち」	血液のがんになった少女が多くの人の支えによって退院することになった様子や、入院中のエピソードが描かれた教材を読んで、考えを広げた。登場人物の気持ちや、今までの自分の生活から、自分が元気に過ごせているのは、周りの多くの人に支えられていたことを自覚したようだった。また、友達の意見やエピソードを聞き、自分だけでなく誰もが大切に思われ、かけがえのない存在であることを感じるすることができた。	新編 新しいどうとく 東京書籍
401	県西	小6	道徳	たった一つの命だから	道徳の内容項目3-(1)「命の尊さ」に関わる学習を行った。教材文「たった一つの命だから」では、骨肉腫を患い、16歳で亡くなった西尾誉佳さんの実話が紹介されている。病気と闘いながらも、今できることを懸命に全うしようとする誉佳さんの様子から、限りある命の中でよりよく生きようとする心情を、児童は学ぶことができた。学習の最後には命についての作文を書かせた。誉佳さんの生きざまに感銘を受け、自分自身のこれからの生き方について考える児童や、これまで病気になった経験を振り返り、命の大切さについてより強く考えるようになった児童など、さまざまな視点から、それぞれの児童が命について、作文に書き表すことができた。	東京書籍 「新編 新しい道徳6年」
402	県西	小1	道徳	「おたんじょうびカード」	子どもたち自身が自分が生きていることで、周りの人を幸せにしていることに気付いた。毎日の生活が当たり前に行っていることに感謝し、周りの人にも幸せにしてもらっていることにも気付くことができた。 今後生活する中では「自分を大切にすること」が重要だと考え、本時の学習のまとめとなった。学習を通して、生命を大切にしようとする心情が育まれた。	東京書籍「新しい道徳」 指導は各担任
403	県西	小6	道徳	生命の尊さ 「たった一つの命だから」	病気の中でも人生を全うした人の生き方を知り話し合いを行った。その中で心に残ったことを話し合った。児童の中には自分の今の状況との違いを感じ、「もしも自分がその立場になったら生活することができないかもしれない」と自分事としてとらえることができたとともに、困難な状況であっても生を全うすることの大切さや自分が幸福であるということを感じていた。振り返りの中では、これから生きていく中で大切にしていきたいことをそれぞれが考え、これから自分が何をしていきたいのかを考える児童もいた。	東京書籍 「新編 新しい道徳」

404	県西	小3	道徳	命を大事にするって？ 「六才のおよめさん」	授業冒頭、「命は〇〇」と板書し、その中に入る言葉を考えさせた。子供たちからは、「一つしかない」「大事」「守らないといけない」といった意見が出た。 授業の中心は教材文を読み、読み終えた感想を伝え合い、その中から話題を決めて話し合い、最後に命について改めて考えたことを振り返りとした。話し合いでは、主人公の「今自分にできることを精一杯やる」という生き方を、命を大切にすることの一つの方法だと感じた子が大半を占めた一方、「寿命が縮まるような行為は正しいのか」という疑問をもつ子もいて、「どうすることが本当に命を大切にしたことになるのか」という話題で話し合ったことで考えがより深まった。	道徳 副読本 『六才のおよめさん』
405	県西	小2	道徳	生きていること 「だっこしながら」	今回のねらいは、生きることのすばらしさに気付くことである。教科書を範読後、感想を聞くと「お父さんやお母さんに大事にしてもらったからうまれてこれた」という意見や「私達も同じように子供を残していきたい」といった意見が出た。その後「生きていて楽しい時はどんな時か」を話し合った。順番に発表してもらうと、家でゲームをしたり、家族や友達と遊んだりしている時が楽しいという意見が多く出た。そこから、親からもらったいのちのバトンを繋いでいくことも大切であるが、友達と仲よくしたり、自分が好きなことを楽しんだりすることも生きることのすばらしさであると気付くことができた。	道徳 副読本 『だっこしながら』
406	県西	小4	道徳	「いのちをいただく」	「いただきます」とは、どんな意味があるのか。子どもたちに問うことから始めた。結果「いのちをいただく」ことから使っている言葉だという事で題材「いのちをいただく」につなげた。題材は、食肉センターに運ばれてきた一頭の牛の話である。共に育った女の子が悲しい表情を浮かべ謝りながらも、その牛の命の大切さに感謝の気持ちをもっていたところで終わる。食べ物が豊富な時代に、食べ物の有り難みを伝えるのは難しい。その中、有り難みを伝えるのは「命」だと考える。そして、食べるということは生きることにつながる。子どもたちは、心を込めた「いただきます」の挨拶や食べ物を残さず食べるという思いを伝え合い授業を終えた。	「命をいただく」 Youtube 読み聞かせ用
407	県西	小3	道徳	「いのちのまつり」 ～ヌチヌグスー ジ～	旅行先の沖縄で珍しい光景を目にした男の子が、その後、地元のおばあちゃんから聞いた、自分とご先祖様のつながりを考えていた。ヒト遺伝学アプリを用いて、子どもたちも男の子と同じように、自分とご先祖様のつながりについて考えた。タッチで反応することで、ご先祖様とは何か、もし一人でもご先祖様がいなかったら、自分の命が途切れていたことを理解していた。昔の人から受け継がれてきた命だということアプリを通して学び、「自分の命をもっと大切にしたい」と思う子どももいた。	ヒト遺伝学アプリを活用した小学校授業実践事例集